

「災害遺構」の収集及び活用に関する検討委員会

報告書

平成28年3月

内閣府（防災担当）

「災害遺構」の収集及び活用に関する検討委員会 報告書

目次

序章	1
1. 調査・検討の目的	1
2. 「災害遺構等」の活用の意義	1
第1章 災害遺構等の活用の基本的考え方	2
第1節 「災害遺構等」の定義・範囲	2
第2節 本調査における「災害遺構等」の総称	3
第3節 「災害遺構等」の活用の留意事項	8
第2章 「災害遺構等」とその活用の取組の収集・整理	11
第1節 「災害遺構等」の事例、活用の取組の収集の方法	11
第2節 事例・活用の取組の体系的な整理	11
第3章 「災害遺構等」の活用促進と支援方法	28
第1節 災害遺構を活用した活動例の効果的な提示方法	28
第2節 「災害遺構等」の活用の支援方法	30
第4章 「災害遺構等」活用の取組のホームページでの紹介	38
第1節 基本的な考え方	38
第2節 各階層のイメージ	41
第3節 第3階層（具体事例）のイメージ	50
第4節 コラムのイメージ	56
おわりに	61
資料	62
(1) 災害遺構事例集	64
(2) 委員名簿	126
(3) 委員会開催日程	127

序章

1. 調査・検討の目的

例えば、岩手県宮古市では、昭和三陸地震の津波被害の教訓を刻んだ石碑が建てられているが、この石碑より高い場所に住居を構えた住民は、東日本大震災の津波による建物被害を受けなかった。このように、過去の災害時に残された「災害遺構等」を通じて得られる教訓を次世代に受け継いでいくことは、災害被害を軽減する上で極めて重要である。

しかしながら、現状では、全国において現存する学術的にも価値がある「災害遺構等」について、ある程度素材は集まっているものの、広く専門家以外の方にも高い関心を持ってもらえる状況にはなく、活用方策や活用促進策について体系的に整理されていないこともあって、「災害遺構等」が必ずしも防災意識の向上に活用されていない。

我が国では、南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模災害も数十年以内に発生する可能性が高いとされているなど、大規模災害への備えを高める必要がある状況にあることから、より多くの国民（特に若年層であるが、各世代を対象とする）に向け、「災害遺構等」に関する普及・啓発を促進することをめざす必要がある。

このため、本調査・検討においては、まず、「災害遺構等」の有する意義を再認識し、活用対象とする「災害遺構等」の範囲について整理し、総括的な「災害遺構等」の名称を提案する。次に、各地域で行われている「災害遺構等」の事例や地域での活用の取組、各研究機関が行っている収集・集約の取組について情報収集し、情報の一元化・蓄積を行う。さらに、それらの優れた活用事例や活用の促進策を内閣府等のウェブサイトに掲載して周知・広報を行う具体的な提案を行うこととする。

2. 「災害遺構等」の活用の意義

災害遺構等とは、過去に災害で被害にあった人達が、その災害からの教訓を将来に残したいと意図して残された（保存活動が行われてきた）構築物、自然物、記録、活動、情報等である。そのような意図が含まれている「災害遺構等」の活用は、このような思いを受け止め、当該地域の災害に対する認識を高め、防災力の向上につなげられるという意義がある。

この意義を具体的に要素に分けて挙げてみると、例えば、

- 1) 地域の災害危険性や災害特性について住民の理解を進める意義
 - 2) 社会がしかるべき対応をすれば災害被害を軽減できることを住民が理解する意義
 - 3) 地域の災害経験を更に将来に向けて伝承していくのに役立つ意義
 - 4) 類似の災害危険性のある地域で防災意識の向上や対策を推進する素材となる意義
- などの要素があると考えられる。

第1章 災害遺構等の活用の基本的考え方

第1節 「災害遺構等」の定義・範囲

1. 本調査検討における定義・範囲の考え方

(1) 調査検討の意義からの定義・範囲

本調査検討では、「災害遺構等」の意義を地域の防災力の向上、防災教育につながられるという点でとらえている。そこで、本調査検討における「災害遺構等」を「災害の事実を伝え、地域の災害の記憶を喚起することができるモノ・活動・情報」として考え、「災害遺構等」の範囲は、地域の防災力の向上、防災教育につながられるものであれば、幅広く設定してよいと考えられる。このため、災害遺構等としては、人為的に作成されたもの（著名なものであれば文化財、史跡に該当するようなもの）と、自然に形成されたもの（著名なものであれば、天然記念物、名勝に該当するようなもの）のどちらも対象とする。

(2) 原因となった災害の発生時期からの調査検討の範囲

本調査検討では、発生から時間が経過し、地域・コミュニティにおける記憶が薄れてきた、あるいはほとんど忘れられていた災害で、その災害遺構等が当該災害の記憶を改めて喚起し、それがこれからの地域防災力向上のきっかけになるものを主な対象とする。すなわち、その災害遺構等との出会いが活動者の知らなかった事柄の発見、驚きとなり、防災力の向上が歴史や地域特性を知る活動としても進められる機会を広げようとするのが、本調査検討の意図である。

2. 災害遺構等に含まれるものの類型

具体的には、本調査検討が対象とする災害遺構等には、具体的には次のような類型のものが含まれる。ただし、単独の類型に属しているのではなく、複数の類型にわたっている場合も多いことには留意が必要である。

(1) 自然物

① 災害の痕跡

例：地震による隆起（例：元禄地震の房総半島）

目に見える断層（例：根尾谷断層、三河断層）

噴火による泥流の跡（例：浅間山噴火）

洪水の決壊口の跡（例：カスリーン台風）

津波で内陸に運ばれた津波石（例：沖縄の津波石）

② 災害痕跡のサンプル

例 液状化の剥ぎ取り地盤（例：清須城・名古屋大学）

③ 災害痕跡の写真、ビデオ

(2) 人為的なもの

- ① 被災した建築物、構築物で保存されてきたもの
- ② 被災後に整備された防災施設や復旧・復興が反映された構造物（例：稲むらの火の堤）
- ③ 災害に関する文字の記載のある記念碑（例：石碑、木板、壁書）
- ④ 災害に関係して製作された象徴的なモノ（例：神体、位牌）
- ⑤ 古文書における災害記録で、現代語に訳されているもの
- ⑥ 災害の状況の記録絵（例：濃尾地震の浮世絵）、記録写真・ビデオ
- ⑦ 地域の災害に関する伝承、言い伝え、説話
- ⑧ 地域の災害に関する歴史的行事
- ⑨ 現代語による災害の記録や体験談
- ⑩ 現在時点で災害の情報を整理して保存しているもの（例：データベース、ガイドマップ）
- ⑪ 現在時点で災害に関するモノを収集して展示しているもの（例：災害の記念館、メモリアルパーク）

第2節 本調査検討における「災害遺構等」の総称

本調査研究では、対象とする災害遺構等について、どのように総称するかについて議論を行った。まず、「災害遺産」、「災害メモリアル」、「災害遺構・災害記憶」が事務局からの候補として提出され、それらを用いることの長所、課題を整理すると以下のようにになると考えられる。また、その他の候補も委員からあがるとともに、名称は取り組みが進んでから決める方がよいのではないかとの意見もあったので、合わせて以下のように整理した。

1. 「災害遺産」

(1) 長所

- ① 過去の大切なものについて「遺産」という言葉を当てることはかなり普及している。また、既にある程度の用例があること（ネット検索による概要は次のとおり）。

用例1：日本大百科全書(ニッポニカ)の解説

<https://kotobank.jp/word/%E7%81%BD%E5%AE%B3%E9%81%BA%E7%94%A3-1700946>

「災害遺産（さいがいいさん）」

大災害の教訓や被災の悲惨な状況を後世に伝えるための遺産。(中略) 防災や減災につながる教訓や事例を長く後世に伝え、100年に一度、あるいは1000年に一度といった大災害に備えることがねらいで、被災のすさまじさを伝える建物などの震災遺構のほか、石碑、文献、伝承などが対象となる。(後略) [編集部]

- ② 用例2：平成22年度「国土交通白書」

(5) 災害に強い国づくり

4) 災害の記録と伝承

(前略)

地震・津波災害、原子力災害の記録・教訓について、中核的な施設を整備した上で、地方公共団体や大学など地元との十分な連携を図り、さらに官民コンソーシアムを活用した保存・公開体制をつくり出すべきである。また、原資料、津波災害遺産などを早期に収集し、国内外を問わず、誰もがアクセス可能な一元的に保存・活用できる仕組みを構築することが重要である。その際、関係する資料・映像等のデジタル化にも取り組み、新しい情報通信技術を用いたフィールドミュージアムの構築も推進すべきである。(後略)

- ③ 用例3：災害遺産 京都新聞

社説：風化に抵抗するために

http://www.kyoto-np.co.jp/info/syasetu/20140713_2.html

地震や津波などに遭った建物、状況を記録した石碑や文献を、政府は「災害遺産」として全国で選定しようとしている。

防災意識を高めるだけでなく、観光資源として地域の活性化につなげる狙いもあるようだ。(後略)

[京都新聞 2014年07月13日掲載]

④ 用例 4：京都大学地域研究総合情報センター

<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/event/?p=90>

国際シンポジウム・ワークショップ 「災害遺産と創造的復興—地域情報学の活用を通じて」

日時：2011年12月21日—2011年12月26日

会場：インドネシア共和国アチェ州バンダアチェ市

④ 参考用例：「震災遺産」

“福島県立博物館を中心に組織されたふくしま 震災遺産 保全プロジェクト” の用例がある。

(2) 課題

今日の日本には、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が認定・支援する世界遺産、世界記憶遺産、ジオパーク（地質遺産）のほか、国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産、国際産業遺産保存委員会の産業遺産、日本機械学会の機械遺産、日本森林学会の林業遺産など、数多くの「遺産」がある。このように「遺産」が多用されている中で、埋没してしまうといった懸念もある。また、優れたものが「認定されるもの」といったイメージが強いため、今回の地域の身近なものの活用という趣旨に合わない可能性がある。

2. 「災害メモリアル」

memorial: 記念碑、記念館、記念物（英辞郎 on the WEB）

(1) 過去の記念となるものについて、ものにかぎらず使えるような用語である。また、既にいくつかの用例がある（ネット検索による概要は次のとおり）。

① 用例 1：災害メモリアル KOBE—次世代に教訓を語り継ぐ会

http://www.dri.ne.jp/memorial_kobe

1. 目的

「災害メモリアル KOBE」は、「次世代の育成」「世代間交流による語り継ぎ」「地域間交流」を行うことによって、「市民の防災力を高める」ことを目的に、毎年1月17日の直前にイベントを開催してきました。（中略）

2. 実行組織

1. 実施主体 「災害メモリアル KOBE」実行委員会（事務局：人と防災未来センター）
（後略）

② 用例 2：シンポジウム『災害メモリアル施設が果たす役割—中越、雲仙、奥尻島から東日本へ—』災害メモリアル施設が果たす役割

シンポジウム

災害メモリアル施設が果たす役割 —中越、雲仙、奥尻島から東日本へ—

中越、雲仙、奥尻島の災害メモリアル施設を事例に、どのようにして地域との合意形成を進めその地に立脚してきたのか、災害メモリアル施設が担う役割、残し伝えるものを検証し震災メモリアルについて検討が始まる東日本大震災の被災地へ向けて発信したいと思います。

日時：平成27年2月3日（火）

会場：アオーレ長岡「市民交流ホールB・C」長岡市大手通1-4-10

- ③ 用例 3：旧大野木場小学校被災校舎 砂防みらい館 火山災害の実態を継承し、建設省利用活用構想 災害メモリアルゾーンの基幹施設としての防災砂防学習施設。

<http://www.nagasaki-tabinet.com/guide/586/>

(2) 課題

カタカナ語であるので、「災害遺産」などに比べるとなじみにくい可能性がある。

3. 「災害遺構・災害記録」

(1) 長所

遺構の意味としては、

- ・古い建造物で今日にその一部が残っているもの。また、古代の構築物の様式や配置などを知る残存物として、土地に残された基壇や柱穴など。（三省堂「大辞林」）
- ・過去の建築物、工作物、土木構造物などが後世に残された状態、言い換えれば過去の人類の活動の痕跡のうちの不動産的なものを指す。現在まで残存している部分のみを言ったり、かつての建造物の構造の痕跡が確認される全体を指したりする。（ウィキペディア）

したがって、遺構とは、物的なものに限って使用されると考えられる。

また、「災害遺構」の用例はネット検索すると相当数存在するが、物的なものに限られるのが一般的と推測される。

このため、物的なもの以外について記述する用語として、「災害記録」などの用語を当てることにより、本調査検討における「災害遺構等」の「等」の意味をある程度わかりやすく示せる可能性がある。

(2) 課題

1 単語でなく 2 単語の並列になるので、その分簡潔さやメッセージ性では劣ると思われ、一般的な語句の並列なので、新味はあまりない。なお、物的なもの以外を示す表現としては、「災害記録」以外に例えば「災害記憶」などの別の言葉も考えらえるであろう。

委員会での議論では、「災害記録」は目に見えない伝承などを含むとイメージしにくいのではないかとの意見があり、一方で、見て記憶が喚起されるものは記録でもよいとの意見もあった。

3. その他、委員から提案された案

(1) 総称の確定をすぐに行わない案

総称は、現段階で決めるのではなく、災害遺構等の活用の取組が進んで、総称すべきものの中身ができてから改めて考えた方がよいとの意見があった。また、活用対象の概念は示すものの、名称を決めない方がよいかもしれないとの意見もあった。

(2) 大げさでなく小さな取組を含みうる一般的な名前が良いとする案

今回の取組をきっかけに新しい意味を付与する総称を決めたほうがよいとしても、大げさな名前ではなく、たくさんある小さな活動を拾い上げられる普通の名前の総称が望ましい。例えば「災害歴史教材」、「歴史災害教材」など、防災教育における歴史的な遺構や記録の活用という、目的を示す普通の名称を用いれば、小さな取組も含まれると理解されやすいと思われる。との意見があった。

(3) 新しい意味を付与する総称が望ましいという案

今回の取組をきっかけに、社会的に新しく定着し、新しい意味を付与するような名称が望ましい。その意味では「災害遺構等」は避け、例えば「災害文化遺産」などの方がよく、広がりもある、との意見があった。

第3節 「災害遺構等」の活用の留意事項

1. 活用促進の対象のターゲット

各地域で、これまで防災に深く関わりがなかった方々の防災意識の向上に向けて、災害遺構等を近隣の地域でどのように見つけられるか、さらに効果的な活用方法の事例を紹介して、それを見習った活用を促していくのが本調査研究の目的である。

この活用促進の人の面でのターゲットとしては、第一に、今後の防災を担うことが期待され、学ぶ機会も多い児童、生徒、学生を含む若年層を主に想定する。さらに、地域の防災意識の向上の実際の手として、比較的時間の余裕がある方も多い高齢者がまず取り組み、それを若い世代に広げてもらうことも十分考えられるとの指摘もあり、高齢者も重視すべきであろう。

さらに、現役の勤労世代についても、関心を持ってもらえれば地域の諸活動を主導する年代として大きな役割が期待できる。これらのことから、各世代それぞれを対象として意識し、災害遺構等の情報発信の資料作りなどの取組を行っていくこととする。

2. 活用を進める基本条件である思い、気持ち

(1) 地域の災害被害を減らしたいという思い

災害遺構等を活用して地域の防災力を高める活動は、その基本条件として、被災の経験を踏まえ、地域の災害被害を減らしたいという思い、気持ちがそこにあることが重要である。例えば、南海トラフ地震など、政府の被害想定が出されている地域は、多くの人がある被害を減らしたいという同じような思い、気持ちを持っていると考えられるので、災害遺構等の存在を認識してもらえれば、地域での広い活用につながりやすいと期待できる。

一方、明確な災害懸念が認識されていない地域では、この災害被害を減らしたいという思い、気持ちが先に存在するわけではない。この場合、災害遺構等の存在を知らせ、その地域での災害発生の実実に気付いてもらい、災害の歴史を知ってもらうことが、災害被害を減らしたいという思い、気持ちを引き起こすことにつながる可能性がある。

(2) 災害遺構等を保存する際の葛藤

地域に存在する災害遺構等が保存されてきた背景には、災害直後にそれを保存するかどうかについて、多くの場合、葛藤があったと考えられる。そこで、その災害遺構等の活用にあたっては、住民がいかにその葛藤を乗り越えてきたのか、復興してきたのかなどの思いや気持ちも合わせて考えていくことが重要である。

(3) 被災前の認識

災害遺構等の活用にあたって、その施設などの災害が発生する前の使い方も考慮し、被災前の施設などの地域での役割や思いなども合わせて災害経験を伝えていくことが有効だと考えられる。例えば、一般の事業所建物よりも、多くの人を卒業させた学校の建物といった、被災前の記憶を強く残すものの方が、災害経験を伝え、地域の防災意識の向上を図るには有効であろう。

同様に、災害の記憶については、被災前の生活も理解することが重要である。その災害で何が、どのような価値が失われたかがわからないのは、災害の被害を本当に理解するのに有効ではない。

3. 地域や人との関わり

(1) 地域、場、人

災害遺構等の活用の具体的な方法は、その地域の災害特性、町の形態、日常生活のあり方などの特徴と合わせて考えていくことが必要である。また、その活用を進めるに当たり、その災害遺構等の地域住民とのかかわり、市民活動とのかかわりを意識することも必要である。そのために、災害遺構等の活用のための場作り、場の提供を意識する必要がある。

また、人の面では、地域の継続的な取組として災害遺構を活用していく場合、例えば防災に関わる祭礼について、年を経るにしたがって参加者がほとんど高齢者になってしまった例もあり、子供を巻き込む行事とするのが知恵として考えられる。一方、現在の取組については、災害遺構等の活用を趣味にしてもらえるように活用促進を進めると、参加する人が増えると考えられる。

(2) 資料を読む人の範囲

これまでの災害遺構や災害の記録の防災への活用の取組の反省として、過去の災害教訓をまとめた資料を作成したが、それだけでは災害や歴史に興味を持つ狭い範囲の人だけが読むのみで、地域の災害遺構等の活用の幅広い取組にまで広がってこなかった。特に、資料が専門的であれば、理解して活用できる専門知識のある人材がいないと地域に広がらない。

そこで、広く地域の方々に「災害遺構等」について興味を持ってもらうツールを作り、それを活用して、過去の災害の詳しい正確な情報と、地域でそれを防災力向上に使うために受け取る人々の間を埋めることが必要である。このツールのあり方や、このツールの活用方策について検討する必要がある。

(3) 人と出会える、地域ネットワークを活用できる仕組の有効性

災害遺構等の存在の情報提供だけでなく、その活用の仕方を提案することが重要だが、その際、類似の災害経験・地域性のある場所で活用した活動をしている人と出会えるようにするのが有効である。また、地域のネットワークを利用して活動できる仕組みにすることも有効である。

4. 取組のウェブサイトで促進の広報の方法について

(1) 提供する災害遺構等の範囲について

今回創設するウェブサイトにおいて提供する災害遺構等の情報は、限定して示す方向ではなく、既存の様々な災害遺構等の情報にもつながるような、拡大型の情報提供をしていく考え方で進めるべきである。災害遺構等の情報は、各地で様々な存在しており、研究者が個人的にコレクションしたものもある。それらを広く活用できるようにすることが、地域にとっ

て有意義なものとなる。

(2) ウェブサイトの提供後の活用のきっかけづくり

災害遺構等の活用は、身近な災害遺構等の存在や活用事例を知らせるウェブサイトを構築しても、それを実際に見てみたい、活用してみたいと思えるような刺激が必要と考えられる。そのため、まず、できるだけウェブサイトを訪れた人の住まいや職場に近い地域（少なくとも同じ都道府県内）での災害遺構等の存在を紹介し、災害遺構を活用した地域の防災に関する気軽な活動も紹介できるようにすれば、活用の刺激になると考えられる。

さらに、第3章第2節2.で示す災害遺構等の活用の支援体制や啓発拠点に、このウェブサイトの周知を行い、活用を推奨してもらうなどの協力を得ることが有効と考えられる。また、地域の小中学校や高校に対しても周知することが、学校教育での活用のために有効と考えられる。

(3) 自らの災害遺構等の活用の取組を知ってもらう場

現在、各地で行われている災害遺構等を活用した防災力向上の取組は、他地域の人に広く知ってもらうという意図を持たず、自分たちの地域・コミュニティで取り組んでいることで満足しているものも多いと思われる。しかし、これらの取組が「生きた活動」として広く他地域に知られることになれば、それが良い参考になり、他地域での災害遺構等の活用の機会を増やし、また、活動の幅を広げることが期待できる。

そこで、災害遺構等の活用の活動の情報共有を進める場として、今回の取組が役立つようにすれば有効であると考えられ、例えば、情報提供のウェブサイトにおいて、自らの取組を投稿することができるような仕組みも検討に値する。

5. 狭く防災のみを目的としないことで広がりがある長続きする取組にすること

災害遺構等の活用は、狭い意味での防災力の向上を目指すだけでなく、災害を通じて地域の歴史、地理、環境を学ぶことができる取組、そして、地域の魅力を学び、地域を良くする、地域創成にもつながるといふ取組にした方が、関心を抱く人々の幅が広がり、長続きする取り組みにしやすいことに留意する必要がある。

従来から、地域の防災の取組は、災害が地域ごとに見ればめったに起こらない事象であるため、狭く防災のみの活動では危機感が薄れたり、同じことの繰り返しで飽きられたりして、取組が低調になる傾向があることから、むしろ、様々な地域の活動に防災の要素を加えていくことで長続きさせることの重要性が指摘されている。災害遺構等の活用についてもこれが当てはまり、災害遺構等に込められた先人の平常時の生活ぶりや、災害で大切なものを失った思いなどの記録や記憶を呼び起こすという、防災に限らない、知らなかった過去との感動ある出会いが得られる活動とし、さらにこれをピクニックやまち歩きなどの楽しい活動と組み合わせることで推進することが有効と考えられる。

第2章 「災害遺構等」とその活用の取組の収集・整理

第1節 「災害遺構等」の事例、活用の取組の収集の方法

本調査・研究では、各地に存在する「災害遺構等」の情報収集、その活用等に関する取組についての事例収集を、地域の防災教育、防災意識の向上のために活用する有効な事例を集めていくとの視点で行った。すなわち、災害遺構等の網羅的なデータベースの作成、あるいは災害遺構等の新規発掘を行ったものでない。

具体的な災害遺構等の情報収集や活用事例の収集は、検討会において各委員から紹介された事例をはじめ、中央防災会議『災害教訓の継承に関する専門委員会』編『災害史に学ぶ』（内閣府発行、平成23年発行）の海溝型地震・津波編、内閣府直下型地震編、火山編、風水害・火災編、事務局が既に把握している資料（例えば、「津波痕跡データベース」、「津波デジタルライブラリ」および各種データベースに掲載されている情報）、WEB検索などによって行った。

第2節 事例・活用の取組の体系的な整理

収集した事例を体系的に分析・整理するために、次のような項目に基づき、分類し、一覧表で整理した。具体的な内容は、次の表に掲載している。

- ① 災害遺構等の名称
- ② 原因となった災害
- ③ 発生年
- ④ 災害及び活動の特徴
- ⑤ 災害遺構等の媒体
- ⑥ 設置・開始年
- ⑦ 場所
- ⑧ 媒体の詳細
- ⑨ 活用方法
- ⑩ 活動期間
- ⑪ 活用方法の詳細
- ⑫ 活用の主体（年齢層）
- ⑬ 活動の主な対象
- ⑭ 出典

なお、古文書等の文書の整理においては、それがどこにあるかよりも、何が書いてあるかが重要であり、実際の活用は、文書の内容が教材に使われる形となる。しがたって、地域での防災の

教材に使う場合には、その記載内容を踏まえて整理していくべきとの意見があった。今後行うこととなる災害遺構等の体系的な整理の作業に当たっては、文書記録については、この点に十分注意して行っていくべきである。

表 災害遺構等事例リスト

番号	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典
1	近畿・七道諸国の大地震と平城京の震災痕跡	地震	734	725年と734年に近畿・七道諸国での地震をはじめ、飢饉などさまざまな災害が流行。	建築	734	奈良県奈良市	時の聖武天皇が鎮護国家を目指し東大寺及び盧舎那仏を建立。						
					土馬	734	奈良県奈良市	平城京遺跡の側溝跡から発見される土馬は、古代の祭りや雨乞いの祭祀が行われた際に使われた。						
2	明応地震津波と細江神社の祇園祭	地震津波	1498	南海トラフを震源とする巨大地震。浜名湖の今切が決壊し、淡水湖が汽水湖となる。	神体	室町時代	静岡県浜松市北区細江町気賀996	細江神社では、この津波のときに漂着した御神体を地震厄除の神として祀っている。	祭礼	～現在	7月第3日曜日にこの津波の際に漂着した御神体を地震厄除の神として祀る祇園祭が行われている。		地域住民	INHAMAMATSU.COM: http://www.inhamamatsu.com/japanese/
3	天正地震と液状化痕跡	地震	1586	日本海側の若狭湾から太平洋岸の三河湾に及ぶ巨大地震。山崩れによる帰雲城の埋没や長浜による液状化による水没などがあった。若狭湾・伊勢湾での津波被害もあった。	地層	災害発生時(1988年の発掘調査で発見)	愛知県清須市	液状化の噴砂が噴出した痕跡、17世紀初頭の「清洲越」の瓦が存在することから、天正地震の痕跡として確認できる。	展示		名古屋大学減災館において、液状化痕跡の剥ぎ取り標本が常設展示されている。		地域住民	福和委員報告 2015.10.15
4	徳島県海陽町の慶長・宝永地震津波碑	地震津波	1606	南海トラフを震源とする巨大地震。地震動による被害は少なかったが、現在の千葉県から九州に至る広範囲の太平洋沿岸に津波が襲来。死者1～2万人を数えた。	石碑		徳島県海部郡海陽町	慶長9年12月16日(1605年2月3日)に発生した慶長南海地震と宝永4年10月4日(1707年10月28日)に発生した宝永地震の2つの津波についての碑文が刻まれている。						地震調査研究推進本部「徳島県の地震・津波碑」 http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/13tokushima/material/tksm_22_3.pdf
5	慶長奥州地震津波と津波石	地震津波	1611	江戸時代の初期、現在の岩手県三陸沖を震源として発生した地震。	津波石	災害発生時	岩手県宮古市撰待地区	岩手県宮古市撰待地区には、1611年の津波の津波石だとされる撰待の大岩があり、近くには明治三陸地震津波の際に流されてきた津波石が存在する。						川島検討委員報告 2015.11.17
6	明暦江戸大火と慰霊碑	火災	1657	江戸を襲った大規模火災の最初であり、最大規模の火災。被害者数6～7万人か。	古文書	災害発生時	東京都立中央図書館所蔵(港区南麻布5-7-13)	朝井了意『むさしあぶみ』、炎の中を逃げ惑う群集や幕府による粥施行の様子の挿絵が記載され、死者は10万人台と述べられている。	研究		江戸幕府によって定火消制度の創設、自主的な防災組織の発足のはじまり。		研究者	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011
					石碑	1657	回向院(東京都墨田区両国2-8-10)	この大火での犠牲者を供養するために「石造明暦大火横死者等供養碑」を建立した。現在は回向院に存在しており、東京都の指定文化財とされている。						
7	寛文近江・若狭地震と災害地形	地震	1662	近畿地方北部一帯に大きな被害を出した内陸地震。被災地域全体で死者700～900人、倒壊家屋4000～4800軒。双子地震。	地形	災害発生時	大津市葛川町居地区	町居崩れと呼称されるこの大規模土砂崩れで形成された天然ダム(河道閉塞)が冠水し、大池が残った。						『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011
					地形	災害発生時	福井県三方郡御浜町・三方上中郡若狭町	三方五湖とは、三方湖・水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖から生じたもので、菅湖から久々子湖に流れる気山川の地盤が寛文の大地震により隆起、川の機能を失う。						
					絵図	1996	東京堂出版	浅井了意『かなめいし』には、地震によって八坂神社の石鳥居が倒壊し、地震に驚いた茶屋の客たちが逃げ回っている様子が描かれている。						

8	外所地震と地震・津波供養碑	地震津波	1662	日向灘を震源域とするM7.6の大地震。現在の宮崎市南部を中心に死者200人、全壊家屋は3800戸被害を受けた。	石碑	1705年頃、以後50年ごとに新造	宮崎県宮崎市木花地区	島山集落に存在している、外所地震の犠牲者の供養碑である。	祭祀	1805～2007	50年ごとに供養祭が行われ、その度に供養碑を建立し、慰霊を続けている。		地域住民	宮崎日日新聞URL: http://www.47news.jp/smp/localnews/hotnews/2012/10/350-3.php
9	稲荷川水難供養塔	洪水	1662	寛文2年(1662)6月13日、稲荷川の水源となる湖が連日の風雨によって決壊し、下流の民家300余戸が流失。	石碑	1663	栃木県日光市石屋町	溺死者を慰霊するために笠塔婆が建立。塔の左面には犠牲者の名前を刻まれている。						日光砂防事務所ホームページ「日光の石造品マップ」 http://www.ktr.mlit.go.jp/nikko/nikko00045.html
10	元禄地震津波と隆起地形	地震津波	1703	M7.9～8.2と推定される海溝型地震。液状化現象も発生。関東全体の被災者37000人と推定。	地形	災害発生時	千葉県南房総市白浜フラワパーク内	元禄地震により南房総の海岸線が隆起した。南房総伊勢船島は元禄地震以前は海中に浮かぶ島であったが、元禄地震による隆起のため現在は陸地となっている。						北原委員報告 2015.10.15
11	印南町の津波記録	地震津波	1707	宝永4年の南海トラフ地震で印南集落に被害。これを教訓に安政南海津波では溺死者を出さなかった。	位牌	1719	印定寺(〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2259)	宝永地震による津波によって犠牲となった印南地区の人々の靈魂を鎮めるために、印定寺に建立された宝永津波溺死者の合同位牌。	教育	2005～現在	印南中学校では2005年より学習において10年に亘り津波研究と防災啓発を取り組み、中学生の手による史料解説や津波解説板の設置を実施。	印南中学校	中学生・地域住民	紀州新聞「印南中生徒が貴重な防災資料「かめや板壁」解説に取り組み」 http://blog.google.jp/ks-press/m/201508
					石碑	1719		宝永地震による被害の大きさや教訓を後世に残すために印定寺に建立された記念碑。						
					古文書(板)	不明	〒649-1534 和歌山県日高郡印南町印南2261	かめや板壁とは、印南町の本郷地区にあった吉田家の蔵の板壁に津波の被害などが記されていたもの。昭和26年に蔵を取り壊す際に、郷土史家の小谷緑草、田中宇南両氏が書かれた板を保存するとともに読解して紙に訳した。						
12	和歌山県白浜町の飛鳥神社祭礼における「津波警告板」の活用	地震津波	1707	宝永4年の津波の際、高瀬村の住民が被災、家財に心を寄せた者が溺死	古文書(板)	不明	日神社(和歌山県西牟婁郡白浜町十九洲312)	地震や津波を経験した住民たちが後世の人々に伝えようと草堂寺住職に依頼して製作した津波掲示板である。和歌山県日神社の境内に存在している。警告板は和歌山県指定有名民俗文化財となっている。	行事	1707～現在	警告板には、家財に気を取られず「飛鳥神社か小倉山(富田小学校の裏山)に逃げる」ということや、最後には「祭りの時に皆に見てもらえ」と書かれている。つまり祭りのイベントと、神社のある高台に登る事で避難訓練を兼ねる、という先代の人々の知恵が生きている。	地域住民	和歌山県立博物館 ニュースURL: http://kenpakunews.blog120.fc2.com/blog-entry-475.html	
13	富士山宝永噴火と火山堆積物	地震火山	1707	富士山麓で小地震が続き、噴火直後には大地震が発生した。噴煙は東麓地域をはじめとして小田原や江ノ島の上空を覆い、大雨のような降土をもたらした。	絵図	江戸時代		「富士山宝永噴火之図」(静岡県御殿場市滝口文夫氏所蔵)東麓の御殿場付近から見た噴火の状況が記されている。	防災	2004	火口の位置、噴出量、噴火様式、気象条件なども考慮にいられて、降灰や土石流を予測したハザードマップが活用されている。	富士山ハザードマップ検討委員会	地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011
					自然物	災害発生時		富士山の東麓に厚く降り積もった宝永噴火の火山礫・火山灰。						
14	伊那谷遺産(池口崩れ・小道木(こどうぎ)の埋没木)	地震	1715	梅雨時の長雨にともなう豪雨によって天竜川地域に甚大な土砂災害がもたらされた。この年が未年であったため「未の満水(ひつじのまんすい)」と呼ばれている。	自然物	不明	長野県駒ヶ根市	遠江地震により、池口川左岸の日陰山が崩落し、大量の岩石が川をせき止め形成した天然ダム。また天然ダムの水と砂岩に埋まった場所には多くの森林が埋没し、埋没林が形成された。	イベント	2015.5.28	過去の災害を学び教訓を地域住民に受け継いでいくことを目的とした「天竜川災害伝承シンポジウム」が飯田市役所で開催された。また埋没林等の見学も行われている。	地域住民	天竜川上流河川事務所URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/kjmusyos/new_s_j/041/041.html	

15	八重山地震津波	地震津波	1771	八重山地震(明和の大津波)により宮古・八重山列島で死者・行方不明者12,000人にのぼる。					行事	～現在	津波よけや豊作を願う宮古島での伝統祭祀「ナーバイ」、女性達の安寧の祈りと男性の舟漕ぎの模倣儀礼。	地域住民	川島検討委員報告 2015.11.17
									行事	～現在	明和の大津波で生き残った人たちがたいまつを頼りにタコラサー石に集まったという言い伝えを再現する慰霊祭が毎年4月24日に行われている。	地域住民	川島検討委員報告 2015.11.17
16	浅間山天明噴火	火山	1783	鳴動が響き、噴火の際に黒煙が柱のようにのぼったという。火口からは軽石や火山灰が降り注ぎ、日を追うごとに噴火の勢いは激しさを増した。犠牲者は1624人(うち上野国一帯だけで1,400人以上)、流失家屋1151戸、焼失家屋51戸、倒壊家屋130戸余りであった。	地形	災害発生時	群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌倉	鬼押出しとは、浅間山の噴火で流れ出した溶岩の一方で、その姿がまるで鬼が押し出して作ったようだと言われたことから「鬼押し出し」と命名されたものである。					『災害史に学ぶ-火山編』2011
					資料館	1984	群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原494	嬭恋郷土資料館とは、浅間山噴火の際、土石流に埋没した鎌原村落の出土品や、土石流に埋没した犠牲者の遺体などが発掘された、これらの展示物は鎌原観音堂に併設する嬭恋郷土資料館にて展示されている。				北原委員報告 2015.10.15	
17	眉山(表崎・島原)の山体崩壊による津波	津波火山	1792	寛政4年、普賢岳火山活動の山体崩壊の土砂が有明海に流入し、島原で10,000人、対岸の熊本で5,000人が死亡	石碑	不明	熊本県宇土市	円応寺供養塔をはじめ、熊本県内に74基の供養塔が確認されている。					宇土市デジタルミュージアム URL: http://www.city.u.to.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kansein/otunamikuyouhi.html
18	象潟地震と隆起地形	地震	1804	象潟地震により秋田・山形県沿岸25kmにわたって1~2mほど隆起、象潟湖の大部分が陸地化。	地形		秋田県にかほ市象潟町	かつて松尾芭蕉が「東の松島、西の象潟」と表現するほどの景勝地であったが、地盤の隆起により現在は田園の中にかつての小嶋が残る景観となっている。					
19	善光寺地震の災害痕跡	地震	1840	1847年5月8日夜10時ごろに、長野県飯山市から長野市更埴まで伸びる長野盆地西縁断層に発生した、逆断層型のM7.3程度の浅い地震。	地形	災害発生時	長野市信更町岩倉山	虚空蔵山崩壊、犀川せき止め:岩倉山(虚空蔵山)で発生した斜面の崩落は犀川に65mもの高さの巨大堰き止め湖を生じさせた。これによりふもとの村は川水を招き入れ水没。	防災		洪水後の千曲川の堤防修復は幕府や河川流域の藩も資金負担をする国役普請となり、人足として農民が駆り出されて資金が支払われた。これは一種の失業対策事業であり、また、より広域で復興資金を負担する方法であった。	地域住民・観光客	『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2012
					石碑	1848	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺境内にある「地震横死塚」身元不明者の鎮魂のため建立した。					
					建築	災害発生時	善光寺(長野県長野市元善町491)	善光寺本堂の柱、地震でねじれたものを修復維持					
					絵図	1849	真田宝物館蔵(長野市松代町松代4-1)	松代藩で作成された善光寺地震の被害の様子の絵図(「信州地震大絵図」)					
20	石井樋と成富君水功之碑	台風	1853	佐賀平野を流れる嘉瀬川は、山地部に降った雨が一気に平野部に流れ込む暴れ川であり、古くから治水・利水作業が行われてきた。	石碑	1888	佐賀市大和町大字尼寺3247	成富兵庫の治績を称える「成富君水利之碑」が建立。「石井樋」は、江戸時代初期、鍋島家家臣・成富兵庫重安(1560-1634)が嘉瀬川に建設した取水口で、多布施川に水を分けることで洪水の抑止と佐賀城下の生活・農業用水の水源としたものであり、現存する日本最古の取水施設といわれている。				佐賀市地域文化財データベースサイト「さかの歴史・文化お宝帳」 http://www.saga-otakara.jp/	

21	台風と豪雨のための慰霊碑	台風	1853	福岡県北九州市は6月4～7日のジュディ台風、28・29日の梅雨前線による豪雨により、死者・行方不明1,013名を出す水害に見舞われた。	水害	1860	福岡県北九州市	水害殉難者之碑は、災害から七回忌にあたる昭和35年(1960)8月、遺族・有志などが犠牲者の霊を供養するために建立。								
22	安政東海地震・安政南海地震と「稲むらの火」	地震津波	1854	1854年12月23日午前10時近く、駿河湾、遠州灘、熊野灘の海底を震源域とする推定M8.4の巨大地震。被害は関東地方から近畿地方におよび、沼津から伊勢湾岸沿い、特に箱根から見附あたりの東海道筋で家屋倒壊・焼失が著しく、また、甲府盆地も被害が甚大であった。家屋の倒壊は甲斐・信濃・近江・摂津・越前・加賀までおよぶ。 和歌山県広村では、津波が襲来した後に、濱口梧陵が自身の田にあった藁の山に火をつけて安全な高台にある広八幡神社への避難路を示す明かりとし、速やかに村人を誘導することができた結果として村人の9割以上を救った(死者30人)。津波から命を救えるかは、情報の伝達の速さが関わっているという教訓を残し、これをもとに作られた物語が『稲むらの火』として知られている。	石碑	1855	大阪府浪速区幸町三丁目大正橋東詰	大正橋に存在している『大地震両川口大津浪碑』。碑文には、安政南海時地震の半年ほど前に起こった伊賀上野地震による大阪の様子や、多くの人が小舟に避難したことが書かれている。	行事	150年前～現在	安政南海地震津波碑「大地震両川口大津浪碑」の墨入れ行事と地蔵盆:毎月8月の地蔵盆に地域の人々が集まって石碑を洗い、文字が読みやすいように「墨入れ」をし供養を行っている。			地域住民	大阪日日新聞URL: http://www.nnn.co.jp/dainichi/rensai/okroman/150131/20150131044.html	
					モニュメント	1999	和歌山県田辺市新庄町3259-4内之浦干潟親水公園	1854年安政南海地震と1946年昭和南海地震の際にこの地を襲った津波の高さを示す潮位標モニュメントを設置した。	教育	1937～1947	地元出身教員の中井常蔵がハーンの作品を教材化し、文部省教材公募に入選したのが『稲むらの火』					『災害史に学ぶ～海溝型地震・津波編』2011
					小説	1896		浜口梧陵の史実を元にしたラフカディオ・ハーン著“A Living God”の中で紹介。史実とは若干の違いも存在。	行事(津波祭)		「津波防災の日」制定に伴って毎年11月5日に、防災と慰霊、そして大堤防を築いた広川町の濱口梧陵達の偉業に感謝し、その遺徳を伝承するために行われている式典。この式典は平成27年で113回目を数えた。					
					絵図	1854	養源寺蔵(〒643-0071 和歌山県有田郡広川町広1465)	広村を襲う安政南海地震津波の実況図(古田庄右衛門著「安政聞録」より)高さ約5メートルの大津波が15世紀初頭に築かれた波除石垣を乗り越えて村を襲い、背後の田んぼに浸入している。特に村の南北を流れる江上川(右側)と広川(左側)に沿って激しく流入している様子が描かれている。	防災教育	2014	防災教育チャレンジプラン「地域を見つめ、生きる力をはぐくむ防災教育」では、山口大学教授の出前授業や、東北大学災害科学国際研究所の東日本大震災の減災授業、高齢者に対する津波伝承の聞き取りや災害由来地名のフィールドワークを実施。小冊子『瀬戸内海でもご用心』と「防災かぞえ唄(いのこ唄)」を作成・CD配布。校区自治会が「津波到達碑」を建立			周防大島町立城山小学校	小学校低学年・高学年、	http://www.bosai-study.net/2014houkoku/plan.php?type=1&no=10
					建築	1855	和歌山県広川町	安政南海地震津波の経て、広川町の浜口梧陵・浜口東江・岩崎明岳らが住民の生命と財産を津波から守るため、私財をなげうって築いた大堤防。	行事		「稲むらの火」と津波祭の「土盛」では、毎年11月に梧陵の遺徳を偲び「津波祭」を実施。「土盛」で新たな土を堤防に入れて補修を促す。				地域住民	和歌山県ふるさとアーカイブURL: http://wave.pref.wakayama.lg.jp/bunka-archi/matsuri/tunami.html
	資料館	2007	〒643-0071 和歌山県有田郡広川町広671	「稲むらの火・津波防災教育センター」として史料の展示や防災体験室を設置。												
	絵図	江戸時代		広村津波図												

23	安政江戸地震とかわら版	地震 火災	1855	1855年11月11日に発生し、震源は東京湾北部やや深い位置で、地震の規模はM7前後と考えられている。災いしたのは江戸を中心とする関東平野南部の狭い地域に限られたが、大都市江戸の被害は甚大であった。	古文書	江戸時代		『安政地震焼失図』火災が起こった江戸市中の30数箇所のまとめが記載されている。						『災害史に学ぶ -内陸直下型 地震編』2013
					絵図	江戸時代	東京大学史料 編纂所蔵	『江戸大地震之図』には、屋敷住居、長屋、馬屋などが潰れ、主人が庭に避難しており、遠くでは火災が発生している様子が描かれている。						
					絵図	江戸時代	東京大学総合 図書館蔵	『地震火災版画帳交帖』とは、地震後に出された絵図。絵図とは、地震を起こした絵を懲らしめた様子を仕立てた錦絵である。						
24	飛越地震と安政の大転石	地震 洪水	1858	大地動乱期に起きた内陸直下型地震。北陸地方や飛騨国を中心に大きな被害をもたらし、死者426人、負傷646人、家屋の全半壊・流失2190戸とされている。家屋の倒壊も著しく、飛騨では700戸余りが損壊し、200～300人の死者が出た。	古文書	江戸時代	富山県立図書館蔵	『越中中山変事録』には、大量の土石や流木を交えた土石流が下流の村々を襲ったときの様子が記されている。					『災害史に学ぶ -内陸直下型 地震編』2014	
					自然物	1858	富山県富山市立山町	『安政の大転石』は、大洪水によって常願寺川から流されてきたもので直径5.6m、推定400トンもある。水の力が持つ恐ろしさを物語っている。						
25	念仏講まんじゅう	土石 流	1860	万延元年の集中豪雨と土砂災害により33人の被害者が発生。			長崎県		行事		毎月14日に「念仏講まんじゅう」を全世帯に配布。仏壇に供えた後に家族で分け合う。	地域 住民	消防防災博物館URL: http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6987&Page=hp22_view	
26	浜田地震と震災祈念碑	地震	1872	震度7と推定される。浜田市内の死者は536人、家屋全壊は4506棟、地震発生の一週間前より前震を観測。	石碑	明治	島根県浜田市牛市町	震災祈念碑					北原委員報告 2015.10.15	
27	禍福無門の戒め	地震	1872	集中豪雨によって発生した阪神大水害が発生。神戸市内は全ての河川が氾濫し、流木や岩石が混じった市街地に流れ込み、死者・行方不明者521人を出した。	石碑	明治	神戸市東灘区住吉町観音囃子1875-3	(財)住吉学園の庭園には、堆積した岩石を積み重ねて碑を築き、上部には約30トンの巨石を据え、高さは水害時の水位と同じくし、末次信正海軍大将により「禍福無門」と揮毫されている。					消防防災博物館ホームページ:宮澤清治の防災歳時記「—禍福無門の戒め—」 http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi	
28	井風呂谷川砂防三号堰堤	洪水	1880	高梁川の大洪水の発生により、明治33年(1900)ごろに宇部の指導により空積堰堤の築造を開始。松苗を植える工事手法が成果を挙げた。	建築		岡山県総社市見延	堰堤は平成14年(2002)に国登録有形文化財(建造物)に指定され、井風呂谷川砂防公園として整備され、砂防学習ゾーンとして活用されている。					総社市公式観光WEBサイト http://www.city.soja.okayama.jp/bunka/kankou/touroku_bunkazai/kuuni01.html	

29	磐梯山噴火	火山	1888	水蒸気爆発型噴火。岩屑なだれ、火砕流、降灰、死者461人、堰止めにより楡原湖・秋元湖などが生じた。	写真	災害発生時	磐梯山噴火記念館(福島県耶麻郡北塩原村松原字剣ヶ峰1093-36)	火口付近に多くの噴気が立ち上がっている様子が撮られている。(北麓からの磐梯山と噴火直後の磐梯山)、「磐梯山噴火之図」	教育	帝国大学理科大学(現在の東京大学理学部)初代地震学教授の関谷清景氏は、この噴火のあと直ちに現地に入り調査にあたり、石版画スケッチを製作した。このスケッチは、現在でも多くの内外の火山学教科書に引用されている。	学校関係者	『災害史に学ぶ-火山編』2011		
					絵図	1889	国立科学博物館蔵(東京都台東区上野公園7-20)	噴火後の噴出物分布図(農商務省地質局調査報告書掲載)、磐梯山噴火の幻灯写真					教員・学齢児童	
					地形	1888	楡原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼など	旧長瀬川などの多くの河川が埋没したために次第に水を蓄えて、多くの湖沼(天然ダムによって形成された貯水池)が形成された。	教育		『磐梯山に強くなる本』として福島県火山学習会が、中学生向けに防災に対する知識と対策を提供している。			
					地形	1888	福島県猪苗代町・磐梯町・北塩原村	磐梯山の山体崩落とは、水蒸気爆発が引き金となり、磐梯火山で大きな崩壊が発生したもの。岩屑なだれにより長瀬川がせき止められ、楡原湖、小野川湖、秋元湖、五色湖が形成される。						
30	エルトゥールル号事件と日土交流	台風	1890	台風のため航行不能のエルトゥールル号が和歌山県大島の樫野崎近郊で海難に遭遇。死者約500名の我が国海難史上未曾有の被害を出す。	絵図	1939	日土協会会報	当日の海難の様子を伝える錦絵	行事	慰霊碑の前で、犠牲者を弔うと同時に事件の記憶を語り継ぐ式典が約5年ごとに行われている。	地域住民	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011		
					写真	1937	駐日土耳其大使館『土耳其國軍艦エルトゥールル号』	生存者写真						
					古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	大島村で救助した船員の診断書						
					古文書	1890	トルコ記念館(串本町樫野1025-26)	『土耳其軍艦アルトグラ一號遭難時取扱二係ル日記』とは船員の救助にあたった沖周村長のもの。						
					石碑	1891	和歌山県大村町(樫野の丘)	エルトゥールル号事件の記憶を語り継ぎ、犠牲者たちを弔うために和歌山県庁の石井知事の発案で、樫野の丘に慰霊碑を建立した。						
31	濃尾地震と根尾谷断層	地震土石流	1891	日本の内陸で発生する地震としては最大級のもの。震源付近では震度7。揺れは広範囲に及ぶ。	石碑	1893	岐阜市忠節町4丁目	濃尾震災横死群霊碑	教育	2007	「濃尾地震と根尾谷断層」を題材としたビデオ教材・デジタル教材の開発と小学6年生・中学1年生の理科の授業における導入。	岐阜大学教育学部	教員・学齢児童	『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2015
					石碑	1908	名古屋市千種区城山新町・尋盛寺	震災横死者供養塔には、「七千百十五精霊 濃尾大震災横死者供養塔」と刻まれる。						
					建築	1893	岐阜県若宮町	震災記念堂とは、衆議院議員天野若圓の呼びかけにより建立したもの。						
					地形	災害発生時	岐阜県本巣市根尾谷水鳥地区	根津谷断層とは、日本で確認できる最古の地震断層。国の特別天然記念物に指定されている。						
32	庄内地震	地震	1894	1894年10月22日17時35分に発生し、山形県酒田市を中心に庄内平野で北半分で被害が生じた。被害は、庄内平野の東端の山沿いと、海沿いの砂丘東側の後背湿地、最上川沿いで多かった。	写真	災害発生時	国立科学博物館(〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20)	庄内地震の被害の様子をとどめている写真で、震災予防調査会の大森房吉他が撮影したと考えられている。		研究者	北原委員報告2015.10.15			

33	明治三陸地震津波の慰霊碑	地震津波	1896	地震30分後に巨大津波が押し寄せ、死者22000人となる。“前触れなき大地震”と言われる。明治三陸地震津波における大船渡市三陸町吉浜の被害。津波後の高台移転事業。	写真	災害発生時	仙台市博物館(仙台市青葉区川内26番地)	『風俗画報』釜石市街を襲う津波や被災地の様子を描いたもの。	研究		地理学者・山口弥一郎による明治三陸津波後高台移転の結果について、昭和三陸津波との比較から調査したもの。		研究者	『災害史に学ぶ—海溝型地震・津波編』2011
					絵図	1896	国立国会図書館蔵	『風俗画報臨時増刊第百十九号、大海嘯被害録中巻』口絵						
					石碑	1897	岩手県大船渡市	正寿印門前、明治三陸地震津波の195名の死者名を記している。						
34	「子供水防団活動」——自分の身は自分で守る	水害	1898以降複数	明治31年に発生した北海道長沼の大水害	記録	不明	北海道長沼町		防災		子供水防団のハザードマップの作成	河川愛護団体リバーネット21ながぬま	地域住民	「子ども水防団の訓練安全に避難する為の避難体験学習会の開催」URL: http://www.japanriver.or.jp/taisyo/youbou_jyusyou/yjyusyou_katudou/n11/n11.pdf rivernet.pdf
35	集中豪雨による土石流	水害	1899	別子銅山周辺で集中豪雨による土石流が発生し、従業員住宅など別子銅山の各施設が崩壊・流失。死者513人、負傷者28人。	石碑		瑞応寺:愛媛県新居浜市山根町	別子銅山遭難流亡者碑:瑞応寺境内、犠牲者の霊を慰めるために建立。						四国災害アーカイブス: http://www.shikoku-saigai.com/
36	横利根閘門	水害	1900		建築	1900	茨城県稲敷市西代	明治33年(1900)から始まった利根川改修工事により、利根川と霞ヶ浦を分断するため、また増水時にも舟運に支障を来さないように、第2期改修工事の一部として横利根閘門が建設された。						文化庁:国指定文化財等データベース: http://kunikunshitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html
37	桜島噴火と石碑	火山	1914	1914年1月12日に桜島が噴火した。黒煙を吹き上げ全島を覆い、噴火の約8時間後にはM7.1の地震をもたらした。大災害にも関わらず、人的被害は最小限に食い止められ、島民の死者・行方不明者は30名であった。	石碑	1924	東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地)	高さは2.5mほどで、碑文の内容は、前述の桜島大正大噴火の被害を伝えるものになっている。	防災	1987~	京都大学防災研究所他が、山頂噴火の直前予知システムを開発した。噴火の予兆が捉えられるようになり、警告もしやすくなっている。		地域住民	『災害史に学ぶ—火山編』2011
					写真	1914	鹿児島県立博物館蔵(鹿児島県鹿児島市城山町1-1)	1914年1月12日午前11時の硝煙の様子と牛根村の降灰状況をとらえた写真	防災	2010~	『桜島火山ハザードマップ』と題して、噴火の前兆、避難場所(経路)、などを掲載している。毎年爆発記念日の1月12日には総合防災訓練が行われ、住民の防災に対する意識を高めている。			
					石碑	1996	種子島西之表市	溶岩によって住む家はおろか、土地まで失い耕作不能になったため、島民2000戸、大隅半島の住民500戸にもなる人々が、種子島、宮崎県霧島山麓、朝鮮全羅道に移った。それを記念して「移住記念碑」を建てた。						

38	関東大震災と復興関連遺構	地震 津波 土石流	1923	死者・行方不明者約105000人に達し、我が国の歴史史上最悪の自然災害。火災による死者13000人、全潰による死者11000人。	写真	1923		被服廠跡で茶毘に付されてきた遺骨の山に手を合わす人々の写真。『関東大震災写真帖』（東京婦女界社）	研究		東京市長・後藤新平主導の帝都復興計画。街路や公園の整備した近代的な町並み、幹線道路をグリーンベルトとして整備、永代橋などの近代コンクリート建築物の増加、中央卸売市場・ゴミ処理場・浄水場など、現在の東京の基礎を形成。		自治体	『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
					写真	1923	伊勢原市議会議事局所蔵（神奈川県伊勢原市田中348）	神奈川県中郡大山町で9月15日に発生した土砂災害の様子を捉えた写真。						
					石碑	1923	根府川駅：神奈川県小田原市根府川109	関東大震災殉難碑は関東大震災発生時、土石流により根府川駅に入構した列車が駅舎もろとも海側に脱線転覆して海中に没し、乗客・職員のうち112人が死亡したことを受け、関東大震災から50周年にあたる昭和48年9月1日に根府川駅職員一同よって建立され、現在は根府川駅構内に移設されている。						
					建設	1930	東京都墨田区横網町2丁目3番20号		祭礼	1924～現在	東京府市合同で震災殉死者一周年祭抱擁遺構、毎年慰霊祭を実施。	東京都慰霊協会	自治体・地域住民	
					景観	1924	東京都渋谷区神宮前四丁目	震災の翌年に設立された財団法人同潤会による青山アパートメント、現在も表参道ヒルズの一部に保存。						
39	十勝岳噴火	火山	1926	1925年2月頃より小規模な噴火を繰り返していたが次第に活発化し、1926年5月からは小火口を形成するなど大規模な噴火が発生した。大規模な水蒸気爆発が起こり中央火口丘の西半分が崩壊、これにより生じた岩屑なだれは噴火から約1分で火口から2.4kmの地点にあった硫黄鉱山の平山鉱業所宿舎を飲み込み、さらに山頂付近の残雪を融かして泥流を発生させた。火山弾・スコリア流によるものも含めると、上富良野を中心に死者・行方不明者144名、負傷者200名、流失・破壊家屋372棟という大災害となった。	写真	1980	上富良野町郷土資料館（北海道空知郡上富良野町富町1丁目3番30号）	『大正15年十勝岳大爆発記念写真集』とは、破壊された流木とともに流されてきた家屋や流木を敷き詰めたようになった富良野川の写真。	イベント（見学会）		十勝岳では、火山砂防事業に本格的に着手して以降、現場技術者の中で火山防災事業を地域の一環として活用できないか、と「親と子のセット」による小学生の火山砂防事業の見学会などが開かれた。この取り組みによって、防災教育や教訓の伝承がされている。		地域住民	『災害史に学ぶ-火山編』2011
					写真（論文）	1927		『十勝岳の爆発』 多田文男・津屋弘達 東京帝国大学地震研究所彙報 第2冊, 1927.3.31, pp.49-84						
					地形	1926		泥流被害とは、爆発により中央火口丘の北半分が破壊され、崩壊物質は北斜面を火山泥流となって流下し、途中から大量の水が加わり、美瑛川、富良野川を高速で流下。犠牲者、建造物、耕地に大きな被害を出した。						
					資料館	1992	北海道上川郡美瑛町字白金	十勝岳火山防災センターとは、十勝岳の監視と展示機能もち、緊急時には避難施設となる砂防情報センターとして美瑛川に橋をかけて対岸の高台に作られたものである。上富良野の平野部には、砂防堰堤工事の廃土を活用して新幹線沿いの田畑をかさ上げし、避難所の機能をもつ防災センターが設置された。						

40	昭和三陸地震津波と津波碑	地震津波	1933	震度5。三陸地方沿岸部を津波が襲う。釜石町で大火発生。田老村で1000人以上の死者・行方不明者。	石碑	1934	青森県	「地震、海鳴り、ほら津波」の津波碑。	防災		昭和三陸津波発生の3月3日に防災訓練の実施。	地元消防署	地域住民	洋野町の津波証言URL: http://memory.eyer.jp/tsunami/shogen
					石碑	1934	岩手県洋野町	東京朝日新聞社の出資で津波碑建立。						
					石碑	1934	岩手県宮古市重茂字姉吉	岩手県宮古市重茂字姉吉に「大津浪記念碑」が建てられ、この碑がある高さより下に作業小屋以外の建物は建てるなと警告している。						
					写真	1934		『岩手県昭和震災誌』						
					建築	1979	岩手県宮古市田老地区	田老村で「万里の長城」と呼ばれる巨大な防潮堤を建設。						
					建築	1941	釜石市	海面の変動を察知し、自動的に市街地にサイレンを鳴らす。						
41	第一次室戸台風被災慰霊祭	台風	1934	第一次室戸台風の際、大阪市域の木造校舎の倒壊により児童や保護者に多くの被害があった。	石碑	2008	住吉小学校(〒558-0052大阪府大阪市住吉区帝塚山西4丁目1-35)	1934年9月21日に近畿地方を襲った第一次室戸台風による犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように地域・児童からデザイン公募し、創立100周年にあたる2008年9月にこの室戸台風慰霊碑を住吉小学校内に建立した。					住吉小学校ホームページURL: http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=e731661&type=1&column_id=105256&category_id=4603	
42	周防灘台風	台風	1942	1942年8月27日周防灘台風は、大潮・満潮が重なり、臨海部が壊滅状態、堤防が切れ市街地が浸水し、山口県全体で死者・行方不明者794人の被害を出した。			山口県内		防災教育	2007	防災教育チャレンジプラン「せいふていねっと黒石〜ひとつの命も失わないぞ〜」では、宇部市黒石小・中学校区において、校区住民を中心に自衛隊・消防本部との倒壊家屋からの共同訓練、着衣水泳訓練、非常食試食を実施。洪水マップにもとづくパソコンジオラマを作成した。		黒石校区住民	
43	手取川大洪水水難者供養塔	洪水	1943	昭和9年(1934)7月11日、梅雨期の気温上昇と豪雨に加え、前年の大雪による残雪の融解とこれにともなう地盤崩れにより手取川が氾濫、各所で堤防が決壊し、加賀平野を中心に大きな被害が発生。	石碑	災害時	石川県白山市白峰地区	洪水発生時に流されてきた高さ16m、周長52m、約4800トンの巨大な岩が、石川県指定史跡名勝天然記念物に指定されている。						石川県土木部道路建設課ホームページ「寄り道バーキング 百万真の岩」 http://www.pref.ishikawa.jp/douken/fukeikai-do/kaga/point/005/index.html
44	東南海地震と体験談の絵画化	地震	1944	M7.9。昭和の東南海地震と呼ばれる。震度5〜6。津波の高さは北牟婁郡尾鷲町で9m。			和歌山県尾鷲市		イベント				地域住民	『災害史に学ぶ〜海溝型地震・津波編』2011
45	三河地震と深溝断層	地震	1945	1945年1月13日に三河湾で発生したM6.8の直下型地震。東海地方を中心に被害をもたらし、2306人の死者を出した。20世紀に起きた日本の被害地震の中で6番目に多いものであるが、極めて大きな被害が発生。	地形	災害時	愛知県額田郡幸田町深溝	深溝(ふこうず)断層とは、水田の中央を東西に走っている活断層が隆起した結果形成されたもの。最大落差は約1.5m。地表のズレを示した支柱で落差を可視化。	防災教育	2008	防災教育チャレンジプラン「土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、地震・災害のしくみと防災のあり方」では土地の歴史災害を掘り起こし、被災者体験談の取材と、これらを絵画として被災体験教材を作成した。家族や地域住民が集まる学芸会において防災劇を上演した。		名古屋大学災害対策室	『災害史に学ぶ〜内陸直下型地震編』2016

46	昭和南海地震津波と各地の聞き取り調査	地震津波	1946	昭和21年12月21日に紀伊半島を震源として発生。死者・行方不明者約1300人、高知県では地盤沈下と津波による被害をうけた。			和歌山県 愛媛県 高知県		防災教育	2005	ぼうさい甲子園「主体的に創り上げる地域の防災」ではハザードマップ作成のため、地域の区長、昭和南海地震を経験したお年寄りからの聞き取りをし、ハザードマップを作成し、同じ地域の小学生に紹介した。	愛媛県・愛南町立中浦中学校			
									防災教育	2010	防災教育チャレンジプラン「みなみ版防災動画教材制作プロジェクト」では昭和南海地震津波の体験者への聞き取りを、徳島文理大学・徳島大学と連携して動画を撮影し、体験談を取材し、DVD「語り継ぐ防災きずな会」を作成した。	西の地防災きずな会(徳島県美波町由岐地区)			
									防災教育	2009年	防災教育チャレンジプラン「防災紙芝居」の制作と古文書による過去の地震の調査では、昭和南海地震体験者への聞き取りなどから、防災紙芝居「じしんとマモルくん～ヤタガラスさんといっしょ～」を制作した。	和歌山県立新翔高等学校	保育園児・小学生		
									防災教育	2005	防災教育チャレンジプラン「兵庫県と高知県の高校生による防災ワークショップ&フィールドワーク」では全国で唯一「環境防災科」を設置する兵庫県立舞子高等学校の高校生を招聘し、将来の南海地震を経験するであろう高校生同士が「防災」について話し合うワークショップ、フィールドワークを実施した。	高知県立高知東高等学校			
									防災教育	2005	ぼうさい甲子園「津波に負けない防災意識を」では2003年度に実施した昭和南海地震津波の聞き取り学習や災害図上訓練を実施し、防災マップの作成や避難訓練を行った。	高知県・高知市立浦戸小学校			
									防災教育	2008	ぼうさい甲子園「地元の特性を学び、地震に備える」では、南海地震を体験した高齢者の話を聞くとともに、江戸時代から塩田の町として栄えた地域の歴史を学んだ。学校では避難所設営シミュレーション訓練を実施した。	愛媛県・新居浜市立多喜浜小学校			

47	河戸堰	地震津波	1946	江戸時代初期、土佐藩家老・野中兼山が宿毛の町全体を洪水から守る堤防(総曲輪)を建築。	建築	1658	高知県宿毛市出井地区	万治元年(1658)に野中兼山により独特の糸ながし工法と呼ばれる湾曲した形で築堰された。この堰は、昭和21年(1946)の昭和南海地震津波の際、堰には波が上がり、河戸堰には被害はなかった。						四国災害アーカイブス: http://www.shikoku-saigai.com/	
48	カスリーン台風の被害と水防法の公布	台風	1947	中流部の利根川の堤防が決壊、氾濫流が埼玉、東京を襲った。	写真	1947	渋川市(旧敷島村)	『沼尾川流域災害記録』、『敷島村誌—昭和22年9月の大洪水』	防災	1949	水防に関する諸制度を一体化、水防法の公布			自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
					写真	1955	桐生市(桐生市政新聞社)	『桐生市水害写真史』							
					写真	1950	埼玉県立浦和図書館(さいたま市浦和区高砂3-1-22)	『昭和22年埼玉県水害史附録写真帳』							
					写真	1997	埼玉新聞社(さいたま市北区吉野町2-282-3)	『報道写真集カスリーン台風』	防災教育	2010	ぼうさい甲子園「防災訓練を通じて児童に災害への対応能力を」では、カスリーン台風による大水害の教訓について講和を聞き、児童達は防災宿泊学習で避難所生活を疑似体験をした。	栃木県小山市立生井小学校			
					建築		板倉町	「水塚」とは、邸内に2~3メートル程度の盛り土のことで、その上に建物を設置し、食料・飲料水を備蓄。							
					石碑	1948	「決壊口跡」カスリーン台風利根川決壊口跡								
49	飯田大火とりんご並木	大火	1947	1947年4月20日に飯田市において大火発生。建物焼損面積は戦後最大。復興時に地元飯田東中学校の生徒達によるりんご並木の植樹。			長野県飯田市		防災教育	2012	2000年から紙芝居の作成を開始、2012年の防災教育チャレンジプランでは、地元中学生と協同して大火関係者からの聞き取りなどから紙芝居「飯田大火とりんご並木」を制作し、紙芝居DVDを作成している。	飯田市赤十字奉仕隊		http://www.bosai-study.net/2013houkoku/info.php?type=1&no=4	
50	福井地震で被災した酒伊ビル	地震火災	1948	M7.1。震源近くの集落の住家が全壊。都市直下の地震。福井県を中心に死者3769人、住家等の全壊36184棟の大きな被害。	構造物	不明	福井県福井市中央1丁目7番1号	福井地震で被害を受けた酒伊ビルは、修復して現在中央三井信託銀行として残存					地域住民	『災害史に学ぶ—内陸直下型地震編』2017	
51	平和池	水害	1951	昭和26年7月の集中豪雨で決壊、75名の死者。	資料館(公民館)	2002	亀岡市内丸町45-3	亀岡市中央公民館では、水害体験を地域防災に役立てるため、水害資料をデータベース化、公民館内に水害資料閲覧室を設置したほか、避難拠点の公民館の改修整備、防災倉庫の新設、防災備品の配備を実施している。	防災	2002	平和池水害特別委員会			地域住民	篠町自治会URL: http://shinocho.hetem.jp/shinocho/?page_id=80
									イベント		防災講演、子供達の地域学習交流。		学齢児童		
52	狩野川台風の記憶をつなぐ会	台風	1958	1958年(昭和33年)9月27日に神奈川県に上陸し、伊豆半島と関東地方に大きな被害を与えた台風である。	資料館	1997	〒410-2204 静岡県伊豆の国市堀之上467-2	狩野川台風での状況を伝える写真や新聞、書籍などの印刷物や映像などを、狩野川資料館でビデオ上映、パネル展示等をしている。	記録収集		印刷物や映像の収集	沼津土木工務事務所長、沼津・三島市町首町、市民団体代表など	有識者	沼津河川国道事務所URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/tsunagu/index.html	

53	伊勢湾台風の影響を語る会	台風	1959	1959年(昭和34年)9月26日に潮岬に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心とし、ほぼ全国にわたって甚大な被害を及ぼした台風。伊勢湾沿岸の愛知県・三重県の被害が特に甚大であり、「伊勢湾台風」と呼ばれることとなった。			三重県 愛知県		イベント		長島町の地元の子供に伊勢湾台風体験者の説明会。	長良川河川工事事務所	地域 住民	伊勢湾台風50年『あの日を忘れない～伊勢湾台風の影響を語る会～』を開催 URL: http://www.water.go.jp/honsya/honsya/pamphlet/kouhoushi/2009/pdf/0909-07.pdf
54	宮崎堰堤	水害	1959	鶴見岳・由布岳に発する津房河の上流部は、戦川と呼ばれており、昭和15年(1940)より砂防ダム建設が着工。	建築	1959	大分県宇佐市安心院町東椎屋	昭和31年(1956)、前年の由布山崩壊による津房川降灰に対するアーチ型堰堤築造決定をうけて視察中の宮崎孝介大分県砂防課長が転落して亡くなった。これにより、昭和34年(1959)に完成した堰堤は「宮崎堰堤」と名付けられ、「宮崎孝介君の殉職の碑」が設置された。						一般社団法人九州地域づくり協会「土木遺産in九州」 http://dobokuisan.qsc.pua2.com/search-list/05ooita/32tsubusagawadamu/
55	伊勢湾台風と災害対策基本法の整備	台風 水害	1959	東海地方を中心に中国・四国地方から北海道までの広い範囲で死者・行方不明者5098人の大災害。この災害を契機として『災害対策基本法』が制定。	写真	1999	木曾川下流河川事務所(三重県桑名市大字福島465)	伊勢湾台風により、泥の海と化した伊勢湾奥の低平地の状況を捉えている写真が『自然とひとのかかわり—伊勢湾台風から40年』に収められている。	防災		災害対策基本法の整備		自治体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
					写真		中日新聞社	『伊勢湾台風の全容』には、寸断された半田市海岸堤防と打ち上げられた船舶の写真や、高潮氾濫の直撃を受け跡形もなく流失した半田市の住宅の写真が収められている。	防災	1991	名古屋市臨海部防災条例は、津波・高潮・出水による災害危険区域の指定、居住室を有する建築物、公共建築物の床の高さや構造に対する制限を定めたものである。		自治体	
					写真	1959	NHK出版	『放送文化』—被災地の速報版には、災害広報活動の展開のため、被災地区の市民に対しNHKと共同で速報板を設置した様子がとらえられた写真が収められている。						
56	治水興郷の碑	台風	1959	昭和34年(1959)8月14日、山梨県全域を猛烈な風と豪雨をともなった台風7号が通過。北巨摩郡武川村では山津波によって死者23名を出す被害を受けた。	石碑	1960	山梨県北杜市須玉町	甚大な被害を受けた武川村を当時の岸信介首相が視察し、翌年より直轄砂防事業が開始し、その効果により現在の富士川水系では観光や農業で繁栄を見るに至っている。治水興郷の碑は昭和44年(1960)8月に建立、表面には岸信介の題字が刻まれている。					国土交通省関東地方整備局富士川砂防事務所ホームページ http://www.ktr.mlit.go.jp/fujikawa/fujikawa00024.html	
57	チリ地震津波と津波碑・防災教育	地震 津波	1960	北海道から沖縄までの日本太平洋沿岸、地震がないにも関わらず、思いもよらぬ津波に襲われる。	石碑		東桜島小学校校庭(鹿児島市東桜島町17番地)	2基の記念碑、それぞれ『地震があれば津波の用心』『地震がなくとも津波は来る』と記載。	防災教育	2005	ぼうさい甲子園「チリ津波の教訓を今に生かす」では、チリ地震津波で死者3名・全半壊137戸の被害を生じた真喜屋地区において、チリ津波経験者に聞き取り調査を実施した。	沖縄県名護市真喜屋小学校		『災害史に学ぶ—海溝型地震・津波編』2011
					写真	1962	国立国会図書館蔵書(〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1)	『大船渡災害誌』には、岩手県宮古市浄土ヶ浜で撮影された、津波で流され家屋を破壊した漂流船の写真が載っている。						

58	「伊那谷三六災害」有線放送・記念誌、歌舞伎、記録文集等	豪雨 土石流	1961	昭和36年梅雨前線豪雨、通称「三六災害」は、昭和36年(1961年)6月24日から7月10日にかけての大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に、氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた。					イベント		「三六災害50年シンポジウム」		地域 住民
									イベント		(演劇)「演劇的記録三六災害五十年」	地元演劇集団	
									教育		「三六災害から50年 土砂災害・水害に備えて」	教材配布	
									イベント		(歌舞伎)「三六災害半世紀」	中尾座	
59	用水確保のための溜め池	干ばつ	1965	年間降雨量が少なく、また大きな河川も存在しないために水不足となって生活や農業に深刻な影響を及ぼした。	資料館	昭和	香川県三豊市財田町財田中2355	香川用水記念公園水野資料館では、香川県の気候やため池築造の歴史の展示や、江戸時代に抹茶を焚いて配水時間を決める「香水」、近代に用いられた鍵付き箱の中に入れられた時計などが展示されている。				香川用水記念公園ホームページ: http://www.mizupark.com/	
60	太田川総水神	水害	1965	広島県の平野は、太田川の三角州として形成されており、古くから洪水の被害が多発。			広島県広島市安佐南区長束1丁目32-16	昭和40年(1965)に太田川放水路の通水式が行われたことを記念し、太田川全流域の水之神を安佐南区長束神社に奉納し、太田川総水神として祀っている。				中国地方公益活動推進会議 地域づくり部会「水辺の歴史を訪ねて—太田川—」 http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/otherinfo/waterfront/pdf/waterfront.pdf	
61	区民参加型「命を守る」防災ワークショップ	水害	1974	1974年七夕豪雨					防災	「命を守る」防災ワークショップとは、まち歩きによる危険箇所のチェック、ハザードマップの作成を行っている。	常葉大学社会貢献ボランティアセンター	地域 住民、 大学生	常葉大学URL: http://www.tokoha-u.ac.jp/news/150520-2/index.html
62	酒田の大火と地域復興	火災	1976	1976年(昭和51年)10月29日17時40分頃、酒田市中町2丁目にあった映画館「グリーンハウス」のボイラー室から出火。すぐに観客20名は避難したが当日の酒田市は風が強く、またたく間に隣接していた木造ビルや木造家屋に燃え広がった焼損棟数1774戸。被害総額405億円。	写真	災害直後	酒田市	酒田の大火の航空写真や消防直後に撮影された写真。酒田市提供。	復興	延焼を拡大する要因のアーケードをとりやめ、セットバック方式による町作り		自治 体・地 域住 民	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
63	長崎豪雨災害	水害	1982	激しい雷を伴う梅雨末期の典型的な集中豪雨であり、短期間の降雨の強さでは近年の豪雨災害で最も被害の甚大であった諫早豪雨をしのぎ、日本の観測史上最大級。	写真			長崎の写真映像プロダクション	復興	「長崎防災都市構想策定委員会」により、水害で破壊された重要文化財・眼鏡橋の横にバイパス水路を設置のほか、緊急治水ダム事業、安全な斜面の形成、道路網・交通網整備、自主防災組織の育成など総合的な防災体制の整備を行っている。		自治 体	『災害史に学ぶ—風水害・火災編』2011
					石碑		長崎県浜町思案橋そば	「長崎大洪水記念塔」には、長崎市の繁華街・浜町の冠水水位を記されている。また、豪雨災害を踏まえた都市づくりのあり方が地域代償(自治体、商工団体、議員等)も参加した「長崎防災都市構想策定委員会」において評議された。					

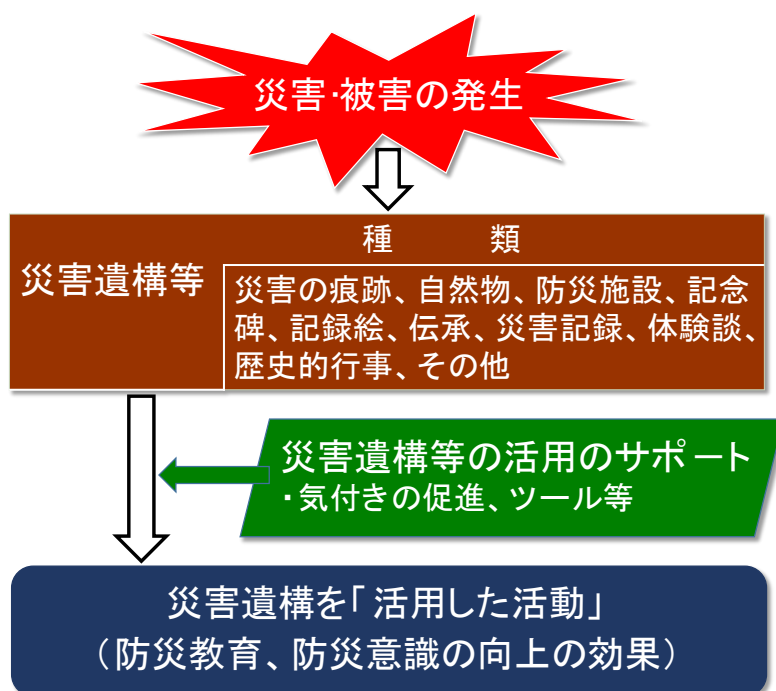
災害遺構等の情報を収録するデータベースなど

64	三重県地震碑・津波碑の集成『いのちの碑』	地震津波	1496以降複数	明応地震津波 宝永地震津波 安政南海津波	石碑・刊行物	2015	三重県内	三重県内における地震碑、遺戒碑などの写真・所在地等のデータを収録している。				新田康二(三重県南伊勢高等学校教諭)	教育関係者	
65	津波痕跡データベースシステム	地震	1498以降複数	有史以来の歴史津波	データベース	2007	津波痕跡データベース URL: http://irides.tohoku.ac.jp/project/tsunami-db.html	原子力発電所等の安全性評価に活用するために津波専門家との協働で、東北大学および原子力安全基盤機構(現 原子力規制庁)が、津波の痕跡データをインターネット上で一般公開している。				東北大学災害科学国際研究所、原子力安全基盤機構	研究者、企業	
66	宝永地震被害城郭データベース	地震津波	1707	南海トラフのほぼ全域にわたリプレート間の断層破壊が発生したと推定され、記録に残る日本最大級の地震とされてきた。高知などでは液状化が発生。	データベース	2014	https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zY9K-Q7KwmlkqfMRELygZM&hl=en_US	「楽只堂年録」(宝永4年柳沢吉保の公用日記)の城郭被害に関する記述を抜き出し、該当する城郭の所在地をマップ化、マーカーをクリックすると地震に関する絵図・文書などが表示される。					北原委員報告 2015.10.15	
67	四国防災八十八話	地震津波水害	複数	有史以来の洪水・土砂災害・濁水・高潮・津波	データベース	2008	四国防災八十八話 URL: http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/	四国四県で発生した洪水・土砂災害などの歴史や伝承をまとめ公開している。				国土交通省四国地方整備局、愛媛大学	地域住民・学齢児童	
68	天竜川上流域災害教訓伝承手法検討会	水害	江戸時代以降複数	江戸時代から明治・大正・昭和の天竜川災害			長野県		防災	2007	災害教訓伝承事例のとりまとめ、巨訓電抄ツール、伝承授業、伝承講座、散策	座長:笹本正治 信州大学教授を中心とする学識経験者・教育関係者(平成19~21年)	有識者	天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと事例 URL: http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/flood/densho/pdf/tebiki.pdf
69	津波デジタルライブラリ	津波	明治以来複数	明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、昭和南海地震、昭和東南海地震	データベース	2003	津波デジタルライブラリ URL: http://tsunami-d.jp/	過去の津波に関する論文・報告書・雑文・新聞記事をまとめ公開している。津波費の写真・所在情報も掲載。				津波デジタルライブラリ作成委員会	研究者、企業	
70	四国防災アーカイブス	地震津波水害	1896以降複数	四国での災害	データベース		四国防災アーカイブス URL: http://www.shikoku-saigai.com/	四国内の郷土史、写真集、論文等の収集し被害の様子を掲載している。				四国防災アーカイブス事業検討委員会	地域住民	
71	水害情報発信—水害の記録と記憶—(滋賀県HP)	水害	1933以降複数	滋賀県内で発生した水害	データベース		水害情報発信サイト:URL http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/	滋賀県内の水害に関する「記録と記憶」の収集・整理				滋賀県	地域住民	水害情報発信—水害の記録と記憶—URL: http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/hanran/index.html
72	地すべり資料館	地すべり	奈良、鎌倉時代	昔、比丘の所にお経を書いてもらいに来ていた猿が、頭を土に埋めて死んでいた。『今昔物語集』より。	伝承	不明	新潟県上越市	奈良時代や鎌倉時代の伝承が残る”猿供養寺”						
					資料館	1992	〒944-0125新潟県上越市板倉区猿供養寺402-1	”猿供養寺”の地名・伝承について映像などを展示						

73	雲仙普賢岳噴火	火山	1990～1995	1990-1995の内に3回の噴火があった。水蒸気爆発として始まり、噴火で大量の火山灰が山腹に堆積した。火砕流が4.3km流下し、島原市北上木場町で死者・行方不明者43人、建物の焼失約170棟という被害が出た。	施設	2002	旧大野木場小学校被災校舎（長崎県南島原市深江町戊3243）	雲仙岳災害記念館は、災害の構成への伝承を目的とし、フィールドミュージアムの中核施設として建設。火山体験型ミュージアムや土石流の埋め立て地の展示。	防災教育	2012	防災教育チャレンジプラン「阿蘇五岳のふもと中松～火山との共生～」では、阿蘇の自然について、小学生児童によるジオパーク国際ユネスコ会議で発表、水害避難訓練の実施、修学旅行における雲仙岳災害記念館の訪問、阿蘇の世界ジオパーク登録に向けての活動などを実施した。	南阿蘇村立中松小学校	小学校3～6年生	杉本委員報告 2015.11.17
					施設	1999	旧大野木場小学校被災校舎（長崎県南島原市深江町戊3243）	旧大野木場小学校被災校舎・大野木場砂防みらい館では、火砕流に被災した大野木場小学校や土石流に被災した家屋を公園として保存。						
74	名古屋大学減災連携研究センターの取り組み	地震津波		南海トラフ巨大地震等の危険が指摘される東海圏（愛知・静岡・岐阜・三重）の歴史災害情報の発信や防災意識の啓発活動	資料館	2014年	減災館	減災ギャラリーとライブラリーを設置、一般市民に開放し、最先端の減災研究や歴史災害についての常設展やパネルと紙芝居を作成した企画展を実施。また各地でキャラバン隊が展示会を開催。愛知県内の碑・史跡について位置情報や関係情報を集約・整理した個票を作成。	研究	2012～	中部「歴史地震」研究懇談会では、歴史地震に興味ある全ての市民が参加を目指して活動。事務局を名古屋大学連携研究センターにおき、年2回の会合をもち、会員から研究成果を発表する。	名古屋大学	地域住民	福和委員報告 2015.10.15
					データベース	2014年	歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト URL: http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/	研究	減災連携センター内の勉強会として、様々な分野の研究者20人弱で勉強会を実施。					
					ガイドマップ	2012～	歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト URL: http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/	歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドとして愛知県を6つのブロックにわけ、碑・史跡や被災を受けた記録のある場所をプロットし、周辺情報を記載したガイドを発行。キャラバン隊（災害伝承伝え隊）が派遣先で配	イベント	2012～	「新緑ピクニック」では、名古屋市内の地震関連の史跡についてピクニック形式での町歩きを実施。		地域住民	
					パンフレット	2013～	歴史地震研究プロジェクト http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/guide.html	「見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち」では、愛知県内の地震にまつわる碑や史跡の紹介、史跡やイベント・名物を交えて紹介。						
パンフレット	2015～	歴史地震研究プロジェクト http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/guide.html	「歴史地震探索まちあるきガイド」では、指定地域内の地震に関する碑や史跡をめぐるルートを紹介。											

第3章 「災害遺構等」の効果的な活用方法と促進策

災害遺構等を防災教育や防災意識の向上に活用するには、その活用を促進するツールや環境を整えることが必要である。その概念図は次のとおりである。



第1節 災害遺構を活用した活動例の効果的な提示方法

本調査研究で目指す災害遺構等の地域での活用とは、誰でも、例えば子供が一人でもできる、お金もあまりかからず、気軽で簡単な方法でも十分であり、かつ、楽しい活動の中で防災力も高める取組も積極的に含めるものである。したがって、多くの人が関わる本格的な災害遺構等の活用の取組や、立派な施設整備を伴う取組を典型とする立場ではない。

以下では、第2章で収集・整理した「災害遺構等」の活用事例を踏まえて活動例の効果的な提示方法を整理した。例えばHPを通じて対象者に周知する場合、以下の項目を切り口として事例を抽出整理して提示することが有効だと考えられる。

1. 地域別の整理

近隣での取組にはどのような災害遺構等があるかを知らせる方法である。近隣に災害遺構等が存在しているかを、わかりやすい場所の説明と、その災害遺構等の持つ意味を情報提供がで

できれば、それを見てみたいとの気持を持ってもらうことが期待できる。さらに、それが地域の防災の教育・啓発などに活用されているものであれば、どのように活用されているかの情報提供ができれば、自分で、あるいは地域のグループで活用してみようとするような促進効果が期待できる。具体的には、ウェブサイトにおいて、地域ブロック別、都道府県別に、利用者が自分の地域の近くにある災害遺構等の例や、実際の活用事例を知ることができるようにする。

なお、各都道府県で災害遺構等の情報が1つもなければ、当該地域での促進効果が薄くなりかねないので、事務局として、このような事情に配慮して災害遺構等の情報収集を行うことが期待される。

2. 「媒体」別の整理

過去の災害をどのような媒体、すなわち、「何によって」伝えているかによって分類・整理して、それに基づいて対象者に示していく。第1章第1節で示した媒体の種類を再掲する。

(1) 自然物

① 災害の痕跡

例：地震による隆起（例：元禄地震の房総半島）

目に見える断層（例：根尾谷断層、三河断層）

噴火による泥流の跡（例：浅間山噴火）

洪水の決壊口の跡（例：カスリーン台風）

津波で内陸に運ばれた津波石（例：沖縄の津波石）

② 災害痕跡のサンプル

例 液状化の剥ぎ取り地盤（例：清洲城・名古屋大学）

③ 災害痕跡の写真、ビデオ

(2) 人為的なもの

① 被災した建築物、構築物で保存されてきたもの

② 被災後に整備された防災施設や復旧・復興が反映された構造物（例：稲むらの火の堤）

③ 災害に関する文字の記載のある記念碑（例：石碑、木板、壁書）

④ 災害に関係して製作された象徴的なモノ（例：神体、位牌）

⑤ 古文書における災害記録で、現代語に訳されているもの

⑥ 災害の状況の記録絵（例：濃尾地震の浮世絵）、記録写真・ビデオ

⑦ 地域の災害に関する伝承、言い伝え、説話

⑧ 地域の災害に関する歴史的行事

⑨ 現代語による災害の記録や体験談

⑩ 現在時点で災害の情報を整理して保存しているもの（例：データベース、ガイドマップ）

⑪ 現在時点で災害に関するモノを知りして展示しているもの（例：災害の記念館、メモリアルパーク）

3. 災害の種類別の整理

災害遺構等が形成された原因となる災害ごと、すなわち、地震、津波、火山噴火、洪水、土砂災害、高潮などに分けて整理する方法である。

4. 災害の発生年代別の整理

災害遺構等が形成される原因となった災害の発生年代別の整理する方法である。例えば、室町時代以前、室町時代、安土桃山時代、江戸時代前期、江戸時代後期、明治時代、大正時代、昭和元年～20年、昭和21年～40年、昭和40年～64年、平成元年～などで年代別を設定する方法などが考えられる。

5. 「活用」の方法別の整理

災害遺構等が地域の防災意識の向上や防災教育に活かされている、その活用の具体的な方法の種類に分けて示す方法である。例えば、以下のような方法の分類が考えられる。

- ① 地域活動…地域の防災マップ、ハザードマップの作成など地域活動の要素として活かされているもの（子供が主体、大人が主体など、主体の年代は様々なものが考えられる）
- ② 学校教育…学校の授業・課外活動などで取り扱われているもの
- ③ 年中行事…住民の自発的な年中行事として継続的に行われているもの
- ④ 祭礼…宗教的背景から実施されるもの
- ⑤ 単発的なイベント…地域の単発の防災イベントとして実施されているもの
- ⑥ 展示…博物館・資料館などで展示されているもの

なお、これらの活用の方法の提示に当たっては、災害遺構等を実際に見てみるだけでなく、高度な活用まで求められているといったハードルの高い取組であると理解されることを避けるため、まず、自分で見て考えるだけでも意義があることを説明し、また、気軽にまねのできる活用事例も掲載していくなどの配慮をしていく必要がある。

6. 活用の取り組みの主な担い手の年齢層別の整理

災害遺構等を地域の防災力向上などに活用している取組の主な担い手の方の年齢層別に整理する方法である。例えば、小学校低学年以下、小学校高学年、中学生、高校生、大学生、大学院生、20歳代～30歳代、40歳代～50歳代、60歳代以上などに分けることが考えられる。

第2節 「災害遺構等」の活用の支援方法

本調査研究で目指す災害遺構等の地域での活用とは、難しいものや高度なものではなく、誰でも（例えば、生徒が一人でも）気軽に簡単な方法で既に地域に存在する災害遺構等に気付き、歴史を踏まえた防災の教訓を知り、できれば地域の防災教育・啓発に役立てるといえるものである。また、楽しい活動の中で防災力も高める取組も積極的に含めるものである。そこで、災害遺構等の活用にあたり、各地域における手厚い支援体制を不可欠のものとするわけではない。しかし、災害遺構等の実物を見て活用に対するサポートを地域において準備していくことは、それを実現しやすくする効果がもちろん期待できることから、そのサポートのあり方の検討も重要である。

1. 実物を見て活用する行動の支援方法の種類

(1) わかりやすい地域の災害情報資料の作成と公表

まず、地域の災害遺構等を捜そうとする前の段階において、やさしい地域の災害についての資料を、子供向けを含めて用意し、地域にどんな災害が今まであり、どんな災害の教訓が残されているかに対して関心を高めることも有効であろう。そして、これを基に、地域に存在する災害遺構等の紹介の資料に興味をつなげていくことが考えられる。このやさしい地域の災害についての資料の例を①に例示した。さらに関心を深めた者に対しては、より詳しい災害の全体像の資料が読まれることも考えられ、その資料の例を②に例示した。

ただし、このような地域の災害情報の資料を単に作成しただけでは、興味を持ってくれる人が読むだけで、あまり広がらないことに留意する必要がある。さらに、その資料が専門的であると、これを理解して活用できるコアの人材がいなければ地域に広がらない。

① 地域の災害の歴史をより容易に知ることができる手段・ツール

例1：内閣府パンフレット「災害を語り継ぐ～困難を生き抜いた人々の話 全11話」

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/img/saigaishi.jpg>



例2：内閣府パンフレット「災害時に学ぶ」（掲載HPアドレスは同上）

風水害・火災編、火山編、海溝型地震・津波編、内陸直下型地震編



例 3：名古屋大学減災連携研究センターのパンフレットや教材の作成
 ・まち歩きガイド、地図ガイドなど



例 4：地域の市町村史

地域の市町村史の災害記録を抽出し、データベース化（WEB でアクセス可能）としておく方法。その地域で発生した災害やそれに関する歴史記録が、地域の自然・地形の特徴に関する情報とともに掲載されている。そこで、地域に存在する災害遺構等を把握する際、手がかりとなるであろう。地域の大学の役割として実施可能なので、内閣府が全国的に働きかけてはどうか。

例えば、1989年に刊行された『三陸町史 第4巻 津波編』のように、災害編を独立して刊行する事例も増えつつある。また、宮城県仙台市では、仙台市史編さん事業を1991年から2015年まで実施し、全32巻が刊行された。東日本大震災大震災で甚大な津波被害をうけた仙台市沿岸部の地域では、地元で発生した過去の災害や復興の歴史、自然的特徴を示す旧地名などについて、『仙台市史』をベースとして地域に根ざした防災教育の構築が試みられている。

このほかの例として、

- ・災害の年表と歴史の年表を並べて示す。

- ・小学校によくある昔の空中写真は、地域の歴史の入口にできる。
- ・地域の歴史災害を GIS で示す。
- ・関連資料のライブラリーの整備

② 過去の大災害の全体像を学べる資料の活用

地域の災害遺構等に対してある程度関心を高めたら、その原因となった災害の全体像を学ぶことができるようにする。例えば、内閣府が策定してきた過去の災害教訓の継承のための報告書があり、詳しい内容が記述されている。ただし、地域の防災教育や防災意識の向上のためにこれまで広く活用されていたとはいえない。

例：内閣府の歴史的災害に関する「災害教訓の継承に関する専門調査会等における報告書」
内閣府 HP「専門調査会等における報告書」（掲載 HP アドレスは同上）

【地震・津波災害】

- ・ 1662 寛文近江・若狭地震（平成 17 年 3 月）
- ・ 1703 元禄地震（PDF 形式:12.2MB）（平成 25 年 3 月）
- ・ 1707 宝永地震（平成 26 年 3 月）
- ・ 1847 善光寺地震（平成 19 年 3 月）
- ・ 1854 安政東海地震・安政南海地震（平成 17 年 3 月）
- ・ 1855 安政江戸地震（平成 16 年 3 月）
- ・ 1858 飛越地震（平成 21 年 3 月）
- ・ 1891 濃尾地震（平成 18 年 3 月）
- ・ 1896 明治三陸地震津波（平成 17 年 3 月）
- ・ 1923 関東大震災（第 1 編）（平成 18 年 7 月）※平成 24 年 11 月 19 日訂正
- ・ 1923 関東大震災（第 2 編）（平成 21 年 3 月）
- ・ 1923 関東大震災（第 3 編）（平成 21 年 3 月）
- ・ 1944 東南海地震・1945 三河地震（平成 19 年 3 月）
- ・ 1948 福井地震
- ・ 1960 チリ地震津波（平成 22 年 1 月）

【風水害】

- ・ 1947 カスリーン台風（平成 22 年 1 月）
- ・ 1959 伊勢湾台風（平成 20 年 3 月）
- ・ 1982 長崎豪雨災害（平成 17 年 3 月）

【火山災害】

- ・ 1707 富士山宝永噴火（平成 18 年 3 月）
- ・ 1783 天明浅間山噴火（平成 18 年 3 月）
- ・ 1888 磐梯山噴火（平成 17 年 3 月）
- ・ 1914 桜島噴火
- ・ 1926 十勝岳噴火（平成 19 年 3 月）
- ・ 1990-1995 雲仙普賢岳噴火（平成 19 年 3 月）

【火災】

- ・ 1657 明暦江戸大火（平成 16 年 3 月）
- ・ 1976 酒田大火（平成 18 年 3 月）

【その他の災害】

- ・ 1890 エルトゥールル号事件（平成 17 年 3 月）

(2) 地域の災害に関する啓発・周知活動

上述の資料による情報提供に加え、地域の災害に関する未経験者でも抵抗なく参加できるような啓発・周知活動が、災害遺構等の活用のサポートとなるであろう。例えば、地域の災害に関するセミナーの開催（例：雲仙普賢岳の子供を募集した「防災塾」）、勉強会（例：名古屋大学の「古文書を読む会」）、ピクニック（例：ジオパーク、名古屋大学の「歴史地震研究会」）、キャラバン隊（名古屋大学）、キャラクター作り（名古屋大学）などがある。

(3) 災害遺構等の保存状態の改善活動

一方で、活用の可能性がある災害遺構等について、保存状態が悪い場合には、その改善を行うことがその災害遺構等に触れ、地域の防災に活用するためのサポートの活動にもなり得る。改善が必要な例として、委員会では、カスリーン台風の決壊口、水塚などが委員から紹介された。

2. 活用活動の支援体制・啓発拠点

委員会では、災害遺構等の存在や活用方法の情報提供だけでなく、地域での活用の取組について、相談に乗り、支援し、地域の人たちをやる気にさせる「コーディネーター」が存在することが有効であるとの指摘があった。

例えば都道府県ごとに1か所ぐらいは、防災の啓発を行う組織で、災害遺構等の活用の活動についても相談に乗り、支援してくれる人がいるところがあるだろうから、こういった組織を紹介し、このような人との出会いを促進することが有効であるとの指摘があった。その組織・人とは、(1)～(5)のようなものが考えられる。

ただし、これらの相談や支援に対応可能な組織の担当者や人が、一般には多忙であることも多いため、個別の災害遺構等の活用の相談に実際に乗れるかどうか懸念されるとの意見もあり、こういった組織・人のウェブサイト等での紹介のあり方については議論が必要である。

(1) 地域の博物館、大学の研究者によるサポート

地域の歴史を紹介している博物館などの施設や大学が、相談・支援を行う組織として有望と考えられる。東日本大震災後、博物館の中には災害関係の企画展示を行ったところも多いので、組織としての関心も高まっているであろう。

このような博物館、大学等の中に、地元の災害被害を減らしたいと強く思う災害に知見のあるキーパーソンがいると、地域における災害遺構等の活用取組に対するサポートの実践がやりやすいと考えられる。例えば、博物館ではフェイス・トゥ・フェイスで興味を持った来訪者には人が説明対応するような仕掛けを組み入れているところもある。

加えて、大学などのサポートについては、グループ内に防災の専門家ではない人も参加していると、子供をはじめとする地域住民の活動のサポートにむしろ有効との委員からの指摘もあった。

関連して、大学や博物館などが地域の災害記録や災害遺構等の資料を集めることでサポートをする場合、大学や研究者だけでは収集が容易ではない。そこで、例えば、名古屋大学では、減災館への来場者に地域の災害記録の関連資料を持ち寄っていただくように呼びかけを

行っている。

(2) 行政の防災担当組織の職員

地方公共団体の防災担当部局や防災を仕事とする国の出先機関における防災の普及啓発担当者が、過去の災害の歴史を理解し、災害遺構等について知見を得ておけば、有力な支援者となることが期待できるであろう。ただし、ほとんどの地域では、防災担当の行政職員の数は少数で、別の防災業務を兼務していることが多く、多忙で個別の対応まで可能かどうかについては懸念がある。

(3) 学校教育によるサポート

児童が災害遺構等を活かした取組を行うには、小学校の教師が指導したり、小学校の総合的学習の時間で扱ったりすることが明らかに有効である。例えば、過去の災害の被害や災害時の出来事、教訓を伝えるなどが有効と考えられる。これらには歴史の教員などが役割を果たして頂く主体として有望であろう

ただし、学校の歴史の教員があまり災害のことを知らないことが多いのが実態なので、地域の災害の歴史について歴史の教員にまず知ってもらうことが必要である。また、学校の先生は「パンフレット類の送付が多く、活用する時間がない」状況であるので、単なる学校への資料の送付だけではさほど効果が期待できないことには留意が必要である。

この他、学校の課外活動としては、学校の歴史クラブなどの部活動における災害遺構等の活用も有望だと考えられる。

(4) 災害遺構等について学んだ高齢者によるサポート

若年層は、将来の防災の担い手であり、また、学ぶ機会が多いことなどから、地域での災害遺構等の活用について若年層を主なターゲットにすることが有望であるが、その場合においても、災害遺構等に関してある程度知識のある高齢者の参加が有効であると考えられる。高齢者には地域での様々な経験があり、地域の歴史を知っているので、子供達の地域の防災の学びに協力してもらえると有効である。また、退職した高齢者には比較的使える時間があることも有利な要因である。

(5) 他の組織のサポート

以上であげた組織のほか、近年広くみられるようになっている公民館の生涯教育の活動などが、災害遺構等の情報を共有し、活用する活動の場として有効ではないか考えられる。さらに、自主防災組織や防災に関する NPO のメンバーで、災害遺構等の知見がある方なども役割を果たせると考えられる。

なお、上述の「防災の啓発拠点」について、全国各地でどのような拠点があるのかについて、リストがないことが課題であり、以上のような取組を促進するためにも、政府が呼び掛けてリストを作るべきとの意見があった。

3. 防災教育支援プログラムでの「災害遺構等」の活用事例

現在、防災教育支援プログラムとしては次のようなものが実施されている。そこで表彰された事例の中には、「災害遺構等」を活用した事例もいくつかある。

防災ポスターコンクール	内閣府は、毎年の防災週間行事の一環として、一般から広く防災に関するポスターデザインを公募することにより一層の防災意識の向上を図るため、防災ポスターコンクールを行っている。平成 21 年度で 25 回目を数える。
防災教育チャレンジプラン	全国の学校や地域で取組まれる防災教育を推進するための新しい企画・取組を 1 年間サポートするもの。企画の準備・実践のための経費、担当実行委員による相談などの支援を行う。公募で選ばれた企画は 1 年間の結果を中間報告会とワークショップで発表し、アドバイスを受け、防災教育大賞、優秀賞、特別賞が授与される。防災教育チャレンジプラン実行委員会の主催で、内閣府を始めとする各省庁、各団体などの後援で実施。
ぼうさい甲子園 (1.17 防災未来賞)	学校や地域で防災教育に取り組む子どもや学生を顕彰するもの。毎日新聞社が兵庫県、(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構との共催で行っている。小学生、中学生、高校生、大学生の 4 部門で、応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域など。応募する学校や団体の取組は、福祉、環境問題、街づくりなどさまざまで、表彰式とともに活動成果の発表会も行われる。
小学生のぼうさい探検隊マップコンクール	子どもたちが楽しみながらまちの防災、防犯、交通安全の施設や設備などを見て回り、地図にまとめて発表する安全教育プログラム。地域への関心が子どもたちから広がり、防災・防犯・交通安全への意識の高まりや、安全で安心な地域社会の強化へつながることを目的とする。平成 16 年度に始まり、平成 21 年度は 297 校・団体から 1,389 作品の応募、約 1 万人の小学生が参加した。(社)日本損害保険協会が朝日新聞社、ユネスコ、NPO 法人日本災害救援ボランティアネットワークとの共催で行っている。

防災教育チャレンジプランの表彰対象のうち「災害遺構等」を含むもの

年	団体名	地域	対象	災害名	概要
2014	飯田市赤十字奉仕団	長野県飯田市	中学生、地域住民、社会人・一般	飯田大火 (1947)	昭和 22 年 4 月 20 日発生した飯田大火と中学生によって作られたりんご並木を題材とした紙芝居及び紙芝居 DVD を制作
2012	南阿蘇村立中松小学校	熊本県南阿蘇村	小学校 (高学年)		阿蘇の大自然の恵みに感謝しつつも自然災害とも紙一重の所に住んでいることを自覚できた。今後、学んだことをより多くの場所で、多くの人々に発信していきたい。今後の継続予定。学んだことを多くの場所で演劇により訴えるとともに、紙芝居にまとめて、これからはずっと語り継がれていけるよう取り組んでいきたい。
2010	西の地防災きずな会	徳島県美波町	小学生 (高学年)、中学生、地域住民、防災関係者	昭和南海地震 (1946 年)	昭和南海地震の発生から 64 年が経ち、今、その体験談を映像等に残しておかなければ地元の大学と連携して、昭和南海地震の体験談を中心とした地域独自の防災動画教材 (DVD 2 枚組) を制作し、地元の小中学校をはじめ自主防災組織、県立防災センター等に配布し、教訓という名のタスキを次世代につなぎ、次の南海地震に向けて防災力の向上を図る。
2009	和歌山県立新翔高等学校 防災デザイン選択生	和歌山県新宮町	保育園児	昭和東南海地震 (1944 年)	「防災紙芝居」を昭和の東南海・南海地震の体験談や過去の資料をもとに高校生が自分たちで制作する。近隣の保育園で防災紙芝居を上演したり、その内容に関するクイズを実施したりすることで、楽しみながら防災学習を実施することができる。

2008	名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト	愛知県	小学校 (高学年)	東南海 (1944年)・三河地震(1945年)	土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、地震・災害のしくみと防災のあり方 「地域の歴史災害」をキーワードに、地域で過去に何が起こったのかを子どもたちが学習することで「子どもたちの防災マインド」を育てる。地域の被災体験を語り継ぐことによって、地域の歴史・風土・災害文化を子どもたちに継承していくことができる。また、子どもたちが学んだことを学芸会などで発表することによって、子どもたちから家庭・地域へ防災の知恵を広げていくことができる。
2007	黒石校区コミュニティ協議会	山口県宇部市	校区住民約 7,500人 (内小学生 450人 中学生 400人)	周防灘台風 (1942年)	昭和 17 年 8 月当地区を襲った周防灘台風は、65 年経った今も多くの人々の心の傷跡として残っているが、体験者の高齢化に伴い風化しつつある。この悲惨で貴重な体験を後世に語り継ぐための諸事業を行う。
2005	高知県立高知東高等学校	高知県土佐市	全校生徒および高知市内公立高校、兵庫県舞子高校	宝永地震 (1707年)、安政地震(1854年)、南海地震(1946年)	全国で唯一「環境防災科」を設置し、自然災害について専門的に学んでいる兵庫県立舞子高等学校の高校生を招いて、これから南海地震を経験する可能性のある高知の高校生どうしが、「防災」について考え、何ができるかを話し合う。(ワークショップ・フィールドワーク) 土佐市宇佐地域は、1707年の宝永、1854年の安政、1946年の昭和の南海地震で、繰り返し津波の被害に遭っています。その史跡を訪ねるとともに、住民主体の津波対策をすすめる地域の取り組みを聞く。県立坂本龍馬記念館の「幕末の大地震展」の見学。防潮堤などの観察を行う。五台山展望台より高知市内を一望し、昭和の南海地震で浸水した区域を、当時の写真と比較する。

防災甲子園の表彰対象のうち、災害遺構等を含むもの

	団体名	地域 1	地域 2	対象	災害名	概要
平成 17 年	愛南町立中浦中学校	愛媛県	愛南町	中学生	昭和南海地震	ハザードマップ作成のため、地域内のフィールドワークを行い、その中で昭和南海地震を経験したお年寄りからの聞き取りを実施した。生徒がまとめたマップは同じ地域の小学児童に紹介した。
平成 17 年	高知市立浦戸小学校	高知県	高知市	小学生	昭和南海地震	上記同様、災害の聞き取りを実施
平成 17 年	名護市立真喜屋小学校	沖縄県	名護市	小学生	チリ津波	上記同様、災害の聞き取りを実施
平成 18 年	岩手県立宮古工業高等学校	岩手県	宮古市	小学生等	昭和三陸津波	昭和三陸津波の体験者の話を聞き、津波模型を作成
平成 20 年	新居浜市多喜浜小学校	愛媛県	新居浜市	小学生	宝永、安政	地域内にある塩田だった場所の特性や南海地震を体験したお年寄りの話を聞き、特徴をまとめる
平成 22 年	小山市立下生井小学校	栃木県	小山市	小学生	カスリーン台風	防災宿泊学習の中で、カスリーン台風の被害、水害の歴史を学ぶ講話を実施。

その他の著名な取組で災害遺構等を含むもの

釜石市立釜石東中学校	岩手県	釜石市	中学生	チリ津波ほか	防災教育授業の一環で、地域に残されている津波記念碑などの遺跡調査、チリ津波などの体験談の取材、郷土資料館での取材などを行う
------------	-----	-----	-----	--------	---

印南町立印南中学校	和歌山県	印南町	中学生	宝永、安政、昭和	学級活動の一環で、平成17年から5年間、生徒による津波研究班を結成、印南町内の津波の調査などを行う（町内の合同位碑、合同墓碑の聞き取り、古文書などを調査）。これらの調査を元に、紙芝居「印南のキセキ」を作成、地域の普及などに活用
徳島大学 美波町地域づくりセンター	徳島県	美波町	小学生	宝永、安政、昭和	徳島大学・美波町地域づくりセンターが、地域の行学生を対象に、旧由岐町の昭和南海地震における被害の様子や過去の南海地震の津波碑、古文書など紹介
愛媛県：愛媛大学防災情報研究センター	愛媛県	新居浜市ほか	小学生・中学生		四国各地に残る自然災害に関する教訓を集めた「防災四国八十八話」の小学生向けの紙芝居版や漫画版を作成。これを題材に、紙芝居と本を題材にした読書感想文コンクールなどを実施
駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム運営協議会	長野県	駒ヶ根市		伊那三六災害ほか	災害にまつわる話をまとめたマップや防災学習用資料、ガイドブックなどをとりまとめている

第4章 「災害遺構等」活用の取組のホームページでの紹介

災害遺構等を地域の防災認識の向上や防災教育に活用するために、本調査研究により情報収集した活用が可能と考えられる災害遺構等の紹介や、具体的な災害遺構等の活用事例を、一元的に、内閣府ホームページまたは「TEAM 防災ジャパン」への掲載を行うことを前提に、その具体的な方法を示す。

1. 情報提供サイトの基本的な考え方

(1) 幅広い層へのわかりやすい提示

情報提供サイトへの掲載にあたっては、各地域において、広く子供から高齢者までの幅広い国民が災害遺構等に関心を持ってもらえるように配慮する必要がある。このためには、まず、住まいや職場の近くに災害遺構等が存在していることを知らせることが有効であり、少なくとも同じ都道府県内の例を示すことが望まれる。また、各地域において自発的に災害遺構等の活用の取組が、個人あるいはグループで実施してもらえよう、情報を見やすく、わかりやすく視覚的に整理するなどの配慮も必要である。

そこで、写真やイラスト、場所の地図などを掲載して地域の人々が発見しやすいように配慮しつつ、災害の発生した地域の属性、災害遺構等の設置や形成の経緯、歴史的背景も記載して関心を高め、理解を深めることが有効と考えられる。

また、災害遺構等の活用の事例の紹介にあたっては、各地域での防災教育や啓発などの実際の活用方法が、得られた防災に関する教訓を含め、見やすく理解しやすく示されるホームページの案を作成することが望まれる。

そして、この情報提供サイトを活用しようとする地域の子供から高齢者までの様々なユーザーが、このウェブサイトの中で、簡単に

- ① 近隣の取組の把握
- ② 災害遺構等の種類ごとの把握
- ③ 災害種類ごとの把握（類似の地域性を持つ地域の取組の把握にも役立つ）

などの検索が行いやすいよう、構成や機能を工夫すると有効であろう。

(2) 情報提供の詳しさのレベルづけ

情報提供サイトでは、一番詳しい情報レベルとして、地域での実際の災害遺構等の活用の事例を紹介し、各地での災害遺構等の今後の活用の具体的な参考としてももらう。次に、2番目に詳しい情報レベルとして、現在活用されていないものの、今後、災害遺構等として活用の潜在的可能性があるものを個別に紹介し、当該地域での活用を促す。そして、3番目として、災害遺構等を紹介しているデータベース、コレクション、図録等の文献などをリンク先として紹介し、地域に根付いたものも含め、既存の情報をなるべく多く拾っていきけるようにする、といった方法が考えられる。

一般に、興味を持つきっかけとしての入口の情報は簡潔で情報量は多くなくてよく、まずは災害遺構等の実物を見てみようという気持ちが動くような内容でよいと考えられる。その後、災害遺構等に興味を持った後は、より詳しい情報が欲しくなるので、そのニーズに合わせて歴史、意義などの詳しい情報や同様の種類の災害遺構等の地域での気軽な活用例などへとたどれるようにするとよい。

3. 情報サイトの作成後の充実

情報提供サイトの内容については、一度作成をした後に、地域の活用の取組が進展したり、新たな災害遺構等の発見・発掘があったりすることも考えられるので、掲載する情報の内容の追加・充実や、時点更新の方法、すなわち継続的な情報提供のあり方についても考慮されることが望ましい。特に、自らの活用の取組がこのサイトに追加として掲載されれば、それがさらなる活動の励みになる可能性もある。

この追加のためには、取組事例の掲載の共通のフォーマットを用意しておき、それに記入して提出された取組内容を評価し、掲載の可否を判断していける人材・体制を継続的に確保していくことが課題であろう。

さらに、自然災害の発生が多く、そのために防災の備えも先進的と評価されている我が国における災害遺構等の活用事例については、防災教育等の視点から国際的にも強い関心が寄せられていると考えられることから、英語版の作成の必要性・可能性についても将来的に検討していくことが望ましいであろう。

2. 情報提供サイトのイメージ

情報提供サイトの第一画面には、サイトの標題、サイトの作成趣旨、簡単な使い方（詳しい使い方は別画面にリンクでとぶことによりみられるようにする。）、検索の初期画面が掲載される。この検索のキーワードについては、「地域」、「災害の種類」、「災害遺構等の種類」、「災害の年代」、「活用の方法」、「活用者の年齢層」が有効と考えられる。

具体的には、次ページからイメージを示す。災害遺構等は、丁寧に調べれば各地に多くみつかれる可能性が高いものである。そこで、各地域で災害遺構等の情報を整理する場合の一つのフォーマットの例として、参考にしていただけると考えている。

< 1 > 第一ページのイメージ

「災害遺構等から地域の防災の知恵を学ぼう！」

災害遺構の写真 1	災害遺構の写真 1	災害遺構の写真 1	災害遺構の写真 1
-----------	-----------	-----------	-----------

このホームページは、地域にある様々な災害遺構等を見つけ、それをきっかけに地域で発生した災害を知ることにより、防災の知恵を気軽に学ぶことをお勧めするものです。楽しい活動とともに防災力を高める事例も紹介しています。身近にある災害の遺構や記録から、あなたも地域の防災の歴史と知恵を学んでみましょう！

以下の項目をクリックすることで、身近な災害遺構等にはどのようなものがあるのか、そして、それをどのように活用すればやさしく防災を学べるのかを、具体的に紹介します。

1. 災害遺構等の活用について説明をみる

- 災害遺構等とは何か [→説明のページへ<2-1-1>](#)
- なぜ災害遺構等の活用が大切か [→説明のページへ<2-1-2>](#)
- 有名な災害遺構等の活用事例は [→説明のページへ<2-1-3>](#)

2. 身近な災害遺構やその活用事例を探す

- 近くの地域にある災害遺構を探す [→県名別のページへ<2-2-1>](#)
- 災害遺構等の種類ごとに探す [→遺構等の種類別ページへ<2-2-2>](#)
- 災害の種類別に探す [→災害の種類別ページへ<2-2-3>](#)
- 災害が発生した年代で探す [→発生年代別のページへ<2-2-4>](#)
- 活用の方法ごとに探す [→活用方法別のページへ<2-2-5>](#)
- 活用している人の年齢層で探す [→年齢層別のページへ<2-2-6>](#)

3. 掲載されている災害遺構等の事例全体を見る

災害の発生年代別にリストをみることができます [→全体リストへ](#)

4. 災害遺構等の活用活動を支援してくれる組織を探す [→都道府県別の組織名のページ](#)

(P) 皆さんの災害遺構等の活用の取組を投稿してください [→投稿のページへ](#)

第2階層の第1グループ、「災害遺構やその活用事例を探す」の各ページのイメージを示す。

<2-1-1> ○災害遺構等とは何か
.....(報告書からの引用).....

<2-1-2> ○なぜ災害遺構等の活用が大切か
.....(報告書からの引用).....

<2-1-3> ○有名な災害遺構等の活用事例は
(活用事例として、災害遺構等のミニ解説書づくり、災害遺構等を含む地域の防災マップ作りや、地域の災害遺構等をめぐるまちあるきマップづくりなどの、一人あるいは少数でも取り組める活用事例を紹介し、さらに、より大きな体制で幅広い取組として、活用事例のコラムとして取り上げた本格的な災害遺構等の活用事例の列挙、およびそのページへのリンクを示す。)

第2階層の第2グループ、「災害遺構やその活用事例を探す」の各ページのイメージを示す。

<2-1> 都道府県名別の災害遺構等のページ

皆さんの身近にある災害遺構等にはどんなものがあるかを検索できます。地域別の中で、災害の種類別などでもわかるようにしています。

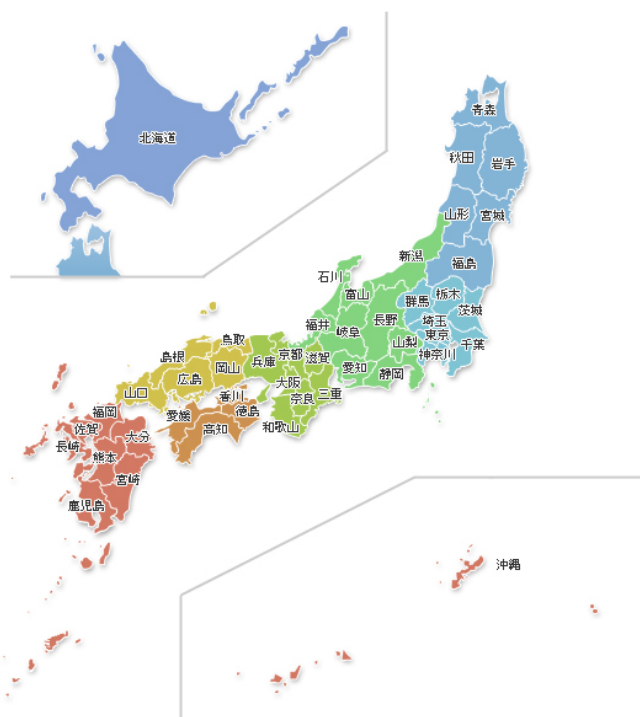
ブロック

- 北海道
- 東北
- 関東
- 中部*
- 近畿*
- 中国
- 四国
- 九州

都道府県

- 青森県
- 岩手県
- 秋田県
- 宮城県
- 山形県
- 福島県

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・



出典：財団法人 地方自治情報センター

<注> 地域ブロックの区域分けについては、発生の多い災害の種類や、災害対策の類似性などの視点で慎重に行う必要があり、特に、上記の区分の中国地方、近畿地方の区分は、では見直ることが必要との委員会での意見があった。事務局として、この意見を踏まえて具体的なブロック分けを検討することとする。

<2-2> 災害遺構等の種類別のページ

災害遺構等の種類別に、どんなものがあるかを検索できます。

災害遺構等の種類		説 明
人が作ったもの	災害を記録した記念碑	写真 地域で過去に発生した災害の状況や教訓が書かれているもの。例えば、石碑、木板、壁書など。
	災害に関係して作られた象徴的なもの	写真 地域で過去に発生した災害をきっかけに作られた象徴的なもの。例えば、神体、位牌など。
	被害を受けた建物や施設で保存されているもの	写真 被害を受けた建物や公共施設が、そのまま保存されているもの。
	災害後に整備された施設や復旧された施設	写真 次の同様な災害に備えて、整備されたり、より強く復旧されたりした施設。例えば、津波の被害をきっかけに、当時の人が築いた堤防など。
	古文書の災害の記録	写真 ・・・
	災害の状況の記録絵	写真 ・・・
	災害状況の写真	写真
	災害に関する伝承、言い伝え、説話	写真 ・・・
	災害に関する歴史的行事	写真 ・・・
自然が作ったもの	地震による隆起、断層、液状化の跡	写真 地震によりできた地面や地層に残った後。例えば、隆起したことがはっきり分ける地形、断層など。
	津波の跡	写真 津波の被害の跡を示すもの。例えば、津波で陸の奥までは運ばれた津波石。
	火山の噴火の跡	写真 火山の噴火の跡を示すもの。例えば、噴火による泥流の跡。
	洪水の跡	写真 洪水で河川の堤防が決壊した後
	地滑りの跡	写真 例えば、液状化の跡の表面をはぎ取ったサンプル
	地形変化を収集したもの	写真

<2-3> 災害遺構等が生まれた原因の災害の種類別のページ

災害遺構等について、それができた原因の災害の種類別に検索できます。

災害の種類	説 明
地震	
津波	
火山の噴火	
洪水	
土砂災害	
高潮	

<2-4> 災害遺構等が生まれた災害の発生年代のページ

災害遺構等について、それができた原因の災害の種類別に検索できます。

災害の発生年代	説 明
室町時代以前	～1336年
室町時代	1336年～1573年
安土桃山時代	1573年～1603年
江戸時代 前期	1603年～1715年
江戸時代 後期	1716年～1868年
明治時代	1868年～1912年
大正時代	1912年～1926年
昭和元年～20年	1926年～1945年
昭和 21年～40年	1946年～1965年
昭和 41年～64年	1966年～1989年
平成元年～	1989年～

<2-5> 災害遺構等の活用方法別のページ

災害遺構等について、それができた原因の災害の種類別に検索できます。

活用方法	説 明
子供の地域の災害を知る活動	防災マップづくりなど
学校の授業で活用	
学校の課外活動で活用	
地域住民の災害を知る活動	
年中行事に活用	
祭礼に活用	
地域のイベントとして活用	
展示としての活用	

<2-6> 災害遺構等の活用している人の年齢層別のページ

災害遺構等を地域の防災力向上などに活用している取組の主な担い手の方の年齢層別に検索できます。

活用者の主な年齢層	特 徴
小学校低学年以下	
小学校高学年	
中学生	
高校生	
大学生	
大学院生	
20歳代～30歳代	
40歳代～50歳代	
60歳代以上	

第2階層第3グループの「掲載されている災害遺構等の事例の全体を見る」のページ

災害発生日別のリスト（第2章「災害遺構等事例リスト」）の主要項目を掲示

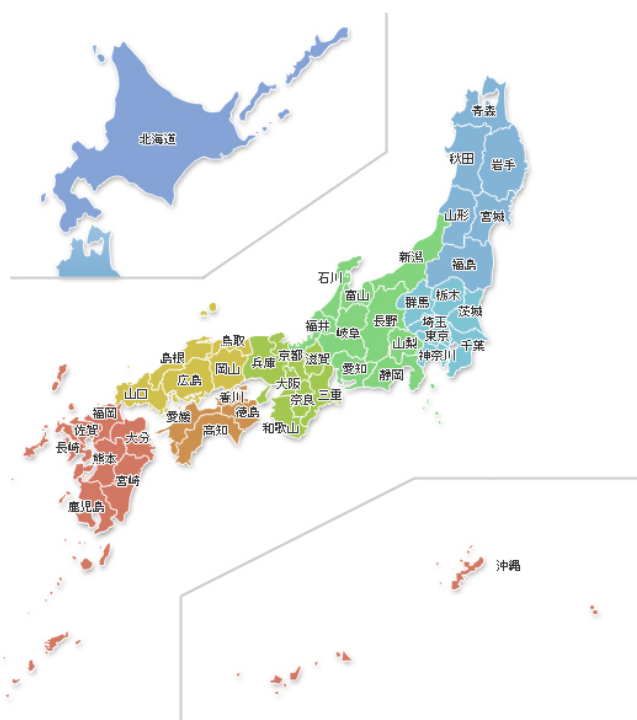
表 災害遺構等事例リスト

№	遺構・遺産名	災害	西暦	災害及び活動の特徴	媒体	設置年	場所	媒体の詳細	活用	活動期間	活用の方法	主体	主な対象	出典	
1	近畿・七道諸国の大地震と平城京の震災痕跡	地震	734	725年と734年に近畿・七道諸国での地震をはじめ、飢饉などさまざまな災害が流行。	建築	734	奈良県奈良市	時の聖武天皇が鎮護国家を目指し東大寺及び盧舎那仏を建立。							
					土馬	734	奈良県奈良市	平城京遺跡の御溝跡から発見される土馬は、古代の祭りや雨乞いの祭祀が行われた際に使われた。							
2	明応地震津波と細江神社の紙圍祭	地震津波	1498	南海トラフを震源とする巨大地震。浜名湖の今切が決壊し、淡水湖が汽水湖となる。	神体	室町時代	静岡県浜松市北区細江町気賀996	細江神社では、この津波のときに漂着した御神体を地震厄除の神として祀っている。	祭礼	～現在	7月第3日曜日にこの津波の際に漂着した御神体を地震厄除の神として祀る紙圍祭が行われている。	地域住民		財 HAMAMATSU.COM http://www.hamamatsu.com/japanese/	
3	天正地震と液状化痕跡	地震	1586	日本海側の若狭湾から太平洋岸の三河湾に及ぶ大地震。山前れによる燐葉城の埋没や長浜による液状化による水没などがあつた。若狭湾・伊勢湾での津波被害もあつた。	地層	災害発生時(1988年の発掘調査で発見)	愛知県清須市	液状化の噴砂が噴出した痕跡、17世紀初頭の「清洲経」の瓦が存在することから、天正地震の痕跡として確認できる。	展示			名古屋大学滅災館において、液状化痕跡の剥ぎ取り標本が常設展示されている。	地域住民	福和委員報告 2015.10.15	
4	徳島県海陽町の慶長・宝永地震津波碑	地震津波	1606	南海トラフを震源とする巨大地震。地震動による被害は少なかつたが、現在の千葉県から九州に至る広範囲の太平洋沿岸に津波が襲来。死者1～2万人を数えた。	石碑		徳島県海陽郡海陽町	慶長9年12月16日(1605年2月3日)に発生した慶長南海地震と宝永4年10月4日(1707年10月28日)に発生した宝永地震の2つの津波についての碑文が刻まれている。							地震調査研究推進本部「徳島県の地震・津波碑」 http://www.jishin.go.jp/main/boosai/kyokai-shien/13stokushima/material/ksm_22_3.pdf
5	慶長奥州地震津波と津波石	地震津波	1611	江戸時代の初期、現在の岩手県三陸沖を震源として発生した地震。	津波石	災害発生時	岩手県宮古市拱待地区	岩手県宮古市拱待地区には、1611年の津波の津波石だとされる拱待の大岩があり、近には明治三陸地震津波の際に流されてきた津波石が存在する。						川島検討委員報告 2015.11.17	
6	明暦江戸大火と慰霊碑	火災	1657	江戸を襲った大規模火災の最初であり、最大規模の火災。被害者数6～7万人か。	古文書	災害発生時	東京都立中央図書館所蔵(港区南麻布5-7-13)	明暦丁意「むさしあぶみ」炎の中を逃げ惑う群衆や幕府による粥施行の様子を描画が記載され、死者は10万人と述べられている。	研究			江戸幕府によって定火消制度の創設、自主的な防災組織の発足のはじまり。	研究者	『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011	
					石碑	1657	回向院(東京都墨田区南国2-8-10)	この大火での犠牲者を供養するために「石造明暦大火焼死者等供養碑」を建立した。現在は回向院に存在しており、東京都の指定文化財とされている。							
7	寛文近江・若狭地震と災害地形	地震	1662	近畿地方北部一帯に大きな被害を出した内陸地震。被災地域全体で死者700～900人、倒壊家屋4000～4800軒。双子地震。	地形	災害発生時	大津市葛川町居地区	町展開れと呼称されるこの大規模土砂崩れで形成された天然ダム(河道閉塞)が冠水し、大池が残った。						『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011	
					地形	災害発生時	福井県三方郡御浜町・三方上中郡若狭町	三方五湖とは、三方湖・水月湖・音湖・久々子湖・日向湖から生じたもので、音湖から久々子湖に流れる気山川の地盤が寛文の大地震により隆起、川の機能を失う。							
					絵図	1996	東京堂出版	浅井了意『かなめいし』には、地震によって八坂神社の石鳥居が倒壊し、地震に驚いた茶屋の客たちが逃げ回っている様子が描かれている。							

<2-4-1> 「災害遺構等の活用活動を支援してくれる組織を探す」のページ

災害遺構等の活用活動を行うのにあたり、皆さんを支援してくれる組織が検索できます。

ブロック	都道府県
北海道	
東北	青森県 岩手県 秋田県 宮城県 山形県 福島県
関東	・
中部*	・
近畿*	・
中国	・
四国	・
九州	・



出典：財団法人 地方自治情報センター

<注> 地域ブロックの区域分けについては、事例集の場合と同様の配慮が必要。

続いて、第3階層の具体的な取組事例を示すページのイメージを示す。

<3-1> 外入郷（とのにゅうごう）のほこらと安政南海地震津波到達碑

1.遺構等	伝承	2.都道府県	山口県
3.災害種類	津波	4.発生年代	江戸時代後期
5.活用方法	地域活動、学校	6.年齢層	小学生低学年・高学年

1. 場所・活用主体

- ・山口県 周防大島町
- ・活用主体は、周防大島町立城山小学校



(出典：マピオン)

2. 活用した災害遺構等

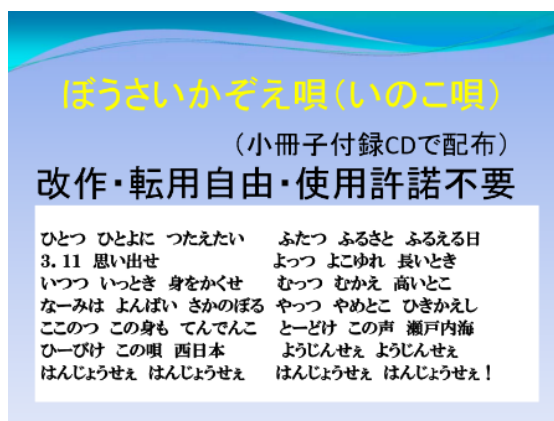
- ・「外入郷（とのにゅうごう）のほこらと安政南海地震津波到達碑」：小高い盛り土の上に古い瓦焼の祠（ほこら）があり、伝承でその近くまで津波が到達したとのことで、祠はその標（しるし）として大切に守り続けられている。平成 25 年に自治会及び有志が「安政南海地震津波到達碑」と説明版を設置。



(出典：周防大島町立城山小学校の防災教育チャレンジプラン HP 発表資料)

3. 活用の内容

- ・他の災害遺構 7 点からの学習成果とともに、地域伝承の子ども行事である「亥の子」で唄える「かぞえ唄」にまとめ、発信した。
- ・「かぞえ唄」の遊びの種類や唄い方を全学年で工夫し、「子守歌」の唄い方も加えてCD化した。



(出典：同校の防災教育チャレンジプラン HP 発表資料)

4. 活動を支援した主体

- ・小学校の教員

5. 参照先

- ・防災教育チャレンジプラン HP
<http://www.bosai-study.net/2014houkoku/plan.php?type=1&no=10>
- ・城山小学校作成資料 (チャレンジプラン活動内容)
<http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~joyama/bousai/setonaikaidemogoyoujin.PDF>

<3-2> 印定寺合同位牌裏書き

1. 遺構等	伝承	2. 都道府県	和歌山県
3. 災害種類	津波	4. 発生年代	江戸時代前期
5. 活用方法	学校、地域活動	6. 年齢層	中学生

1. 場所・活用主体

- ・和歌山県印南町
- ・活用主体は、印南町立印南中学校



(出典：マピオン)

2. 活用した災害遺構等

- ・宝永東南海地震（1707年10月28日）の津波被害に関する印定寺合同位牌裏書き（南龍山印定寺：和歌山県日高郡印南2259）

3. 活用の内容

- ・2011年度からは、3年生の総合的な学習の時間に取り組み、町内に残る津波被害に関する歴史資料の分析、歴史を元にした紙芝居の作成といった活動を行う。



(出典：下記5. 参照先の①及び③)

4. 活動を支援した主体

- ・ 中学校の教員、専門学校、地域の災害遺構等の保有者

5. 参照先

① 印定寺の合同位牌

http://dsei.ce.gunma-u.ac.jp/wakayama_tool/text/t_53_2.pdf

② 印南中学校が調査した津波伝承板の設置（日高新報 2014. 2. 8）

<http://www.hidakashimpo.co.jp/news/2014/02/post-1707.html>

③ 2011年に印南中学生が小学生向けに作成した紙芝居・動画

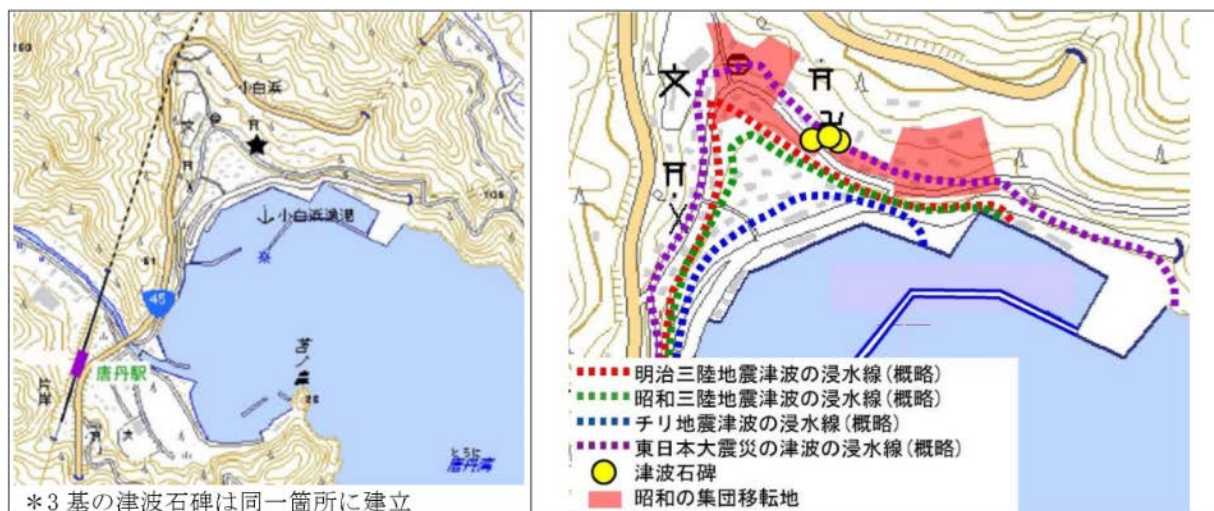
<https://www.youtube.com/watch?v=71XcknKLuTY>

<3-3> 個別事例のページ：活用が図られていない災害遺構等の例

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岩手県
3.災害種類	津波	4.発生年代	江戸時代前期、後期、昭和前期
5.活用方法	学校、地域活動	6.年齢層	小学生低学年・高学年

1. 場所

- ・岩手県釜石市唐丹町字小白浜（こじらはま）地区にある石碑



(出典：東北地方整備局資料 下記3.参照先の①)

2. 災害遺構等

- ・昭和三陸地震津波の状況が期されている津波石碑。昭和9年3月3日建立。
- ・盛岩寺の敷地内にある。碑文には昭和三陸地震津波の時の状況が克明に印されているが、長文で難解である。



(出典：東北地方整備局資料 下記3.参照先の①)

3. 参照先

- ① 岩手県釜石市唐丹町の津波記念碑「津波記念歌」のデータ
<http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekihijouhou/archive/karute/iwate140.pdf>
- ② 岩手県田野畑村羅賀の津波石について
http://www.thr.mlit.go.jp/sanriku/01_topics/tsunamiishi/index2-14s.html
- ③ 岩手県沿岸の歴史津波（慶長・明治）の津波石に関する論考
<http://iest.saitama-u.ac.jp/project/file/report-tsunamiishi20120709.pdf>

<コラム-1> 組織的・本格的な防災遺構等の活用の取組 その1

1.遺構等	伝承	2.都道府県	山口県
3.災害種類	津波	4.発生年代	江戸時代後期
5.活用方法	地域活動、学校	6.年齢層	小学生低学年・高学年

1. 場所・活用主体

- ・山口県 周防大島町
- ・活用主体は、周防大島町立城山小学校



(出典：マピオン)

2. 活用した災害遺構等

- ・江戸時代の安政南海地震（1854年12月24日）の津波の、津波伝承を聞き取りと、津波伝承の地の見学。具体的には次のとおり。
- ・「タコぎし」：住民の祖母の伝承で、津波で運ばれたタコが石垣に張り付いていた。23.5mの箇所とのこと。
- ・「外入郷（とのにゅうごう）のほこらと安政南海地震津波到達碑」：小高い盛り土の上に古い瓦焼の祠（ほこら）があり、伝承でその近くまで津波が到達したとのこと、祠はその標（しるし）として大切に守り続けられている。平成25年に自治会及び有志が「安政南海地震津波到達碑」と説明版を設置。
- ・その他、6つの伝承、伝承の地を調査。



(出典：同校の防災教育チャレンジプラン HP 発表資料)

3. 活用の内容

- ・学習成果を、地域伝承の子ども行事である「亥の子」で唄える「かぞえ唄」にまとめ、発信した。
- ・「かぞえ唄」の遊びの種類や唄い方を全学年で工夫し、「子守歌」の唄い方も加えてCD化した。
- ・小冊子『瀬戸内海でもご用心』を作成、「かぞえ唄」CDを付けて頒布した。

4. 活動の成果

- ・「津波伝承を聞く会」を公開実施し、周防大島に伝わる津波伝承8か所を発見、情報発信した。
- ・山口大学理学部と連携した津波伝承地2か所のバス見学を公開し、地震津波の伝承を広く知らせた。
- ・知識や経験を踏まえて総合的な避難訓練を実施し、避難先・引き渡し・備蓄等を改善した。
- ・2014年度「防災チャレンジプラン」の実践団体に選ばれる。

ぼうさいかぞえ唄(いのこ唄)
 (小冊子付録CDで配布)
改作・転用自由・使用許諾不要

ひとつ	ひとつに	つたえたい	ふたつ	ふるさと	ふるえる日
3.11	思い出せ		よっつ	よこゆれ	長いとき
いつつ	いつとき	身をかくせ	むっつ	むかえ	高いとこ
な一みは	よんばい	さかのぼる	やっつ	やめとこ	ひきかえし
ここのつ	この身も	てんでんこ	とーどけ	この声	瀬戸内海
ひーびけ	この唄	西日本	ようじんせえ	ようじんせえ	
はんじょうせえ	はんじょうせえ		はんじょうせえ	はんじょうせえ!	

生きる力を育む訓練と協働

備蓄レインコートを持ち避難

保護者参加で初の引渡し訓練

(出典：同校の防災教育チャレンジプラン HP 発表資料)

5. 活動を支援した主体

- ・ 小学校の教員、大学、地域の災害遺構等の所有者

6. 参照先

- ・ 防災教育チャレンジプラン HP
<http://www.bosai-study.net/2014houkoku/plan.php?type=1&no=10>
- ・ 防災教育チャレンジプラン HP 発表資料
<http://www.bosai-study.net/2014houkoku/plan.php?type=1&no=10>
- ・ 城山小学校作成資料（チャレンジプラン活動内容）
<http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~joyama/bousai/setonaikaidemogoyoujin.PDF>
- ・ 津波伝承地の聞き取り（山口新聞 2014.5.8）
<http://www.minato-yamaguchi.co.jp/yama/news/digest/2014/0508/8p.html>
- ・ 伝承地見学（山口新聞 2014.5.14）
<http://www.minato-yamaguchi.co.jp/yama/news/digest/2014/0530/11p.html>

<コラム-2> 組織的・本格的な防災遺構等の活用の取組 その2

1.遺構等	伝承	2.都道府県	和歌山県
3.災害種類	津波	4.発生年代	江戸時代前期、後期、昭和前期
5.活用方法	学校、地域活動	6.年齢層	中学生

1. 場所・活用主体

- ・和歌山県印南町
- ・活用主体は、印南町立印南中学校



(出典：マピオン)

2. 活用した災害遺構等

- ・宝永東南海地震（1707年10月28日）、安政南海地震（1854年12月24日）、昭和南海地震（1946年）の津波被害に関する町内に残る歴史資料。具体的には次のとおり。
- ・宝永東南海地震
 - ① 印定寺合同位牌裏書き（南龍山印定寺：和歌山県日高郡印南 2259）
 - ② 津波溺死者合同墓碑記録
- ・安政南海地震
 - ① 森家文書東光寺過去帳記録
 - ② 本郷かめや（古川薬局）倉庫板壁の記録：160年前の安政南海地震の津波で奇跡的に残った蔵の内壁「かめやの板壁」に書かれた当時の震災の様子や教訓。
 - ③ 片山宇一郎家（地方）津波・物価記録
 - ④ 最勝寺記録（山口）玉置善右衛門記録（地方）
 - ⑤ 桶屋與兵衛（よへえ）の息子戎（えびす）屋楠次郎（12才）記（地方塩田家蔵）
 - ⑥
- ・昭和
 - ① 印南町史通史編に詳細記録

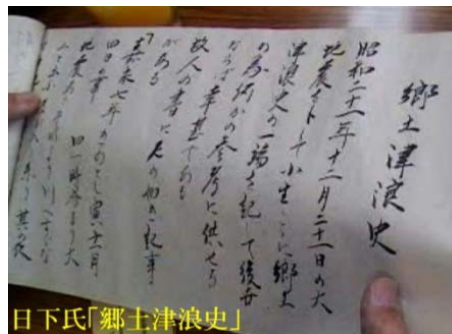
- ② 昭和 21 年津波覚書「横島に流されて」 小川キミエ（本郷）
- ③ 郷土津浪史 日下善右衛門(浜東)
- ④ 印定寺 震災横死者之霊位裏書き

3. 活用の内容

- ・ 2005 年度に 3 年生の選択科目の理科で津波防災学習を始めた。
- ・ 2011 年度からは、3 年生の総合的な学習の時間に取り組み、町内に残る津波被害に関する歴史資料の分析、歴史を元にした紙芝居の作成といった活動を行う。
- ・ 2013 年度は、160 年前の安政南海地震の津波で奇跡的に残った蔵の内壁「かめやの板壁」に書かれた当時の震災の様子や教訓を解説。従来の解釈の誤りを見つけた。

4. 活動の成果

- ・ リーフレット「印南の津波災害一過去・未来」の作成と校区内全約 900 世帯への配布。
- ・ 2010 年度「ぼうさい甲子園」 奨励賞、2011 年度「ぼうさい甲子園」 奨励賞、2012 年度、「ぼうさい甲子園」のグランプリを受賞。2013 年度は「津波ぼうさい賞」、「ぼうさい甲子園」の「継続こそ力賞」を受賞。
- ・ 2013 年には、これまでの研究成果をまとめた冊子『知っていますか？ 地震と津波 Part2』を作成





保管されている「かめや板壁」



解読に取り組む印南中学生

(出典：下6.参照先の③、⑥、⑤及び②)

5. 活動を支援した主体

- ・ 中学校の教員、専門学校、地域の災害遺構等の保有者

6. 参照先

- ① 平成 22 年度ぼうさい甲子園「奨励賞」 15P
http://npo-sakura.net/doc/bousai_mem_22.pdf
- ② 平成 27 年度ぼうさい甲子園「継続こそ力賞」(毎日新聞地方版 2015.12.11)
<http://mainichi.jp/articles/20151211/ddl/k30/040/342000c>
- ③ 印定寺の合同位牌
http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/wakayama_tool/text/t_53_2.pdf
- ④ 印南中学校が調査した津波伝承板の設置 (日高新報 2014.2.8)
<http://www.hidakashimpo.co.jp/news/2014/02/post-1707.html>
- ⑤ 2015 年度の印南中学校の取り組み：かめや壁書の解読 (紀州新聞 2015.8.28)
http://blog.goo.ne.jp/ks-press/e/dbe90cbd10251c897c58226c2445e227/?img=7191a07_d66a3090e9e586d55fffb774c
- ⑥ 2011 年に印南中学生が小学生向けに作成した紙芝居・動画
<https://www.youtube.com/watch?v=71XcknKLuTY>

おわりに

災害が多発する自然環境にある我が国においては、多くの地域で、災害遺構等は潜在的には数多く存在すると思われる。その中でも、発生から時間が経過し、地域・コミュニティにおける記憶が薄れてきた、あるいはほとんど忘れられていた災害については、その災害遺構等が再度注目されるようになれば、当該災害の記憶を改めて喚起し、これからの地域防災力向上のきっかけになるであろう。

そして、そのような災害遺構等との出会いは、今まで知らなかった事柄の発見、驚きとなり、年齢層にかかわらず、興味深く地域の災害特性を学ぶことができる機会を広げると期待できる。

今後、各地域の災害遺構等が再び注目され、その活用が身近で気軽なものとして進み、防災教育の素材ともなり、地域の防災力の高める役割を有効に果たしていくことを期待する。

資 料

資料(1) 災害遺構事例集

第4章の事例紹介のイメージに沿って、事例集の案を以下の通り作成した。

目次

1. 十勝岳噴火（北海道）火山、地形、資料館
2. 震嘯災記念碑（青森県）津波、記念碑
3. 大然部落遭難者追悼碑（青森県）豪雨、石碑
4. 慶長奥州地震津波の津波石（岩手県）地震・津波、津波石
5. 明治三陸地震津波の慰霊碑（岩手県）地震・津波、石碑
6. 昭和三陸地震津波の津波碑（岩手県）地震・津波、石碑、慰霊祭・防災訓練
7. 昭和三陸地震津波の大津浪記念碑（岩手県）地震・津波、石碑
8. チリ地震津波の津波碑（岩手県）地震・津波、石碑、防災教育
9. おなり神 雷神碑（宮城県）地震・津波・水害
10. 象潟地震と隆起地形（秋田県）地震、地形、資料館
11. 酒田の大火と地域復興（山形県）火災、街づくり
12. 磐梯山噴火（福島県）火山、絵図・地形、記念館・教育
13. 横利根閘門（茨城県）水害、石碑
14. 稲荷川水難供養塔（栃木県）洪水、石碑
15. 浅間山天明噴火（群馬県）火山、写真、資料館
16. カスリーン台風の被害と水防法の公布（埼玉県）台風、石碑・写真、式典
17. 元禄地震津波と隆起地形（千葉県）地震・津波、地形
18. 明暦江戸大火と慰霊碑（東京都）火災、石碑
19. 関東大震災殉難碑（神奈川県）地震、石碑
20. 地すべり資料館（新潟県）地すべり、伝承、資料館
21. 飛越地震と安政の大転石（富山県）地震・洪水、石碑
22. 手取川大洪水と百万貫岩（石川県）洪水、石碑、慰霊式
23. 福井地震で被災した酒伊ビル（福井県）地震、構造物、建築
24. 治水興郷の碑（山梨県）台風、石碑
25. 伊那谷遺産（長野県）地震、地形、イベント
26. 善光寺地震の災害痕跡（長野県）地震、石碑
27. 飯田大火とりんご並木（長野県）火災
28. 濃尾地震と根尾谷断層（岐阜県）地震、石碑・地形
29. 細江神社の祇園祭（静岡県）地震・津波、神体、イベント
30. 富士山宝永噴火と火山堆積物（静岡県）地震・火山、自然物、防災

- 3 1. 天正地震と液状化痕跡（愛知県）地震、地層、減災館
- 3 2. 三河地震と深溝断層（愛知県）地震、地形、防災教育
- 3 3. 伊勢湾台風と春日神社鳥居痕跡（三重県）台風・水害、防災
- 3 4. 寛文近江・若狭地震と災害地形（滋賀県）地震、地形
- 3 5. 平和池（京都府）水害、資料館、イベント
- 3 6. 「大地震両川口津波記」の墨入れ供養（大阪府）地震・津波、石碑、行事
- 3 7. 第一次室戸台風被災慰霊祭（大阪府）台風、石碑
- 3 8. 禍福無門の戒め（兵庫県）地震、石碑
- 3 9. 近畿・七道諸国の大地震と平城京の震災痕跡（奈良県）地震、建築・遺跡
- 4 0. 印南町の津波記録（和歌山県）地震・津波、石碑・古文書、防災教育
- 4 1. 安政東海地震・安政南海地震と「稲むらの火」（和歌山県）地震・津波、建築、防災教育・行事
- 4 2. エルトゥールル号事件と日土交流（和歌山県）台風、記念碑・石碑、行事
- 4 3. 天神川水系直轄砂防事業五十周年記念碑（鳥取県）台風、石碑
- 4 4. 浜田地震と震災記念之碑（島根県）地震、石碑
- 4 5. 井風呂谷川砂防三号堰堤（岡山県）山崩れ、石碑
- 4 6. 太田川総水神（広島県）水害、石碑
- 4 7. 周防灘台風と水害高潮記念碑（山口県）記念碑、台風、防災教育
- 4 8. 徳島県海陽町の慶長・宝永地震津波碑（徳島県）地震・津波、石碑
- 4 9. 用水確保のための溜め池（香川県）干ばつ、資料館
- 5 0. 集中豪雨による土石流（愛媛県）水害、石碑
- 5 1. 河戸堰（高知県）建築、地震・津波、防災教育
- 5 2. 水害殉難者之碑（福岡県）台風、石碑
- 5 3. 石井樋と成富君水功之碑（佐賀県）台風、石碑
- 5 4. 念仏講まんじゅう（長崎県）祭礼、土石流、行事
- 5 5. 長崎豪雨災害（長崎県）水害、石碑、復興
- 5 6. 「島原大変肥後迷惑」の津波供養碑（熊本県）津波・火山、石碑
- 5 7. 宮崎堰堤（大分県）建築、水害、石碑、街づくり
- 5 8. 外所地震の供養碑（宮崎県）地震・津波、石碑、祭礼
- 5 9. 桜島噴火と「科学不信の碑」（鹿児島県）火山、石碑、防災
- 6 0. 八重山地震津波とナーパイ（沖縄県）祭礼、地震・津波・行事

1、十勝岳噴火

1.遺構等	地形	2.都道府県	北海道上川郡美瑛町
3.災害種類	火山	4.発生年代	大正15年(1926)5月24日
5.活用方法	資料館		

1、場所

北海道上川郡美瑛町字白金(北緯 43 度 29 分 6 秒・東経 142 度 37 分 48 秒)



2、災害遺構概要

大正 15 年 (1926) の北海道十勝岳噴火では、岩屑なだれ、残雪の融解による泥流、火山弾・スコリア流の発生により、上富良野を中心に死者・行方不明者 144 名、負傷者 200 名、流失・破壊家屋 372 棟の被害をうけた。この災害をうけて、平成 4 年 (1992) に十勝岳の監視と記録や全国の火山についての展示、および緊急時の避難施設として砂防情報センターが作られた。また、上富良野町の平野部には、砂防堰堤工事の廃土を活用して道路沿いの田畑をかさ上げし、避難所の機能をもつ防災センターが設置された。



左：十勝岳火山砂防センター 右：2階展示室内の様子

(画像：北海道開発局 旭川開発建設部 治水課ホームページ「十勝岳火山砂防センター」より)

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-火山編』2011、中央防災会議
- ・北海道開発局 旭川開発建設部 治水課ホームページ「十勝岳火山砂防センター」

http://www.as.hkd.mlit.go.jp/chisui04/work/ishikari/work_04_04.html

2、 震嘯災記念碑

1.遺構等	記念碑	2.都道府県	青森県三沢市
3.災害種類	津波	4.発生年代	昭和8年(1933)3月3日
5.活用方法			

1、場所

青森県三沢市四川目(北緯 40 度 41 分 56 秒・東経 141 度 25 分 26 秒)



2、災害遺構概要

昭和8年(1933)3月3日に発生した昭和三陸地震津波で、三沢市四川目地区では津波の高さが6m、死者・行方不明者26名、住家流失33棟、全壊1棟、半壊8棟、非住家流失41棟、半壊17棟の被害を受けた。被災地は、明治29年(1896)に発生した明治三陸津波でも甚大な被害を受けており、悲惨な経験を重ねたことから、震嘯災記念碑を建立し、「地震海鳴り ほら津波」の警句を刻んで地震の後には津波が来ることを戒めている。同様の津波碑は、他にも三沢市内の三川目地区、八戸市(館鼻公園)、おいらせ町明神山公園(旧百石町)、階上町榊浜の5ヶ所に存在している。



震嘯災記念碑

(画像：国土交通省東北地方整備局 道路部ホームページより)

3、参照先

- ・津波災害史跡位置図(震嘯災記念碑) <http://www.kasen.net/ishibumi/tsunamimap.htm>
- ・現在までに語り継がれる『災害』について(総務省消防庁ホームページ 全国災害伝承情報) http://www.fdma.go.jp/html/life/saigai_densyo/01.pdf
- ・国土交通省東北地方整備局 道路部ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekijouhou/archive/top.pdf>

3、 大然部落遭難者追悼碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	青森県鱒ヶ沢町
3.災害種類	豪雨	4.発生年代	昭和 20 年(1945)3 月 22 日
5.活用方法			

1、場所

青森県鱒ヶ沢町（北緯 40 度 41 分 34 秒・東経 140 度 9 分 9 秒）



2、災害遺構概要

昭和 20 年（1945）3 月 22 日、青森県鱒ヶ沢町陸奥赤石の赤石川沿いにおいて夜来の豪雨により雪泥流災害が発生した。これにより旧赤石村大然部落約 20 戸が流失、夜間の災害であったため死者は 87 名となった。この災害の遭難者の追悼のため昭和 26 年（1951）に石碑が建立された。



大然部落遭難者追悼の碑

（画像：東北自然保護団体連絡会議ホームページ「赤石川の砂防と大然部落の全滅」より）

3、参照先

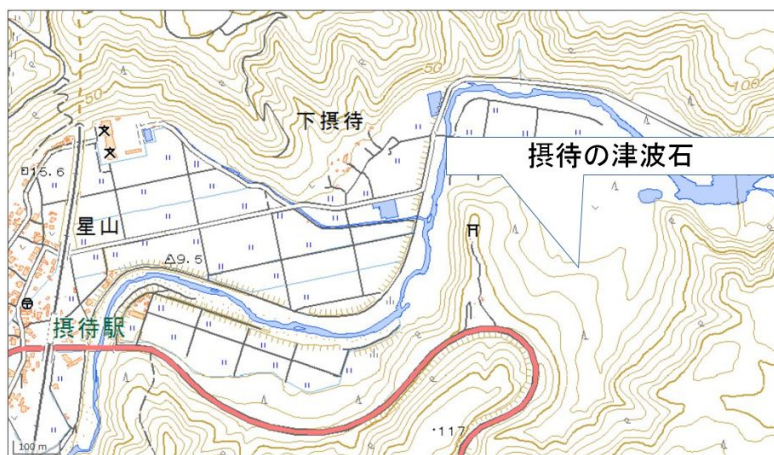
- ・東北自然保護団体連絡会議ホームページ
<http://www.jomon.ne.jp/~misago/oosikari.html>
- ・自然観察館 ハロー白神 <http://www.town.ajigasawa.lg.jp/page/shisetu/helloshirakami.html>

4、 慶長奥州地震津波の津波石

1.遺構等	津波石	2.都道府県	岩手県宮古市田老
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	慶長 16 年 10 月 28 日 (1611 年 12 月 2 日)
5.活用方法			

1、場所

岩手県宮古市田老（北緯 39 度 48 分 35 秒・東経 141 度 58 分 27 秒）



2、災害遺構概要

慶長 16 年（1611）現在の三陸沖を震源として発生した地震により、東北地方太平洋沿岸部の広範囲に津波が来襲した。岩手県宮古市田老の撰待地区には、慶長 16 年(1611)の津波によって運ばれたと伝えられる津波石が存在する。また、この津波石の付近には明治三陸地震津波の際に流されてきたとされる津波石も存在している。



撰待の津波石（画像：川島委員報告より）

3、参照先

- ・川島委員報告、2015.11.17
- ・『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
- ・東北観光推進機構ホームページ「撰待の津波石」

<https://www.tohokukanko.jp/iwate/tsunamiishi/>

5、 明治三陸地震津波の慰霊碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岩手県大船渡市三陸町
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	明治 29 年 5 月 5 日 (1896 年 6 月 15 日)
5.活用方法			

1、場所

岩手県大船渡市三陸町吉浜字上野 24-1(北緯 39 度 8 分 54 秒・東経 141 度 49 分 53 秒)



4、災害遺構概要

明治三陸地震津波において、岩手県吉浜村（現大船渡市三陸町吉浜）は家屋の半数と人口の 2 割を失う被害を受けた。吉浜正寿院前に明治 33 年(1900)に建立された「嗚呼惨哉海嘯」は、吉浜地区の溺死者 140 余人の名を刻んだ供養碑であり、人名を朱色で銘記している。



嗚呼惨哉海嘯（画像：国立国会図書館東日本大震災アーカイブより）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ
<http://kn.ndl.go.jp/287443af-4c8a-4050-8db4-b3eb2c3afe9c>

6、 昭和三陸地震津波の津波碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岩手県九戸郡洋野町
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	昭和8年(1933)3月3日
5.活用方法	慰霊祭、防災訓練		

1、場所

岩手県九戸郡洋野町小子内(北緯 40 度 20 分 10 秒・東経 141 度 46 分 7 秒)



2、災害遺構概要

洋野町では明治三陸地震津波で犠牲者 254 人、昭和三陸津波で 107 人の犠牲者が出た。石碑には「地震があったら津波の用心」「津波が来たなら高い所へ」「あぶない所に家を建てるな」と記されており、津波の怖さと危険を伝えている。



三陸津浪記念碑 (画像：卯花政孝氏撮影)

3、参照先

『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011

・国土交通省東北地方整備局 道路部ホームページ「津波被害・津波石碑情報アーカイブ」

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekihijouhou/archive/top.pdf>

7、 昭和三陸地震津波の大津浪記念碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岩手県宮古市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	昭和8年(1933)3月3日
5.活用方法	慰霊祭、防災訓練		

1、場所

岩手県宮古市重茂字姉吉（北緯 39 度 32 分 3 秒・東経 142 度 2 分 46 秒）



2、災害遺構概要

岩手県宮古市重茂字姉吉は、明治三陸地震津波で死者 60 名・生存者 2 名、また昭和三陸地震津波では死者 100 名以上・生存者 4 名という壊滅的な被害を受けた地域である。この教訓を踏まえて、姉吉地区では姉吉漁港に向かう坂道に記念碑を建設し、この碑がある高さより下に作業小屋以外の建物は建てるなと警告している。



大津浪記念碑（画像：国土交通省東北地方整備局 道路部ホームページより）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-海溝型地震・津波編』2011
- ・国土交通省東北地方整備局 道路部ホームページ「津波被害・津波石碑情報アーカイブ」
<http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekijouhou/archive/top.pdf>

8, チリ地震津波の津波碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岩手県宮古市浄土ヶ浜
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	昭和35年(1960)5月23日
5.活用方法			

1, 場所

岩手県宮古市浄土ヶ浜(北緯 39 度 39 分 3 秒・東経 141 度 58 分 40 秒)



2, 災害遺構概要

昭和35年(1960)5月23日に南米チリで発生した地震による津波は、22.5時間後に太平洋を経て日本列島の太平洋沿岸に達し、日本各地で死者・行方不明者142名が出る被害を受けた。

岩手県宮古市の浄土ヶ浜には、2基の記念碑が建立されており、一方の昭和八年津波の碑には『地震があれば津波の用心』、もう一方のチリ津波の碑には「地震がなくとも津波は来る」と記載してある。



宮古市浄土ヶ浜の石碑 (画像：『災害史に学ぶ・海溝型地震・津波編』より)

3, 参照先

- ・『災害史に学ぶ・海溝型地震・津波編』2011

9、おなり神（雷神碑）

1.遺構等	石碑	2.都道府県	宮城県仙台市
3.災害種類	地震、津波、水害	4.発生年代	天保10年(1839)4月1日
5.活用方法			

1、場所

仙台市宮城野区原町 5-3-33（北緯 38 度 16 分 10 秒・東経 140 度 54 分 30 秒）



2、災害遺構概要

天保年間に大地震、大洪水、火事、凶作と相次いで見舞われたため天保10年(1839)4月1日に原町中の人々がその供養に雷神を祀るために建立した。



仙台市原町のおなり神（雷神碑）（画像：「水の神さま」を探せ！より）

3、参照先

- ・「水の神さま」を探せ！

<http://www.melon.or.jp/melon/contents/Section/Water/wg/profiles/profile023.html>

10、象潟地震と隆起地形

1.遺構等	地形	2.都道府県	秋田県にかほ市
3.災害種類	地震	4.発生年代	文化1年6月4日 (1804年7月10日)
5.活用方法	資料館		

1、場所

秋田県にかほ市象潟町（北緯 39 度 12 分 6 秒・東経 139 度 54 分 28 秒）



2、災害遺構概要

象潟地震は、江戸時代後期の文化1年6月4日（1804年7月10日）出羽国（現在の秋田県・山形県）で発生した地震・津波である。この地震・津波により、出羽国沿岸部では南北約25kmにわたって隆起し、九十九島・八十八潟の景勝地として知られていた南北約2kmの象潟湖が海底隆起により陸地化した。現在、かつて象潟湖の島々が水田の中に点在する景観となっており、にかほ市象潟郷土資料館では象潟の再現模型などが展示されている。



左：にかほ市象潟郷土資料館（画像：にかほ市象潟郷土資料館より）

右：地震で隆起し干上がった潟湖跡の島々

（画像：日本観光振興協会「観るなび」より）

3、参照先

- ・にかほ市象潟郷土資料館

<http://hyper.city.nikaho.akita.jp/kyoudo/>

- ・日本観光振興協会「観るなび」秋田県にかほ市

<http://www.nihon-kankou.or.jp/akita/052141>

1 1, 酒田の大火と地域復興

1.遺構等	建築	2.都道府県	山形県酒田市
3.災害種類	火災	4.発生年代	昭和 51 年(1976)10 月 29 日
5.活用方法	街づくり		

1、場所

山形県酒田市中町 2 丁目（北緯 38 度 55 分 4 秒・東経 139 度 50 分 13 秒）



2、災害遺構概要

昭和 51 年（1976）10 月 29 日に酒田市で発生した火災は、焼損棟数 1774 戸、被害総額は 405 億円にのぼったこの火災ではアーケードと延焼の関係や、応援を含む多数の消防隊に対する命令伝達の困難などが指摘され、教訓を生かした、燃えない街づくり・応急対応力・住民の防災意識向上などといった都市ぐるみの防災対策が実施された。



セットバック方式を採用した中通り商店街（画像：『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011 より）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011
- ・酒田大火：http://www.city.sakata.lg.jp/sakata_tmp/taika/index.html

1 2, 磐梯山噴火

1.遺構等	地形	2.都道府県	福島県耶麻郡
3.災害種類	火山	4.発生年代	明治 21 年(1888)7 月 15 日
5.活用方法	資料館、教育		

1、場所

福島県耶麻郡北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36

(北緯 37 度 39 分 45 秒・東経 140 度 4 分 54 秒)



2、災害遺構概要

明治 21 年 (1888) の磐梯山噴火は、水蒸気爆発型噴火による岩屑なだれや火砕流によって近隣の集落が埋没し死者 461 名の被害を出した。また、堰止めにより檜原湖・秋元湖などが形成された。磐梯山噴火記念館には当時の噴火を撮影した写真や絵図などが展示されているほか、福島県火山学習会が主体となって『磐梯山に強くなる本』として、中学生向けに防災に対する知識と対策を伝える本を出版している。



左：磐梯山噴火記念館

(画像：ふくしまの旅より)



右：展示室内の様子

(画像：福島県磐梯山ジオパークより)

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-火山編』 2011
- ・磐梯山噴火記念館ホームページ：<http://www.bandaimuse.jp/>
- ・福島県磐梯山ジオパーク：<http://www.geopark.jp/geopark/bandaisan/>
- ・ふくしまの旅：http://www.tif.ne.jp/jp/spot/spot_disp.php?id=5460

1 3, 横利根閘門

1.遺構等	建築、石碑	2.都道府県	茨城県稲敷市
3.災害種類	水害	4.発生年代	明治 33 年(1900)
5.活用方法			

1、場所

茨城県稲敷市西代（北緯 35 度 54 分 43 秒・東経 140 度 29 分 42 秒）



2、災害遺構等

利根川は、増水時に横利根川を通じて霞ヶ浦沿岸に氾濫被害をもたらしていた。明治 33 年(1900)から始まった利根川改修工事により、利根川と霞ヶ浦を分断するため、また増水時にも舟運に支障を来さないように、第 2 期改修工事の一部として横利根閘門が建設された。舟運が衰退した現在でも年間 1000～2000 隻が通航する現役の閘門であり、閘門周辺は横利根閘門ふれあい公園として整備され、平成 18 年(2006)には日本の歴史公園 100 選に選定された。



(画像：文化庁：国指定文化財等データベースより)

3、参照先

- ・文化庁：国指定文化財等データベース：http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html
- ・利根川：利根川治水告成碑（茨城県稲敷郡本新島村佐原対岸）横利根閘門の一例
http://library.jsce.or.jp/Image_DB/card/05_image/large/05230.html

1 4, 稲荷川水難供養塔

1.遺構等	石碑	2.都道府県	栃木県日光市石屋町
3.災害種類	洪水	4.発生年代	寛文2年(1662)6月13日
5.活用方法			

1、場所

栃木県日光市石屋町（北緯 36 度 44 分 51 秒・東経 139 度 36 分 50 秒）



2、災害遺構概要

寛文2年(1662年)6月13日、稲荷川の水源となる湖が連日の風雨によって決壊し、下流の民家300余戸が流失した。翌寛文3年(1663)、溺死者を慰霊するために笠塔婆が建立され、塔の左面に犠牲者の名前を刻んでいる。



稲荷川水難供養塔

(画像：日光砂防事務所ホームページより)

3、参照先

- ・日光砂防事務所ホームページ「日光の石造品マップ」

<http://www.ktr.mlit.go.jp/nikko/nikko00045.html>

1 5, 浅間山天明噴火

1.遺構等	地形	2.都道府県	群馬県吾妻郡嬭恋村
3.災害種類	火山	4.発生年代	天明3年(1783)7月8日
5.活用方法	資料館		

1、場所

群馬県吾妻郡嬭恋村鎌原 494 (北緯 36 度 31 分 0 秒・東経 138 度 33 分 3 秒)



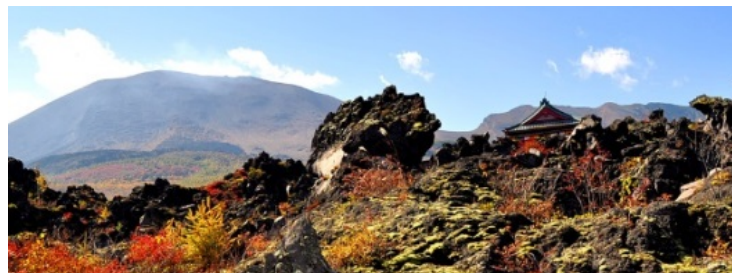
2、災害遺構概要

天明3年(1783)7月8日に発生した浅間山大噴火は、犠牲者1624人(うち上野国一帯だけで1,400人以上)、流失家屋1151戸、焼失家屋51戸、倒壊家屋130戸余りの被害をもたらした。特に嬭恋村(旧鎌原村)では火砕流によって483名の犠牲者を出した。

嬭恋郷土資料館では、浅間山噴火に起因する土石流によって、埋没した鎌原村から発掘された品々などを中心に展示し、火山災害と生活文化の実態を伝えている。



左：嬭恋郷土資料館
(画像：嬭恋村役場ホームページより)



右：鬼押し出し
(画像：鬼押し出し園ホームページより)

3、参照先

- ・北原委員報告 2015.10.15
- ・『災害史に学ぶ-火山編』2011
- ・嬭恋村観光協会ホームページ

<http://www.tsumagoi-kankou.jp/kanko/asama/oniosidasien.html>

- ・嬭恋村役場ホームページ <http://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/index.php?id=11>

1 6, カスリーン台風の被害と水防法の公布

1.遺構等	石碑	2.都道府県	埼玉県加須市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和 22 年(1947)9 月
5.活用方法	式典		

1、場所

埼玉県加須市大利根新川通地先（北緯 36 度 9 分 37 秒・東経 139 度 40 分 12 秒）



2、災害遺構概要

昭和 22 年（1947）9 月に発生したカスリーン台風により、関東平野や栃木県・群馬県の山間部、東海地方から東北地方といった広範囲で河川の氾濫や土石流などが発生し、多数の被害者を出した。昭和 25 年（1950）9 月 25 日、建設省利根川上流工事事務所（現国土交通省利根川上流河川工事事務所）所長及び東村、原道村、元和村の村長の協力により、利根川堤防決壊口後に記念碑が建設された。



決壊口跡（画像：加須市役所ホームページ「利根川堤防決壊口跡及び記念碑」より）

3、参照先

- ・中条堤と堤防決壊口跡を見学 ～江戸時代の利根川治水対策に学ぶ～
<http://www005.upp.so-net.ne.jp/boso/tonegawa01.htm>
- ・利根川だより 9 号
http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000084824.pdf
- ・加須市役所ホームページ「利根川堤防決壊口跡及び記念碑」
<http://www.city.kazo.lg.jp/cont/s752000/map/hpg000008254.html>

1 7, 元禄地震津波と隆起地形

1.遺構等	地形	2.都道府県	千葉県南房総市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	元禄 16 年 11 月 23 日 (1703 年 12 月 31 日)
5.活用方法			

1、場所

千葉県南房総市白浜町根本 1454 (北緯 34 度 54 分 38 秒・東経 139 度 50 分 30 秒)



2、災害遺構等

元禄 16 年 (1703) 房総半島沖を震源として発生した元禄地震は、江戸から東海道にかけての城下町に壊滅的な被害を与えると同時に、南房総半島沿岸に津波が襲来した。南房総半島では、地殻変動によって新たな海岸段丘が形成されており、元禄地震以前は海中に浮かんでいた伊勢船島が元禄地震による隆起により今日は陸地となっている。



元禄地震によって出来た隆起地形 (画像：北原委員報告より)

3、参照先

・北原委員報告 2015.10.15

1 8, 明暦江戸大火と慰霊碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	東京都墨田区
3.災害種類	火災	4.発生年代	明暦3年(1657)1月
5.活用方法			

1、場所

東京都墨田区両国 2-8-10 (北緯 35 度 41 分 36 秒・東経 139 度 47 分 30 秒)



2、災害遺構概要

明暦3年(1657)1月に発生した明暦江戸大火は、江戸城と城下町が建設されてから最初かつ最大規模の大火災であり、別名「振袖火事」とも呼ばれる。この火災により江戸城天守閣をはじめとして江戸市街地の60%が焼失、犠牲者は6万人から10万人と考えられている。

鎮火後、江戸幕府は本所牛島新田に遺体を集めて埋葬と供養を行い、供養塚・念仏道・庫裡を建立、埋葬者の宗派が多様であることから「諸宗山回向院無縁寺」と称した。明暦大火供養塔は、現在東京都の指定文化財に指定されている。



東京都墨田区にある慰霊碑 (画像：回向寺ホームページより)

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-風水害・火災編』2011
- ・回向寺ホームページ <http://ekoin.or.jp/>

19、 関東大震災殉難碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	神奈川県小田原市
3.災害種類	地震	4.発生年代	大正12年(1923)
5.活用方法			

1、場所

神奈川県小田原市根府川 109 (北緯 35 度 12 分 9 秒・東経 139 度 8 分 18 秒)



2、災害遺構等

大正 12 年(1923)に発生した関東大震災において、根府川周辺（現在、小田原市）では地震により発生した土石流により根府川駅に入構した列車が駅舎もろとも海側に脱線転覆して海中に没し、乗客・職員のうち 112 人が死亡した。関東大震災から 50 周年にあたる昭和 48 年(1973) 9 月 1 日に根府川駅職員一同によって「関東大震災殉難碑」が建立され、現在は根府川駅構内に移設されている。



関東大震災殉難碑

(画像：神奈川県温泉地学研究所ホームページより)

3、参照先

・神奈川県温泉地学研究所ホームページ「地震の石碑 2012 復刻」

http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/modules/study/index.php/sekishi/Sekishi_No19_C23/Sekishi_No19_C23.pdf

20、地すべり資料館

1.遺構等	伝承	2.都道府県	新潟県上越市
3.災害種類	地すべり	4.発生年代	奈良、鎌倉時代
5.活用方法	資料館		

1、場所

新潟県上越市坂倉区猿供養寺 402-1 (北緯 37 度 0 分 37 秒・東経 138 度 19 分 44 秒)



2、災害遺構概要

新潟県は地すべり災害の多発地帯である一方で、地すべり防止工事も古くから行われており、その技術は世界的に認められている。しかし、これらの工事は地下工事であり、一般の人々にはあまり知られていない。新潟県上越市坂倉区の「地すべり資料館」は、地すべり対策の重要性を伝えるために設立された日本で最初の「地滑り資料館」であり、地すべりのメカニズムや砂防施設の模型、地すべり災害にまつわる「人柱伝説」「猿供養寺」といった伝説の紹介、その他の様々な自然災害、について学べる防災学習施設である。



左：地すべり資料館

右：資料館内で行われている防災学習の様子

(画像：地すべり資料館ホームページより)

3、参照先

- ・新潟県ホームページ http://www.pref.niigata.lg.jp/jouetsu_sabou/museum.html
- ・新潟県上越市ホームページ

<http://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/itakura-ku/itakura-ss-05.html>

2 1, 飛越地震と安政の大転石

1.遺構等	石碑	2.都道府県	富山県富山市
3.災害種類	地震、洪水	4.発生年代	安政5年2月26日 (1858年4月9日)
5.活用方法			

1、場所

富山県富山市立山町（北緯 36 度 38 分 30 秒・東経 137 度 17 分 10 秒）



2、災害遺構概要

安政5年(1858)に跡津川断層を震源に発生した飛越地震は、北陸地方を中心に死者 426 人、負傷 646 人、家屋の全半壊・流失 2190 戸の被害をもたらした。

また、立山連峰では「鳶山崩れ」と呼ばれる山体崩壊が発生し、河道閉塞による堰止め湖の形成と、誘発地震による堰止め湖の決壊によりさらに被害が拡大した。常願寺川中流には、堰止め湖決壊の土石流により押し流された巨石が約 40 個点在しており、「安政の大転石」と呼ばれている。



安政の大転石（画像：立山黒部ジオパークホームページより）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2014
- ・立山黒部ジオパークホームページ「安政の大転石」：http://tatekuro.jp/?page_id=1259

2 2、手取川大洪水と百万貫岩

1.遺構等	石碑	2.都道府県	石川県白山市
3.災害種類	洪水	4.発生年代	昭和9年(1934)7月11日
5.活用方法	景観		

1、場所

石川県白山市白峰市ノ瀬（北緯 36 度 7 分 52 秒・東経 136 度 39 分 37 秒）



2、災害遺構概要

昭和9年（1934）7月11日、梅雨期の気温上昇と豪雨に加え、前年の大雪による残雪の融解と、これにともなう地盤崩れにより手取川が氾濫、各所で堤防が決壊し、加賀平野を中心に大きな被害が発生した。石川県白山市白峰地区には、この洪水によって流されてきた高さ16メートル、周長52メートル、約4800トンの巨大な岩が存在し、石川県指定史跡名勝天然記念物に指定されている。平成26年(2014)には周辺整備により駐車場や視点場、白山手取川ジオパーク案内板も設置されており、地元観光協会などが主体となったツアーイベントなどが開催されている。



左：百万貫岩 右：手取川アウトドア教室（主催：手取川流域開発期成同盟会）
（画像：石川県土木部道路建設課ホームページ「寄り道パーキング 百万貫の岩」より）

3、参照先

・石川県土木部道路建設課ホームページ「寄り道パーキング 百万貫の岩」
<http://www.pref.ishikawa.jp/douken/fukeikaido/kaga/point/005/index.html>

・昭和9年手取川大洪水

<http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/river/t70year/panel01.pdf>

・市ノ瀬ビジターセンター自然情報

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/ichinose/ichinoseinf/h26/h26-7-3.html>

2 3, 福井地震で被災した酒伊ビル

1.遺構等	建築	2.都道府県	福井県福井市
3.災害種類	地震	4.発生年代	昭和 23 年(1948)6 月 28 日
5.活用方法			

1、場所

福井県福井市中央 1-7-1 (北緯 36 度 3 分 43 秒・東経 136 度 13 分 5 秒)



2、災害遺構概要

福井地震は昭和 23 年 (1948) 6 月 28 日に発生、福井県では丸岡城の倒壊、大和百貨店福井店の全壊をはじめ死者 3,769 人、住家等の全壊 36,184 棟の大きな被害を出した。市街地で多くの建物が崩壊する中、大和百貨店左側に位置していた酒伊ビル (現三井住友信託銀行福井支店) は地震による被害がほとんどなく、福井空襲・福井地震に耐えた建造物として、平成 19 年 (2007) には「福井市民の誇り百選」のひとつとして選定されている。



酒伊ビルを修復してつくられた三井住友信託銀行 (画像：三井住友信託銀行「福井支店」より)

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2017
- ・内閣府防災情報のページ「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1948 福井地震」
http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1948-fukuiJISHIN/pdf/13_column.pdf
- ・三井住友信託銀行「福井支店」<http://mappc.smtb.jp/b/smtb/info/643/>

2 4, 治水興郷の碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	山梨県北杜市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和 34 年(1959)8 月 14 日
5.活用方法			

1、場所

山梨県北杜市須玉町（北緯 35 度 46 分 37 秒・東経 138 度 25 分 25 秒）



2、災害遺構概要

昭和 34 年(1959)8 月 14 日、山梨県全域を猛烈な風と豪雨をともなった台風 7 号が通過、北巨摩郡武川村では山津波によって死者 23 名を出す被害を受けた。

甚大な被害を受けた武川村を当時の岸信介首相が視察し、翌年より直轄砂防事業が開始され、その効果により現在の富士川水系では観光や農業で繁栄を見るに至っている。治水興郷の碑は昭和 44 年(1969)8 月に建立、表面には岸信介の題字が刻まれている。



治水興郷碑（画像：碑像マップより）

3、参照先

国土交通省関東地方整備局富士川砂防事務所ホームページ

<http://www.ktr.mlit.go.jp/fujikawa/fujikawa00024.html>

・碑像マップ <http://hizou.30maps.com/map/58888>

25、伊那谷遺産

1.遺構等	地形	2.都道府県	長野県飯田市
3.災害種類	地震	4.発生年代	正徳5年(1715)6月17日
5.活用方法	イベント		

1、場所

長野県飯田市南信濃和田（北緯 35 度 18 分 42 秒・東経 137 度 54 分 54 秒）



2、災害遺構概要

梅雨時の長雨にともなう豪雨によって天竜川地域に甚大な土砂災害がもたらされた。この年が未年であったため「未の満水(ひつじのまんすい)」と呼ばれている。遠江地震により、池口川左岸の日陰山が崩落し、大量の岩石が川をせきとめ天然ダムが形成された。また天然ダムの水と砂岩に埋まった場所には多くの森林が埋没し、埋没木（遠山川の小道木橋やその下流付近に見られる）も形成された。現在では、過去の災害を学び教訓を地域住民に受け継いでいくことを目的とした「天竜川災害伝承シンポジウム」が飯田市役所で開催されるようになった。また埋没木等の見学も行われている。



天竜川災害伝承シンポジウムの様子

(画像：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所ホームページより)

3、参照先

- ・国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所ホームページ「天竜川災害伝承シンポジウム」http://www.cbr.mlit.go.jp/tenryo/jimusyo/news_j/j_041/j_041.html
- ・遠山観光協会ホームページ
http://tohyamago.com/alps/kyoboku_maibotu/index.php

26, 善光寺地震の災害痕跡

1.遺構等	石碑	2.都道府県	長野県長野市
3.災害種類	地震	4.発生年代	弘化4年3月24日 (1847年5月8日)
5.活用方法			

1、場所

長野県長野市元善町 491 (北緯 36 度 39 分 42 秒・東経 138 度 11 分 13 秒)



2、災害遺構概要

弘化4年3月24日(1847年5月8日)に発生した善光寺地震は、長野盆地西縁断層を震源とする典型的な内陸型大地震であり、強震動による家屋の倒壊や火災、山間部では土砂崩れ・地滑りが発生した。犀川では河道閉塞と閉塞箇所が決壊により洪水が発生している。この地震により、圧死や焼死、洪水による水死などにより死者は 8,000~10,000 人となった。とくに、江戸時代以来の観光地となっていた善光寺詣の旅行者 1,700 人程度が犠牲となり、善光寺内には身元不明の多くの犠牲者を供養するための「地震横死塚」が存在している。



善光寺境内にある石碑 (画像:『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2012より)

3、参照先

- ・北原委員報告 2015.10.15
- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2012
- ・善光寺地震松代地震観測所 <http://www.jma-net.go.jp/matsushiro/learning/zenkoji.html>

27、飯田大火とりんご並木

1.遺構等	建築	2.都道府県	長野県飯田市
3.災害種類	火災	4.発生年代	昭和22年(1947)4月20日
5.活用方法			

1、場所

長野県飯田市（北緯 35 度 30 分 50 秒・東経 137 度 49 分 25 秒）



2、災害遺構概要

昭和22年(1947)4月20日に長野県飯田市で発生した大火は、市内中心部の商店街をはじめとした約60万平方メートルが焼失し、建物焼損面積としては戦後最大の火災となった。被害発生要因としては、木造建築の密集や消防設備の不備、市民の防災思想の欠如などが挙げられた。

翌昭和23年(1948)より火災復興が始まり、避難通路の設定や町を四分割する防火帯道路の整備がおこなわれた。また飯田のりんご並木は、かつての「飯田の大火」の復興過程で当時の飯田市立飯田東中学校の生徒達の提案により緑地帯として植樹され、現在まで営々と町のシンボルとなっている。



りんご並木の様子（画像：飯田市ホームページ「飯田りんご並木」より）

3、参照先

- ・飯田市ホームページ「りんご並木」：<http://www.city.iida.lg.jp/namiki/>

28, 濃尾地震と根尾谷断層

1.遺構等	石碑、地形	2.都道府県	岐阜県本巣市
3.災害種類	地震	4.発生年代	明治24年(1891)10月28日
5.活用方法			

1、場所

岐阜県本巣市根尾地域（北緯 35 度 37 分 0 秒・東経 136 度 37 分 11 秒）



2、災害遺構概要

明治24年(1891)10月28日に岐阜県美濃地方西部を震源として濃尾地震が発生した。地震の規模は日本の内陸型地震としては最大のマグニチュード 8.0 であり、岐阜県・愛知県を中心として死者 7,273 人、全壊家屋 142,177 戸と記録されている。

この地震により、地表に総延長 80 キロメートル、変位量 8 メートル、最大上下変位量 6 メートルに及ぶ大規模断層が出現、地震学の研究者の注目を集めた。平成 4 年（1992）3 月に根尾谷断層の保存・展示を目的とする根尾谷地震断層観察館がオープンし、断層のズレを直接観察できる世界初の施設となっている。



根尾谷断層（画像：北原委員報告より）

3、参照先

- ・北原委員報告 2015.10.15
- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2014

29, 細江神社の祇園祭

1.遺構等	神体	2.都道府県	静岡県浜松市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	明応7年8月25日 (1498年9月11日)
5.活用方法	イベント		

1、場所

静岡県浜松市北区細江町気賀 996 (北緯 34 度 48 分 1 秒・東経 137 度 36 分 59 秒)



2、災害遺構概要

明応7年8月25日(1498年9月11日)に発生した南海トラフ沿いの巨大地震と推定されている明応地震の際、淡水湖であった浜名湖が津波によって海と繋がった。この際、浜名湖口新居にあった角避比古神社が流失し神体が気賀に漂着したことにより、気賀郷の氏神として祀られた。細江神社では毎年7月第3日曜日に開催される祇園祭の際、ご神体を乗せた神輿船が奥浜名湖上を回遊し、町内を練り歩く。



祇園祭の様子 (画像 : IN HAMAMATSU.COM より)

3、参照先

IN HAMAMATSU.COM : <http://www.inhamamatsu.com/japanese/>

30, 富士山宝永噴火と火山堆積物

1.遺構等	地形	2.都道府県	静岡県御殿場市
3.災害種類	地震、火山	4.発生年代	宝永4年10月4日 (1707年10月28日)
5.活用方法	防災		

1、場所

静岡県御殿場市（宝永山）（北緯 35 度 20 分 45 秒・東経 138 度 45 分 6 秒）



2、災害遺構概要

宝永4年10月4日(1707年10月28日)、宝永東海・南海地震の49日後に宝永富士山噴火が発生、火山活動は約16日間続き、富士山南斜面に宝永山が形成された。この噴火活動によって発生した推定7億立方メートルの火山礫・火山灰が空中に放出され、西風により富士山東方に降り積もった。噴火による空振と降灰は江戸にまで及んだ。この火山礫・火山灰によって農地の埋没・山林の荒廃がおり、後年小田原藩や幕府の援助にも関わらず、多数の流亡者・餓死者を出した。富士山噴火によって堆積した火山礫・火山灰の詳細な分布の調査から、地層の粒子サイズの変化と古記録の記述から噴火の強弱の変化を比較し、このデータを活用して富士山ハザードマップ検討委員会によるハザードマップが制作されている。



宝永噴火の火山礫・火山灰（画像：『災害史に学ぶ一火山編』より）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-火山編』2011
- ・災害にそなえるNHK <http://www.nhk.or.jp/sonae/column/20131014.html>
- ・「やまかいの四季 No.125」 <http://www.kai.ed.jp/yamakai/yamakai%20125.html>

3 1, 天正地震と液状化痕跡

1.遺構等	地層	2.都道府県	愛知県清須市
3.災害種類	地震	4.発生年代	天正 14 年 11 月 29 日 (1586 年 1 月 18 日)
5.活用方法	資料館		

1、場所

愛知県清須市清洲（北緯 35 度 13 分 4 秒・東経 136 度 50 分 32 秒）



2、災害遺構概要

天正地震は、戦国末期に近畿・東海・北陸にかけての広い範囲で発生した巨大地震であり、山崩れによる帰雲城の埋没、長浜では液状化による集落の水没など、各地に甚大な被害があった。愛知県清須市の清洲城下町遺跡からは、液状化痕跡と名古屋城築城にともなう城下町移転「清洲越し」の際に遺棄された瓦の層が同時に出現しており、天正地震における液状化痕跡と確認できる。この地層の剥ぎ取り標本は、名古屋大学減災館・減災ホールで展示されている。



写真2 歴史地震による液状化痕跡「剥ぎとり展示」

(画像：名古屋大学減災連携研究センターホームページより)

3、参照先

- ・福和委員報告 2015.10.15
- ・名古屋大学減災連携研究センターホームページ：<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=2550>

3 2, 三河地震と深溝断層

1.遺構等	地形	2.都道府県	愛知県額田郡
3.災害種類	地震	4.発生年代	昭和 20 年(1945)1 月 13 日
5.活用方法	防災教育		

1、場所

愛知県額田郡幸田町深溝（北緯 34 度 50 分 11 秒・東経 137 度 9 分 20 秒）



2、災害遺構概要

昭和 20 年(1945)1 月 13 日に発生した三河地震は、東海地方を中心として死者 2306 人の被害があった。深溝断層はこの地震で活断層が隆起した結果形成され、総延長 28 キロメートルに及ぶ深溝断層が存在する深溝断層の中央に位置する愛知県額田郡幸田町に出現した断層路頭は、水田の中央に、最大落差約 1.5 メートル、最高水平横ずれ 1.3 メートルの断層が確認でき、愛知県指定天然記念物に指定されている。



深溝断層（画像：幸田観光協会より）

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2016
- ・幸田観光協会 <http://www.kota-kanko.jp/history/fukouzufault.htm>

3 3, 伊勢湾台風と春日神社鳥居痕跡

1.遺構等	建築	2.都道府県	三重県桑名市
3.災害種類	台風、水害	4.発生年代	昭和 34 年(1959)9 月 26 日
5.活用方法	防災		

1、場所

三重県桑名市本町 46 (北緯 34 度 48 分 8 秒・東経 136 度 43 分 9 秒)



2、災害遺構概要

桑名市の春日神社（正式には桑名神社・中臣神社）の青銅鳥居は、江戸時代初期に伊勢桑名藩主松平定重によって建立され、寛文 7 年（1667）に完成した。この鳥居は昭和 34 年(1959)の伊勢湾台風の際に倒壊した。その際、打ち上げられた荷物船が衝突した傷痕は、翌年の鳥居が修復された際にも、そのままの状態に残されており、現在は三重県指定文化財となっている。



春日神社の青銅鳥居（画像：桑名市教育委員会文化財ホームページより）

3、参照先

・桑名市教育委員会文化財ホームページ

<http://bunka.city.kuwana.mie.jp/html/bunkazai/068.html>

3 4, 寛文近江・若狭地震と「町居崩れ」

1.遺構等	地形	2.都道府県	滋賀県大津市
3.災害種類	地震	4.発生年代	寛文2年5月1日 (1662年6月15日)
5.活用方法			

1、場所

滋賀県大津市葛川町居（北緯 35 度 15 分 15 秒・東経 135 度 52 分 6 秒）



2、災害遺構概要

寛文2年(1662)に琵琶湖西岸を震源として発生した寛文近江・若狭地震は、小浜・大津・京都・大坂などに大きな被害を出した内陸地震であり、被災地域全体で死者 700~900 人、倒壊家屋 4,000~4,800 軒の被害をもたらした。葛川では、町居崩れと呼称される大規模土砂崩れが発生し、崩落土砂によって河道が閉塞されて天然ダムが形成された。これにより同地では約 560 人の犠牲者があった。



町居崩れ跡の現状（画像：『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011より）

3、参照先

- ・北原委員報告 2015.10.15
- ・『災害史に学ぶ-内陸直下型地震編』2011

3 5, 平和池

1.遺構等	地形	2.都道府県	京都府亀岡市
3.災害種類	水害	4.発生年代	昭和 26 年(1951)7 月 11 日
5.活用方法	イベント		

1、場所

京都府亀岡市内丸町 45-3 (北緯 35 度 0 分 51 秒・東経 135 度 34 分 42 秒)



2、災害遺構概要

「平和池」は敗戦後の産業復興として建設されたダムのひとつであったが、昭和 26 年(1951)7 月 11 日未明の集中豪雨により決壊、これにより亀岡市篠町柏原地区では 75 名の死者が出た。この災害体験を地域防災に役立てるため、亀岡市中央公民館では水害資料をデータベース化、公民館内に水害資料閲覧室を設置したほか、避難拠点の公民館の改修整備、防災倉庫の新設、防災備品の配備を実施している。また、災害から 60 年後にあたる平成 23 年 (2011) にはこの災害について記した「記録碑」が建立されるとともに、篠町自治会による歴史探訪などで平和池水害伝承の会」の会員による現地説明会が行われている。



歴史探索で平和池を訪れている人々の様子 (画像：篠町自治会ホームページより)

3、参照先

- ・ 篠町自治会ホームページ

http://shinocho.heteml.jp/shinocho/?page_id=80

36, 「大地震両川口津浪記」の墨入れ供養

1.遺構等	石碑	2.都道府県	大阪府浪速区
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	安政1年11月5日 (1854年12月24日)
5.活用方法	行事		

1、場所

大阪府浪速区幸町3丁目（北緯34度40分9秒・東経135度29分3秒）



2、災害遺構概要

安政1年11月4日・5日に連続して南海トラフを震源とする安政東海地震・安政南海地震が連続して発生した。当時、商業都市として輸送のための運河が多数張り巡らされていた大坂では、5日の南海地震の際に安治川・木津川に津波が侵入し、地震からの避難のために人々が乗り込んだ小舟が押し流されて転覆し、津波だけでも600人以上の死者があった。

大正橋東詰にある「大地震両川口津浪記」は、安治川・木津川の合流点近くに建設され、当時の津波被害の様相や、宝永地震津波でも同様の溺死者があった経験を活かせなかったことなどを後世の人々に向けた教訓を記すと共に、末尾で碑文の文字に毎年墨入れをしてほしいと記されている。今日でも、記念碑保存運営委員会によって、毎年地蔵盆にあわせて石碑を洗い、刻まれた文字に墨を入れるのが年中行事となっている。



供養碑の墨入れ（画像：川島委員報告より）

3、参照先

- ・大阪市市役所ホームページ

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000009171.html>

3 7, 第一次室戸台風被災慰霊祭

1.遺構等	石碑	2.都道府県	大阪府大阪市住吉区
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和9年(1934)9月21日
5.活用方法			

1、場所

大阪府大阪市住吉区 帝塚山西 4-1-35 (北緯 34 度 37 分 4 秒・東経 135 度 29 分 46 秒)



2、災害遺構概要

室戸台風は、昭和9年(1934)9月21日に、京阪神地方を中心として甚大な被害をもたらした台風である。記録的な最低気圧・最大瞬間風速を観測し、高潮被害や強風による建物の倒壊被害によって約3000人の死者・行方不明者を出した。この台風による犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように地域・児童からデザインを公募し、創立100周年にあたる平成20年(2008)9月にこの室戸台風慰霊碑を住吉小学校内に建立した。



住吉小学校内にある室戸台風慰霊碑 (画像：住吉小学校ホームページより)

3、参照先

・住吉小学校ホームページ

<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e731661>

38, 禍福無門の戒め

1.遺構等	石碑	2.都道府県	兵庫県神戸市
3.災害種類	地震	4.発生年代	昭和13年(1938)7月
5.活用方法			

1、場所

神戸市東灘区住吉町観音囃子 1875-3 (北緯 34 度 43 分 29 秒・東経 135 度 15 分 37 秒)



2、災害遺構概要

昭和13年(1938)7月の集中豪雨によって発生した「阪神大水害」では、神戸市内は全ての河川が氾濫し、流木や岩石が混じった泥流が市街地に流れ込み、死者・行方不明者 521 人を出した。特に住吉川流域は六甲山麓の山崩れにより大量の岩石・巨木が流れ込んだために被害が拡大した。(財)住吉学園の庭園には、堆積した岩石を積み重ねて碑を築き、上部には約 30 トンの巨石を据え、高さは水害時の水位と同じくし、末次信正海軍大将により「禍福無門」と揮毫されている。



3、参照先

- ・一般財団法人住吉学園ホームページ：<http://www.sumiyoshigakuen.com/>
- ・消防防災博物館ホームページ：宮澤清治の防災歳時記「一禍福無門の戒め」
<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>

39、近畿・七道諸国の大地震と平城京の震災痕跡

1.遺構等	建築、遺跡	2.都道府県	奈良県奈良市
3.災害種類	地震	4.発生年代	天平6年(734)
5.活用方法			

1、場所

奈良県奈良市雑司町 406-1 (北緯 34 度 41 分 20 秒・東経 135 度 50 分 21 秒)



2、災害遺構概要

奈良時代の聖武天皇在位時、神亀2年(725)の奈良周辺での地震、天平6年(734)に近畿・七道諸国で地震をはじめとして、全国的に干ばつ・飢饉などさまざまな災害が流行した。聖武天皇が仏教による鎮護国家を目指し東大寺及び盧舎那仏を建立したことに代表されるように、平城京遺跡には様々な災害に関連する史跡・遺物が発見されており、平城京側溝跡から発見される土馬は、古代の祭りや雨乞いの祭祀が行われた際に使われたと考えられている。



左：東大寺盧舎那仏像

右：平城京遺跡の側溝跡から発掘された土馬

(画像：奈良県文化財研究所ホームページより)

3、参照先

・奈良県文化財研究所：<http://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2014/08/tanken43.html>

40、 印南町の津波記録

1.遺構等	石碑、古文書	2.都道府県	和歌山県日高郡
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	宝永4年10月4日 (1707年10月28日)
5.活用方法	防災教育		

1、場所

和歌山県日高郡印南町印南 2261 (北緯 33 度 49 分 3 秒・東経 135 度 13 分 5 秒)



2、災害遺構概要

宝永4年10月4日(1707年10月28日)、東海道沖から南海道沖を震源域として宝永地震が発生、南海トラフのほぼ全域にわたってプレート間の断層破壊が発生したと推定され、房総半島から九州にわたる太平洋沿岸に津波が押し寄せ、瀬戸内海にも津波が入り込んだ。

和歌山県印南町印南の印定寺には、この津波で町民 162 人が溺死したことを伝える「高波溺死鎮魂之墓碑」と、犠牲者の戒名を記した「津波溺死零合同位牌」が、津波から十三回忌にあたる享保4年(1719)に供養のために制作した。このように印南町では津波の被害の教訓を語り継いだことにより、147 年後の安政元年(1854)に発生した安政南海地震では津波犠牲者はゼロであったといわれている。

今日、町では南海トラフの巨大地震の発生に備え、印南中学校の生徒達を中心となって津波学習に取り組み、印定寺前に津波伝承板の建設や津波に関する古記録の解説などをおこなっている。



左：高波溺死鎮魂之墓碑



右：津波溺死零合同位牌

(画像：消防防災博物館「高波溺死鎮魂之墓碑」)

3、参照先

- ・消防防災博物館ホームページ：<http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index.cgi>

4 1, 安政東海地震・安政南海地震と「稲むらの火」

1.遺構等	建築	2.都道府県	和歌山県田辺市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	安政1年11月5日 (1854年12月24日)
5.活用方法	防災教育、行事		

1、場所

和歌山県有田郡広川町広 671 (北緯 34 度 1 分 39 秒・東経 135 度 10 分 40 秒)



2、災害遺構概要

安政1年11月5日(1854年12月24日)、安政南海地震が発生した際、和歌山県広村(現・広川町)の庄屋・濱口梧陵が、津波が襲来した後に、生存者が高台にたどり着くことができるように、自身の田にあった藁の山に火をつけて明かりとした。これをもとに作られた物語が『稲むらの火』として知られている。津波後、濱口梧陵は私財を投じて大防波堤建設に着手し、安政2年(1855)2月から安政5年(1858)12月の寛政まで延人員56,736人の村人を雇用することで、津波の被害で荒廃した村からの離散を防いだ。現在、広川町で毎年開催されている津波祭の際には、式典前に地元住民や小中学校の児童・生徒による堤防への「土盛り」が行われている。また、平成19年(2007)には数寄屋造りの旧濱口梧陵邸を活用し、濱口梧陵の偉業を学ぶ「濱口梧陵記念館」と「稲むらの火」や実践的な地震・津波防災を学ぶ「津波防災教育センター」が開館した。



稲むらの火館 (画像：稲むらの火館ホームページより)

3、参照先

- ・稲むらの火館：<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/sansaku.html>
- ・稲むらの火：<http://www.bo-sai.co.jp/inamuranohi.htm>

4 2, エルトゥールル号事件と日土交流

1.遺構等	石碑	2.都道府県	和歌山県串本町
3.災害種類	台風	4.発生年代	明治 23 年(1890)9 月 16 日
5.活用方法	資料館、行事		

1、場所

串本町榎野 1025-26 (北緯 33 度 28 分 13 秒・東経 135 度 51 分 6 秒)



2、災害遺構概要

明治 23 年 (1890)、オスマン帝国の軍艦エルトゥールル号が和歌山県串本町大島の榎野崎東方海上で台風による強風に煽られて座礁・沈没し、船員 587 名が死亡・行方不明となった。通報を受けた大島村河岸の住民は漂着した生存者の救助につとめ生存者 69 名が救出された。現在、串本町では 5 年に 1 度追悼式典が行われるとともに、遭難地点の近くには遭難慰霊碑およびトルコ記念館が建設され、遭難したエルトゥールル号の模型や遺品、写真などが展示されており、遭難事故当時の様子を知ることができる。



左：トルコ記念館

右：トルコ軍艦遭難慰霊碑

(画像：「和歌山県の観光施設」より)

3、参照先

- ・『災害史に学ぶ-風水害・火災編』 2011
- ・和歌山県の観光施設：<http://www.town.kushimoto.wakayama.jp/kanko/sisetsu.htm>

4 3, 天神川水系直轄砂防事業五十周年記念碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	鳥取県倉吉市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和9年(1934)9月15日
5.活用方法			

1、場所

鳥取県倉吉市関金町堀地内（北緯 35 度 21 分 50 秒・東経 133 度 41 分 29 秒）



2、災害遺構概要

昭和9年(1934)、室戸台風により天神川流域で豪雨によって堤防が多くの箇所で決壊し、天神川流域では死者31人を数えた。この災害の復旧は内務省の直轄事業として計画・施工され、昭和11年(1936)には直轄砂防事業が実施され、天神川の堤防の整備率は9割を越え、全国的にも整備の進んだ川となった。石碑は昭和60年(1985)11月16日、事業開始から50年を経た直轄砂防事業を記念し、建立されたものである。



天神川水系直轄砂防事業五十周年記念碑
(画像：国土交通省 中国地方整備局より)

3、参照先

- 国土交通省 中国地方整備局「天神川マップ 史跡・記念碑」
<http://www.cgr.mlit.go.jp/kurayoshi/river/tenmap/m3.htm>

4 4, 浜田地震と震災記念之碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	島根県浜田市
3.災害種類	地震	4.発生年代	明治5年(1872)2月6日
5.活用方法			

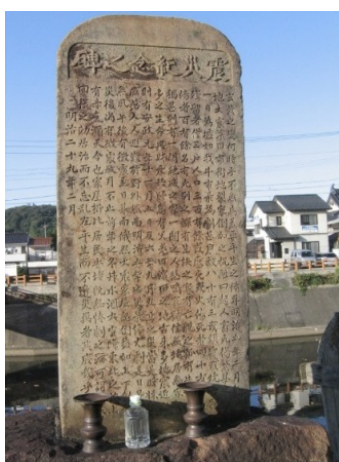
1、場所

島根県浜田市牛市町（北緯 34 度 53 分 52 秒・東経 132 度 4 分 54 秒）



2、災害遺構概要

浜田地震は明治5年(1872)2月6日に浜田沖で発生した地震であり、マグニチュード7.1と推定されている。この地震による被害は家屋全壊4,506棟、家屋焼失230棟、浜田・出雲で551人の死者があった。この地震により国分海岸一帯が隆起して石見畳ヶ浦が形成された。沿岸部では小規模な津波も発生したが、被害は無かった。浜田市牛市町の浜田川側に浜田地震について記した震災記念之碑が存在している。



震災記念之碑（画像：北原委員報告より）

3、参照先

- ・北原委員報告 2015.10.15
- ・浜田市ホームページ

<http://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1414566346534/simple/1nature.pdf>

4 5, 井風呂谷川砂防三号堰堤

1.遺構等	石碑	2.都道府県	岡山県総社市
3.災害種類	山崩れ	4.発生年代	明治 13 年(1880)
5.活用方法			

1、場所

岡山県総社市見延（北緯 34 度 43 分 18 秒・東経 133 度 43 分 33 秒）



2、災害遺構等

明治時代の岡山県内では、宇野圓三郎の建言を受けて明治 15 年(1882)に日本初の岡山県砂防工事施工規則が制定された。高梁川が明治 13 年(1880)に大洪水を起こしたことにより、明治 33 年(1900)ごろに宇部の指導により空積堰堤の築造を開始、松苗を植える工事手法が成果を挙げた。堰堤は平成 14 年(2002)に国登録有形文化財（建造物）に指定され、井風呂谷川砂防公園として整備され、砂防学習ゾーンとして活用されている。



井風呂谷川砂防三号堰堤（画像：総社市公式観光 WEB サイトより）

3、参照先

- ・文化遺産オンライン <http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/167992>
- ・総社市公式観光 WEB サイト
http://www.city.soja.okayama.jp/bunka/kanko/touroku_bunkazai/kuni01.html

4 6, 太田川総水神

1.遺構等	石碑	2.都道府県	広島県広島市
3.災害種類	水害	4.発生年代	昭和 40 年(1965)
5.活用方法			

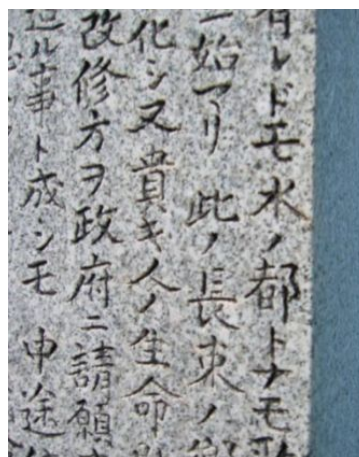
1、場所

広島市安佐南区長束 1-32-16 (北緯 34 度 25 分 45 秒・東経 132 度 27 分 57 秒)



2、災害遺構概要

広島市の平野は、太田川の三角州として形成されており、古くから洪水の被害に悩まされてきた地域である。大正 8 年(1919)や昭和 3 年(1928)の洪水では市内の橋が流される被害があったことを契機に、地域住民によって太田川改修既成同盟が発足し、昭和 7 年(1932)からは国の直轄事業として改修工事が開始、第二次世界大戦を経て昭和 42 年(1967)に太田川放水路が完成した。昭和 40 年(1965)に太田川放水路の通水式が行われたことを記念し、太田川全流域の水之神を安佐南区長束神社に奉納し、太田川総水神として祀っている。



(『水辺の歴史を訪ねて—太田川—』より)

3、参照先

・中国地方公益活動推進会議 地域づくり部会 『水辺の歴史を訪ねて—太田川—』

<http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/otherinfo/waterfront/pdf/waterfront.pdf>

4 7, 周防灘台風と水害潮記念碑

1.遺構等	記念碑	2.都道府県	山口県宇部市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和 17 年(1942)8 月 27 日
5.活用方法	防災教育		

1、場所

山口県宇部市妻崎開作（北緯 33 度 58 分 34 秒・東経 131 度 13 分 11 秒）



2、災害遺構概要

昭和 17 年(1942)8 月 27 日に発生した周防灘台風は、大潮・満潮が重なり、臨海部が壊滅状態になるとともに、堤防が切れて市街地一体が浸水するなど、山口県全体で死者・行方不明者 794 人の被害を出した。宇部市内の妻崎神社境内には、当時浸水した水の高さを示す水害高潮記念碑が建立されている。

周防灘台風の事例を活用した防災教育としては、平成 17 年(2005)には宇部市黒石小学校・中学校校区において、校区住民を中心に自衛隊・消防本部との倒壊家屋からの共同訓練、着衣水泳訓練、非常食試食などを実施、(防災教育チャレンジプラン「せいふていねっと黒石～ひとつの命も失わないぞ～」) 洪水マップにもとづくパソコンジオラマを作成している。



水害高潮記念碑

(画像：宇部フロンティア大学短期大学部「昭和 17 年宇部市風水害アーカイブズ」より)

3、参照先

- ・宇部フロンティア大学短期大学部情報システム学科「昭和 17 年宇部市風水害アーカイブズ」
<http://www.ube-c.ac.jp/toshokan/suigai/index1.htm>
- ・防災教育チャレンジプラン：<http://www.bosai-study.net/cp2007/report.html>

4 8, 徳島県海陽町の慶長・宝永地震津波碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	徳島県海部郡
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	慶長 9 年 12 月 16 日 (1605 年 2 月 3 日)、 宝永 4 年 10 月 4 日 (1707 年 10 月 28 日)
5.活用方法			

1、場所

徳島県海部郡海陽町（北緯 33 度 35 分 32 秒・東経 134 度 21 分 30 秒）



2、災害遺構概要

海陽町鞆浦漁港付近の大岩には、慶長 9 年 12 月 16 日（1605 年 2 月 3 日）に発生した慶長南海地震と宝永 4 年 10 月 4 日（1707 年 10 月 28 日）に発生した宝永地震のふたつの津波についての碑文が刻まれている。慶長の碑面には「南無阿弥陀仏」と刻まれ、その下に「30 メートルの津波が来襲、100 余名の犠牲者が出た。」と刻まれている。宝永の碑面には、「約 3 メートルの津波が 3 度来襲したが、犠牲者はなかった。」と刻まれている。



慶長碑（左）および宝永碑（右）（画像：地震調査研究推進本部より）

3、参照先

- ・地震調査研究推進本部「徳島県の地震・津波碑」

http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/13tokushima/material/tksm_22_3.pdf

4 9, 用水確保のための溜め池

1.遺構等	遺跡	2.都道府県	香川県三豊市
3.災害種類	干ばつ	4.発生年代	
5.活用方法	資料館		

1、場所

香川県三豊市財田町財田中 2355 (北緯 34 度 5 分 58 秒・東経 133 度 46 分 1 秒)



2、災害遺構概要

香川県は瀬戸内海気候に属し、年間降雨量が少なく、また大きな河川も存在しないために水不足となって生活や農業に深刻な影響をきたす地域である。香川県地域では、有史以来用水の確保のために 14,000 余のため池が築かれるなど、用水の確保への努力が行われていた。また昭和 40 年(1965)より吉野川総合開発計画の一環として香川用水が建設され、年間 2 億 4,700 万トンの上水道・農業・工業用水を供給している。香川用水記念公園水の資料館では、香川県の気候やため池築造の歴史の展示や、江戸時代に抹香を焚いて配水時間を決める「香水」、近代に用いられた鍵付き箱の中に入れられた時計などが展示されている。



(三豊市観光協会ホームページより)

3、参照先

- ・香川用水記念公園ホームページ <http://www.mizupark.com/>
- ・三豊市観光協会ホームページ「みとよ」<http://www.mitoyo-kanko.com/>

50, 集中豪雨による土石流

1.遺構等	石碑	2.都道府県	愛媛県新居浜市
3.災害種類	水害	4.発生年代	明治32年(1899)8月28日
5.活用方法			

1、場所

愛媛県新居浜市山根町（北緯 33 度 55 分 7 秒・東経 133 度 17 分 59 秒）



2、災害遺構等

明治 32 年(1899)8 月 28 日、別子銅山周辺で集中豪雨による土石流が発生し、従業員住宅など別子銅山の各施設が崩壊・流失した。その原因としては、薪炭材利用のための樹木の切りたおしや、精錬による煙害により周辺産地がはげ山になっていたことがあり、死者 513 人、負傷者 28 人の被害が出た。新居浜市山根町の瑞応寺境内には、犠牲者の霊を慰めるため「別子銅山遭難流亡碑」が銅山を経営する住友家によって建設された。銅山は昭和 7 年(1932)に廃止となり、開発のために伐採された森林を元に戻すための植林が行われた。



別子銅山遭難流亡者碑（画像：四国防災八十八話より）

3、参照先

- ・四国災害アーカイブス：<http://www.shikoku-saigai.com/>
- ・四国防災八十八話：http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/

5 1, 河戸堰

1.遺構等	建築	2.都道府県	高知県宿毛市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	昭和 21 年(1946) 12 月 21 日
5.活用方法	防災教育		

1、場所

高知県宿毛市出井地区（北緯 32 度 56 分 23 秒・東経 132 度 43 分 51 秒）



2、災害遺構概要

江戸時代初期、土佐藩家老・野中兼山によって宿毛の町全体を洪水から守る堤防（総曲輪）を建築、それまで宿毛を流れていた支流をせき止め、川幅を広げて一本の川にまとめる工事を実施した。河戸堰は万治 1 年(1658)に野中兼山により独特の糸ながし工法と呼ばれる湾曲した形で築堰された。この堰は、昭和 21 年(1946)の昭和南海地震津波の際、堰には波が上らず、河戸堰には被害がなかった。



河戸堰（画像：四国災害アーカイブスより）

3、参照先

- ・四国災害アーカイブス：<http://www.shikoku-saigai.com/>
- ・四国防災八十八話：http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/dmi/web88_0807/

5 2, 水害殉難者之碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	福岡県北九州市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和 28 年(1853)6 月
5.活用方法			

1、場所

福岡県北九州市門司区（東貴船公園）（北緯 33 度 56 分 5 秒・東経 130 度 57 分 4 秒）



2、災害遺構概要

昭和 28 年（1953）、福岡県北九州市は 6 月 4～7 日のジュディ台風、28・29 日の梅雨前線による豪雨により、死者・行方不明 1,013 名を出す水害に見舞われた。特に門司区では、死者行方不明者は 143 名を数え、風師山では各所で山崩れが発生した。水害殉難者之碑は七回忌にあたる昭和 35 年（1960）8 月、遺族・有志などが犠牲者の霊を供養するために建立したものである。



水害殉難者之碑（画像：碑像マップより）

3、参照先

- ・碑像マップ：<http://hizou.30maps.com/map/58888>

5 3, 石井樋と成富君水功之碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	佐賀県佐賀市
3.災害種類	台風	4.発生年代	昭和 28 年(1853)6 月
5.活用方法			

1、場所

佐賀市大和町大字尼寺 3247 (北緯 33 度 18 分 2 秒・東経 130 度 16 分 32 秒)



2、災害遺構概要

佐賀平野を流れる嘉瀬川は、山地部に降った雨が一気に平野部に流れ込む暴れ川であり、古くから治水・利水作業が行われてきた。「石井樋」は、江戸時代初期、鍋島家家臣・成富兵庫茂安(1560-1634)が嘉瀬川に建設した取水口で、多布施川に水を分けることで洪水の抑止と佐賀城下の生活・農業用水の水源としたものであり、現存する日本最古の取水施設と言われている。

明治 21 年(1888)、成富兵庫の治績を称える「成富君水利之碑」が建設され、碑面の題字を副島種臣が書した。現在の石井樋は上流に川上頭首工が建設されその役目を終えたが、平成 5 年(1993)に調査・発掘、平成 17 年(2005)に復元、石井樋公園および「さが水ものがたり館」が整備され、成富兵庫の行跡や佐賀平野と水利の歴史について学べる施設となっている。



左：石井樋公園、右：成富君水利之碑 (画像：「さがの歴史・文化お宝帳」より)

3、参照先

- ・佐賀市地域文化財データベースサイト「さがの歴史・文化お宝帳」<http://www.saga-otakara.jp/>
- ・佐賀市ホームページ：<https://www.city.saga.lg.jp/main/865.html>

5 4, 念仏講まんじゅう

1.遺構等	祭礼	2.都道府県	長崎県長崎市
3.災害種類	土石流	4.発生年代	安政7年(1860)4月9日
5.活用方法	行事		

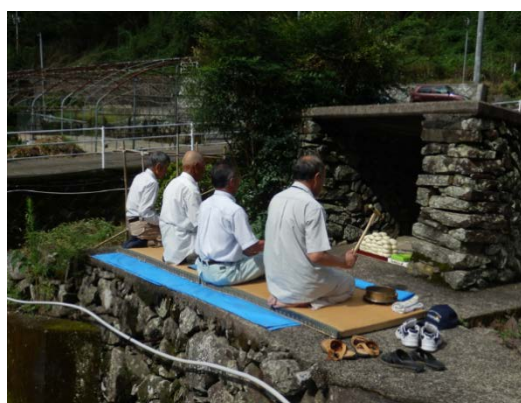
1、場所

長崎県長崎市太田尾町（北緯 32 度 44 分 22 秒・東経 129 度 56 分 7 秒）



2、災害遺構概要

山川河内地区は、三方を山に囲まれ、古くから 35 世帯前後を維持してきた農村集落である。安政 7 年(1860)4 月 9 日朝、大雨による土石流が発生し、家屋 7 軒が全半壊し、33 人が犠牲となった。同地区では行方不明者の捜索を打ち切った翌日の 14 日を月命日として、災害による犠牲者を弔う念仏講まんじゅうを毎月 14 日に集落の全世帯に配る行事を続け、今日まで 150 年間継続している。



左：念仏講まんじゅう 右：お念仏と鉦はり（画像：川島委員報告より）

3、参照先

- ・川島委員報告 2015.8.14
- ・消防防災博物館ホームページ：http://www.bousaihaku.com/cgi-bin/hp/index2.cgi?ac1=B742&ac2=B74201&ac3=6987&Page=hpd2_view

5 5, 長崎豪雨災害

1.遺構等	石碑	2.都道府県	長崎県浜町
3.災害種類	水害	4.発生年代	昭和 57 年(1982)7 月
5.活用方法	街づくり		

1、場所

長崎県浜町思案橋付近（北緯 32 度 44 分 38 秒・東経 129 度 52 分 43 秒）



2、災害遺構概要

長崎豪雨は、昭和 57 年(1982)の集中豪雨により長崎市中心部の都市災害と郊外部で生じた土砂災害であり、死者・行方不明者 299 人、全壊 584 棟、半壊 954 棟、床上浸水 17,909 棟、床下浸水 19,197 棟の被害を出した。この災害では交通機関・ライフラインの寸断、行政の混乱による自衛隊に対する災害派遣要請の遅れといった問題点が露呈した。

豪雨災害を踏まえた都市づくりのあり方が地域代表（自治体、商工団体、議員等）も参加した「長崎防災都市構想策定委員会」において評議された。また、長崎市内に建設された「長崎大水害記念塔」には、長崎市の繁華街・浜町の冠水水位を記されている。



長崎大水害記念塔（画像：九州災害履歴情報データベースより）

3、参照先

- 九州災害履歴情報データベース：<http://saigairireki.qscpua2.com/karte/s08.pdf>

56, 「島原大変肥後迷惑」の津波供養碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	熊本県宇土市
3.災害種類	津波、火山	4.発生年代	寛政4年4月1日 (1792年5月21日)
5.活用方法			

1、場所

熊本県宇土市戸口町（北緯 32 度 39 分 58 秒・東経 130 度 32 分 39 秒）



2、災害遺構概要

島原大変肥後迷惑では、寛政4年4月1日（1792年5月21日）に肥前国島原で発生した雲仙岳の火山活動により眉山が山体崩壊し、その土砂が有明海に流れ込んだことにより発生した津波により島原で10,000人、対岸の熊本で5,000人が死亡した。この災害における供養塔・記念碑は長崎県・熊本県各地に存在しており、玉名郡・飽託郡・宇土郡には「一群一基の塔」と呼ばれる同種の供養塔が建立されている。



寛政の津波供養碑（画像：宇土市デジタルミュージアムホームページより）

3、参照先

・宇土市デジタルミュージアムホームページ

<http://www.city.uto.kumamoto.jp/museum/pro/kinsei/kanseinotunamikuyouhi.html>

5 7, 宮崎堰堤

1.遺構等	建築	2.都道府県	大分県宇佐市
3.災害種類	水害	4.発生年代	昭和 57 年(1982)
5.活用方法	街づくり		

1、場所

大分県宇佐市安心院町東椎屋（北緯 33 度 22 分 13 秒・東経 131 度 23 分 38 秒）



2、災害遺構概要

鶴見岳・由布岳に発する津房川の上流部は、戦川と呼称されており、昭和 15 年(1940)より砂防ダム建設が着工された。昭和 31 年(1956)、前年の由布山崩壊による津房川降灰に対するアーチ型堰堤築造決定をうけて視察中の宮崎孝介大分県砂防課長が転落して亡くなった。これにより、昭和 34 年(1959)に完成した堰堤は「宮崎堰堤」と名付けられ、同地に「宮崎孝介君の殉職の碑」が設置された。



(「土木遺産 in 九州」より)

3、参照先

・一般社団法人九州地域づくり協会「土木遺産 in 九州」

<http://dobokuisan.qscpua2.com/search-list/05ooita/32tsubusagawadamu/>

5 8, 外所地震の供養碑

1.遺構等	石碑	2.都道府県	宮崎県宮崎市
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	寛文2年9月20日 (1662年10月31日)
5.活用方法	祭礼		

1、場所

宮崎県宮崎市木花地区（北緯 31 度 49 分 49 秒・東経 131 度 26 分 11 秒）



2、災害遺構概要

寛文2年9月20日（1662年10月31日）に発生した外所地震では、日向灘で発生した津波が延岡から大隅半島を襲い、現在の宮崎市南部を中心に死者 200 人、全壊家屋は 3800 戸の被害があった。宮崎市木花地区の島山集落では、50 年ごとに供養祭が行われ、その度に新たに供養碑を建立し続けており、現在 7 墓の供養碑が存在している。



50 年ごとに建立される供養碑（画像：九州災害履歴情報データベースより）

3、参照先

・九州災害履歴情報データベース「宮崎県（宮崎市・延岡市・日向市）の現地調査概要」

<http://saigairireki.qscpua2.com/karte/no2.pdf>

59, 桜島噴火と「科学不信の碑」

1.遺構等	石碑	2.都道府県	鹿児島県鹿児島市
3.災害種類	火山	4.発生年代	大正3年(1914)1月12日
5.活用方法	防災		

1、場所

鹿児島県鹿児島市東桜島町17（北緯31度33分27秒・東経130度37分47秒）



2、災害遺構概要

大正3年(1914)1月12日の桜島噴火は、1ヶ月間にわたって爆発が続き、死者58人を出した。また、この噴火による溶岩の流出により桜島と大隅半島が陸続きとなった。東桜島村では、噴火時に測候所の噴火はしないという予測により住民に避難しないよう呼びかけたために遭難者が出たため、「桜島の異変を知ったら測候所を信頼しないで直ちに避難せよ」との趣旨の記念碑があり、別名「科学不信の碑」として知られている。



桜島爆発記念碑（画像：東桜島小学校ホームページ「桜島爆発記念碑」より）

3、参照先

東桜島小学校ホームページ「桜島爆発記念碑」

<http://eniac.sci.kagoshima-u.ac.jp/~kaum/site/sk09.html>

60、八重山地震津波とナーパイ

1.遺構等	祭礼	2.都道府県	沖縄県宮古島、八重島
3.災害種類	地震、津波	4.発生年代	明和8年3月10日 (1771年4月24日)
5.活用方法	行事		

1、場所

沖縄県宮古島・八重島（北緯24度44分16秒・東経125度21分13秒）



2、災害遺構概要

明和8年3月10日(1771年4月24日)の八重山地震では、津波により先島諸島が大きな被害をうけ、別名「明和の大津波」とも呼ばれる。この津波による死者・行方不明者は、宮古島・八重山列島で12,000人にのぼる。

八重山災害をうけて、津波よけや豊作を願う宮古島での伝統祭祀「ナーパイ」、女性達の安寧の祈りと男性の舟漕ぎの模倣儀礼を再現、また明和の大津波で生き残った人たちが松明の明かりを頼りにタコラサー石に集まったという言い伝えを再現する慰霊祭が毎年4月24日に行われている。



左：タコラサー石



右：ナーパイの様子（画像：川島委員報告より）

3、参照先

・川島委員報告 2015.11.17

資料(2) 委員名簿

「災害遺構」の収集及び活用に関する検討委員会

委員名簿

- (座長) 川島 秀一 東北大学災害科学国際研究所教授
- 北原 糸子 立命館大学歴史都市防災研究所非常勤研究員
- 杉本 伸一 (特非)日本ジオパークネットワーク事務局次長
岩手県立大学地域政策研究センター客員教授
- 福和 伸夫 名古屋大学減災連携研究センター長
大学院環境学研究科教授
- 林 勲男 国立民俗博物館文化資源研究センター准教授

(五十音順)

資料(3) 委員回開催日程

- 第1回 平成27年10月15日(木) 10:00～12:00
場所: 中央合同庁舎8号館 4階407-2会議室内
- 第2回 平成27年11月17日(火) 9:30～11:30
場所: 中央合同庁舎8号館 4階407-2会議室内
- 第3回 平成27年12月18日(金) 12:00～14:00
場所: 中央合同庁舎8号館 4階407-2会議室内

本報告書は、内閣府の「「災害遺構」の収集及び活用に関する調査研究業務」を国立大学法人東北大学（災害科学国際研究所）が請け負い、作成したものである。